史跡 城山横穴群

福岡県田川郡福智町所在横穴群の保存整備事業報告

福智町文化財調査報告書

第６集

第１図　福智町と城山横穴群

序

史跡城山横穴群は、平成 26 年の史跡指定後すぐに史跡の公有地化を開始し、その後平成 29 年度から令和 2 年度の保存整備工事の終了まで、国庫補助を受け保存整備事業を行ってまいりました。

本書はその保存整備事業の経過と内容を記録したものです。史跡を適切に保存し、広く活用していくためには継続的な取り組みが不可欠であり、この記録は本史跡を未来につなぐための基礎資料になります。今後も、史跡の保存と活用を両立させながら、多くの皆様に城山横穴群の魅力を伝え、ふくちの誇りとなるよう育てていきたいと考えております。今後とも史跡城山横穴群を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

結びに、今回の保存整備事業にあたりまして、ご指導ご協力を賜りました有識者の先生方、文化庁、福岡県教育委員会、地域住民の方々をはじめ関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

福智町教育委員会

教育長　朝部　英晴

例　言

1．本書は、福岡県田川郡福智町金田所在の城山横穴群における、保存整備事業の報告書である。福智町文化財調査報告書の第 6 集にあたる。

2．保存整備事業は福智町教育委員会が主体となり実施した。史跡公有地化は平成 26 ～ 29 年度保存活用計画を平成 27 ～ 28 年度で策定した。保存整備事業については、整備基本計画は平成 29 年度、基本設計を平成 30 年度に行い、令和元年～令和 2 年度にかけて保存整備工事を実施した。

保存整備事業は国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金、国宝重要文化財等防災施設整備費補助金及び福岡県文化財保護事業費補助金の交付を受けて実施した。

3．本事業の実施に際しては、文化庁、福岡県教育委員会及び史跡城山横穴群保存活用計画策定委員会、史跡城山横穴群整備基本計画策定委員会、史跡城山横穴群整備検討委員会の指導助言を受けた。

4．本事業にかかわる、計画及び設計、施工監理業務は株式会社修復技術システムに委託して行った。

5．本書に掲載した挿図や写真の一部は、株式会社修復技術システム及び工事請負業者が作成・撮影したものを使用した。

6．本書の執筆はⅢ章 2、3 を株式会社修復技術システムが他を井上が行った。編集については小池史哲、長谷川清之の協力を得て井上が行った。

目　次

Ⅰ　はじめに …… 1
1. 史跡の概要 …… 1
2. 保存整備事業に至る経緯 …… 1
(1) 保存整備事業に至る経過と経緯 …… 1
(2) 保存整備事業の事業費 …… 2

Ⅱ　保存整備事業の計画と経過 …… 5
1. 保存活用計画と整備基本計画 …… 5
(1) 保存活用計画の概要 …… 5
(2) 整備基本計画の概要 …… 5
2. 保存整備事業の体制 …… 10
(1) 委員会 …… 10
(2) 指導助言 …… 11
(3) 事務局 …… 11

Ⅲ　保存整備事業の内容 …… 13
1. 城山横穴群整備基本設計 …… 13
(1) 施設配置の検討 …… 13
(2) 動線の検討 …… 13
(3) 斜面保護工の検討 …… 15
(4) 遺構展示の検討 …… 23
(5) サインの検討 …… 27
(6) その他の検討 …… 27
2. 令和元年度の保存整備 …… 28
(1) 敷地造成 …… 28
(2) 斜面保護盛土 …… 34
3. 令和 2 年度の保存整備 …… 40
(1) 広場整備工事 …… 40
(2) 展示施設新築工事 …… 51
(3) 法面遺構保全工事 …… 70

Ⅳ　おわりに …… 89
1. 保存整備工事の成果 …… 89
(1) 敷地造成と斜面保護盛土・広場整備工事 …… 89
(2) 展示施設新築工事 …… 89
(3) 法面遺構防災工事 …… 89
2. 今後の活用と課題 …… 89
(1) 今後の活用について …… 89
(2) 今後の課題 …… 90
コラム　日特建設社内報 2021 年 4 月号 …… 96

挿図目次

第 1 図 福智町と城山横穴群
第 2 図 城山横穴群の位置（1/25,000）…… 3
第 3 図 地区区分（史跡城山横穴群保存活用計画より）…… 4
第 4 図 保存整備の基本理念（史跡城山横穴群整備基本計画より）…… 5
第 5 図 短期整備の範囲（史跡城山横穴群整備基本計画より）…… 7
第 6 図 短期整備でのゾーニング（史跡城山横穴群整備基本計画より）…… 8
第 7 図 短期整備での整備概要（史跡城山横穴群整備基本計画より）…… 9
第 8 図 整備イメージ 1（史跡城山横穴群整備基本設計より）……12
第 9 図 整備イメージ 2（史跡城山横穴群整備基本設計より）……12
第 10 図 施設配置概念図（史跡城山横穴群整備基本設計より）……13
第 11 図 動線 PLAN-A 概念図（史跡城山横穴群整備基本設計より）……13
第 12 図 動線 PLAN-A 動線図（史跡城山横穴群整備基本設計より）……14
第 13 図 動線 PLAN-B 概念図（史跡城山横穴群整備基本設計より）……15
第 14 図 動線 PLAN-B 動線図（史跡城山横穴群整備基本設計より）……16
第 15 図 斜面保護工 遺構面の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）……17
第 16 図 斜面保護工 遺構面の検討 A 案修正の詳細検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）……18
第 17 図 斜面保護工 遺構面の検討 B 案の詳細検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）……19
第 18 図 連続繊維補強土工法標準図（史跡城山横穴群整備基本設計より）……20
第 19 図 斜面保護工 斜面下部の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）……21
第 20 図 斜面保護工 斜面下部抑え盛土の検討 1（史跡城山横穴群整備基本設計より）……22
第 21 図 斜面保護工 斜面下部抑え盛土の検討 2（史跡城山横穴群整備基本設計より）……22
第 22 図 斜面保護工 斜面下部抑え盛土標準断面図（史跡城山横穴群整備基本設計より）……22
第 23 図 遺構の分類……23
第 24 図 遺構展示方法の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）……24
第 25 図 レプリカ展示 素材の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）……25
第 26 図 レプリカ展示 設置方法の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）……26
第 27 図 サインの検討 1 設置の目的と内容（史跡城山横穴群整備基本設計より）……27
第 28 図 サインの検討 2 設置するサインの種類（史跡城山横穴群整備基本設計より）……27
第 29 図 全体平面図（1/1,000）……31
第 30 図 立竹木伐採図（1/1,000）……32
第 31 図 造成平面図（1/1,000）……33
第 32 図 盛土断面図 1（1/200）……37
第 33 図 盛土断面図 2（1/200）……38
第 34 図 排水工平面図（1/1,000）……39
第 35 図 広場整備全体計画平面図（1/1,000）……46
第 36 図 管理通路整備標準断面図（1/200・1/100）……47
第 37 図 標準断面接続部・U 字側溝詳細図（1/30）……48
第 38 図 排水施設構造図（1/30）……49
第 39 図 張芝工等平面図（1/1,000）……50
第 40 図 展示施設全体計画平面図（1/1,000）……61
第 41 図 待受け擁壁構造図（1/200・1/100）……62
第 42 図 展示施設平面図（1/80）……63
第 43 図 展示施設立面図（1/80）……64
第 44 図 展示施設断面図（1/80）……65
第 45 図 レプリカ平面図（1/80）……66
第 46 図 レプリカ断面図（1/80）……67
第 47 図 案内板構造図（1/50・1/10）……68
第 48 図 誘導サイン・制札版・標柱構造図（1/50）……69
第 49 図 法面遺構防災工事全体平面図（1/300）……74
第 50 図 法面遺構保全展開図（1/300）……75
第 51 図 法面断面図 1（1/200）……76
第 52 図 法面断面図 2（1/200）……77

第 53 図 法面断面図 3（1/200）……78
第 54 図 法面標準モデル断面図 1（1/100）……79
第 55 図 法面標準モデル断面図 2（1/100）……80
第 56 図 法面接続部・U 字側溝詳細図（1/30）……81
第 57 図 連続繊維補強土工モデル図（1/50）……82
第 58 図 連続繊維補強土工構造図（1/200 ほか）……83
第 59 図 墓道表記位置図（1/300）……84
第 60 図 横穴墓（A・B 型）詳細図（1/50）……85
第 61 図 横穴墓（C・D 型）詳細図（1/50）……86
第 62 図 横穴墓模型（Y59・Y223・Y68）配置図（1/50）……87
第 63 図 横穴墓模型（Y59・Y223・Y68）詳細図（1/50）……88

写真目次

写 真 1 保存活用計画策定委員会の様子
写 真 2 整備検討委員会現地視察 1
写 真 3 整備検討委員会現地視察 2
写 真 4 施工時の仮囲い 1（1 工区 西から）
写 真 5 施工時の仮囲い 2（2 工区 北西から）
写 真 6 構造物等の撤去 1（1 工区 南から）
写 真 7 構造物等の撤去 2（2 工区 北西から）
写 真 8 モウソウチクの伐採状況（2 工区）
写 真 9 クロガネモチの伐採状況（2 工区）
写真 10 クスノキ剪定状況 1（2 工区）
写真 11 クスノキ剪定状況 2（2 工区）
写真 12 生垣の設置状況 1（2 工区 南から）
写真 13 生垣の設置状況 2（2 工区 東から）
写真 14 表土鋤取り状況（1 工区 南西から）
写真 15 真砂土置換状況（2 工区 南から）
写真 16 地下水湧水の状況（1 工区 北から）
写真 17 割栗石による置換状況（1 工区 南から）
写真 18 盛土築造状況 1（1 工区 南から）
写真 19 盛土築造状況 2（2 工区 北西から）
写真 20 盛土天端状況 1（1 工区 南から）
写真 21 盛土天端状況 2（2 工区 北から）
写真 22 植生シート敷設状況（2 工区 北から）
写真 23 豪雨時の盛土流出状況（1・2 工区 西から）
写真 24 暗渠排水管設置状況 1（1 工区 北から）
写真 25 暗渠排水管設置状況 2（2 工区 西から）
写真 26 U 字側溝仮設状況 1（天端・2 工区 北から）
写真 27 U 字側溝仮設状況 2（法尻・1 工区 北西から）
写真 28 泥溜設置状況 1（1 工区 北から）
写真 29 泥溜設置状況 2（2 工区 西から）
写真 30 耐侯性シート被覆状況 1（1 工区側 北西から）
写真 31 耐侯性シート被覆状況 2（2 工区側 南西から）
写真 32 管理通路工事着工前現況（北から）
写真 33 広場工事着工前現況（南から）
写真 34 管理通路南側施工状況（北から）
写真 35 管理通路北側施工状況（南から）
写真 36 管理通路舗装状況（南から）
写真 37 管理通路竣工状況（南から）
写真 38 待受け擁壁内側（北から）
写真 39 待受け擁壁外側（西から）
写真 40 南側擬木階段施工状況（南から）
写真 41 南側擬木階段竣工状況（南から）
写真 42 北側擬木階段施工状況（西から）
写真 43 北側擬木階段竣工状況（西から）
写真 44 園路側溝（南東から）
写真 45 法尻側溝（南西から）
写真 46 園路集水桝（北から）
写真 47 擬木階段脇と広場の側溝（北東から）
写真 48 縁石・横断防止柵施工状況（南から）
写真 49 縁石・横断防止柵竣工状況（北から）
写真 50 舗装見切り（北から ）
写真 51 舗装施工状況（北から）
写真 52 舗装竣工状況 1（南から）
写真 53 舗装竣工状況 2（南から）
写真 54 門型出入口（北側 北から）
写真 55 門型・身障者対応型出入口（南側、北から）
写真 56 ベンチの位置（南から）
写真 57 ベンチの設置状況（北東から）
写真 58 張芝・植生シート竣工状況（北から）
写真 59 張芝竣工状況（南から）
写真 60 北側広場工事前状況（南から）
写真 61 北側広場竣工状況（北から）
写真 62 北側片開き扉とフェンス（北から）
写真 63 南側片開き扉とフェンス（北から）
写真 64 北側フェンス（南から）
写真 65 南側フェンス施工状況（東から）
写真 66 待受け擁壁施工状況 1（外側、南西から）
写真 67 待受け擁壁施工状況 2（内側、北西から）
写真 68 擁壁南側の雨水桝施工状況（西から）
写真 69 侵入防止用フェンス施工状況（北から）
写真 70 仮設工事縄張り（北から）
写真 71 メッシュフェンス基礎の設置状況（北から）
写真 72 床スラブ配筋施工状況（北から）
写真 73 基礎フーチング部分の配筋（南から）
写真 74 内側壁型枠施工状況（北西から）

写真 75　壁配筋施工状況（北から）
写真 76　壁配筋ピッチ確認作業（開口部脇、北から）
写真 77　壁配筋かぶり厚確認作業（北から）
写真 78　開口部補強施工状況（東から）
写真 79　外側壁型枠施工状況（南西から）
写真 80　屋根型枠施工状況（北から）
写真 81　屋根スラブ配筋施工状況（西から）
写真 82　壁型枠脱型後の補修状況（南東から）
写真 83　天井型枠の支保工（北西から）
写真 84　天井型枠の脱型（北西から）
写真 85　天井型枠脱型後の状況（北西から）
写真 86　軒天型枠の脱型（北西から）
写真 87　屋根スラブ型枠脱型後の状況（西から）
写真 88　屋根スラブアンカー設置状況（南西から）
写真 89　鉄骨屋根の設置状況（西から）
写真 90　模型による事前確認
写真 91　羨門部石組の模型
写真 92　西面窓および横穴墓内部の模型
写真 93　模型による質感の確認
写真 94　土嚢撤去後の横穴墓 Y133（北東から）
写真 95　石材表面の汚れ除去作業風景（北から）
写真 96　町生涯学習課による立会（北から）
写真 97　羨門に残る赤色顔料（北から）
写真 98　レプリカ型取施工状況（北東から）
写真 99　剥離剤の塗布施工状況（北東から）
写真 100　シリコンの準備作業
写真 101　シリコン塗布作業風景（北から）
写真 102　シリコン塗布状況（北から）
写真 103　ガラスマット張り施工状況（北から）
写真 104　シリコンのバックアップ完了状況（北から）
写真 105　シリコンの脱型（北から）
写真 106　土嚢復旧作業風景（北西から）
写真 107　高耐候性土嚢の充填状況（北から）
写真 108　レプリカ製作作業のリモート確認
写真 109　外部下地の組立状況（北から）
写真 110　外部石組の設置状況（北から）
写真 111　内部下地の組立状況（南から）
写真 112　レプリカ現場搬入時の立会
写真 113　仕上げ見本による確認
写真 114　モルタル吹付施工状況（外部　北から）
写真 115　モルタル吹付による成型（内部、南から）
写真 116　ガラス繊維とモルタル吹付による成型
写真 117　水系塗料による塗装 1（外部、北から）
写真 118　水系塗料による塗装 2（内部、南から）
写真 119　外部展示用照明のカバー設置状況
写真 120　湿除機とサイクルファンの設置状況
写真 121　レプリカ竣工状況（北から）
写真 122　南側外灯用の既設埋設管（西から）
写真 123　標柱床掘削状況（南から）
写真 124　標柱基礎砕石施工状況（南東から）
写真 125　解説板基礎コンクリート打設状況（南から）
写真 126　サイン基礎コンクリート打設状況（西から）
写真 127　外灯およびサイン設置状況（南から）
写真 128　遺構面清掃作業風景（西から）
写真 129　親綱設置状況（南から）
写真 130　吹付法枠鉄筋組立施工状況（南西から）
写真 131　吹付法枠鉄筋組立完了状況（西から）
写真 132　シートによる遺構養生（南西から）
写真 133　モルタル吹付完了状況（南西から）
写真 134　裏面・地下排水工の施工状況（北西から）
写真 135　プレート付アンカー工の状況（北から）
写真 136　裏面処理完了状況（西から）
写真 137　連続繊維補強土吹付施工状況（南西から）
写真 138　砂・モルタル吹付プラント（南西から）
写真 139　繊維吹付プラント（北から）
写真 140　連続繊維補強土工竣工状況（南から）
写真 141　カラーモルタルの色調
写真 142　法面遺構保全工事竣工状況（西から）
写真 143　復原模型設置箇所（南西から）
写真 144　作業用足場の設置状況（北から）
写真 145　復元模型の鉄筋溶接（北から）
写真 146　復元模型の下地モルタル塗布（ 北西から）
写真 147　復原模型竣工状況（西から）
写真 148　城山横穴群全景（北から）
写真 149　城山横穴群と香春岳（西から）
写真 150　城山横穴群整備状況全景（南西から）
写真 151　城山横穴群法面遺構整備状況（南西から）
写真 152　南側広場整備状況（南西から）
写真 153　展示施設整備状況（北から）
写真 154　サイン等整備状況（南西から）
写真 155　遺構・園路整備状況 1（西から）
写真 156　遺構・園路整備状況 2（南から）
写真 157　解説板整備状況（西から）
写真 158　園路整備状況（北から）
写真 159　園路の動線（北西から）
写真 160　駐車場整備状況（北東から）

Ⅰ　はじめに

1. 史跡の概要

福岡県福智町に所在する城山横穴群は、福岡県の中央を流れる遠賀川の支流である中元寺川と彦山川の合流部、標高 21m ～ 39m の独立丘陵上に存在する。城山横穴群のある丘陵は彦山川、中元寺川に沿って形成される南北に長い盆地の中央部を縦断する、田川中央丘陵の先端部にあたる。城山横穴群についてはすでに『福岡県遺跡等分布地図（田川市・田川郡編）』（昭和 52 年）や『金田町史』（平成 11 年、現・福智町）に記載があり、『金田町史』では約 40 基の横穴墓の存在と、横穴墓内に赤色顔料が塗られていたとの記載がある。

平成 20 年度から平成 24 年度には福智町教育委員会が範囲および横穴の基数を把握するための調査を実施し、平成 25 年度に調査報告書を刊行した。調査の結果、横穴 222 基、横穴に伴う墳丘 12 基、横穴式石室をもつ円墳 1 基が良好な状態で遺存していることが確認された。地域史解明の糸口となる貴重な遺跡であり、平成 26 年 10 月 6 日付官報にて国史跡に指定された。

2. 保存整備事業に至る経緯

（1）保存整備事業にいたる経過と経緯

年 度	概 要
平成 26 年度	・平成 26 年 10 月 6 日指定告示。平成 27 年 3 月 11 日福智町を管理団体に指定。 ・公有地化の開始（2 件完了）。 ・文化庁への追加史跡指定の意見具申。
平成 27 年度	・公有地化（3 件完了）。 ・範囲・内容確認調査の開始。 ・文化庁への追加史跡指定の意見具申。 ・保存活用計画審議。
平成 28 年度	・公有地化（3 件完了）。 ・範囲・内容確認調査。 ・保存活用計画策定
平成 29 年度	・公有地化（1 件完了）。 ・範囲・内容確認調査。 ・整備基本計画策定→保存整備事業の開始。
平成 30 年度	・範囲・内容確認調査。 ・整備基本設計作成。 ・次年度保存整備工事部分について実施設計。
令和元年度	・範囲・内容確認調査。 ・保存整備工事。 ・次年度保存整備工事部分について実施設計。
令和 2 年度	・範囲内用確認調査の開始。 ・保存整備工事完了。 ・範囲・内容確認調査報告書、整備報告書作成、刊行。

史跡城山横穴群は、平成 26 年に史跡指定を受けたが、史跡地のほとんどは民有地であるとともに、竹林が生い茂るなど、横穴群にとって適正な管理が行われていない状況にあった。そのため、城山横穴群の歴史的価値や構成要素を明らかにし、それに基づき、史跡の保存と管理に対する指針、さらには活用の方向性を踏まえた将来あるべき姿も提示する中で、史跡指定地のみにとどまらず、周辺や町内の歴史、文化、自然環境をも視野に入れた保存活用計画を策定した。

保存活用計画の中で整備基本計画を視野にいれた整備の方針と方向性を示した。また、史跡地の西側宅地部分の公有地化も進め、平成 29 年度には具体的な方向性を決めるため整備基本計画を作成した。その中で、広大な史跡地全体を一度に整備することは困難であるため段階的に行うこととし、公開活用を行う範囲を区切り保存整備工事に進むこととした。

平成 30 年度、整備基本計画の中で検討した範囲において整備基本設計を作成した。この中では、公開活用に当たり保存整備工事の工法や遺構展示の方法などをより具体的に検討を行った。

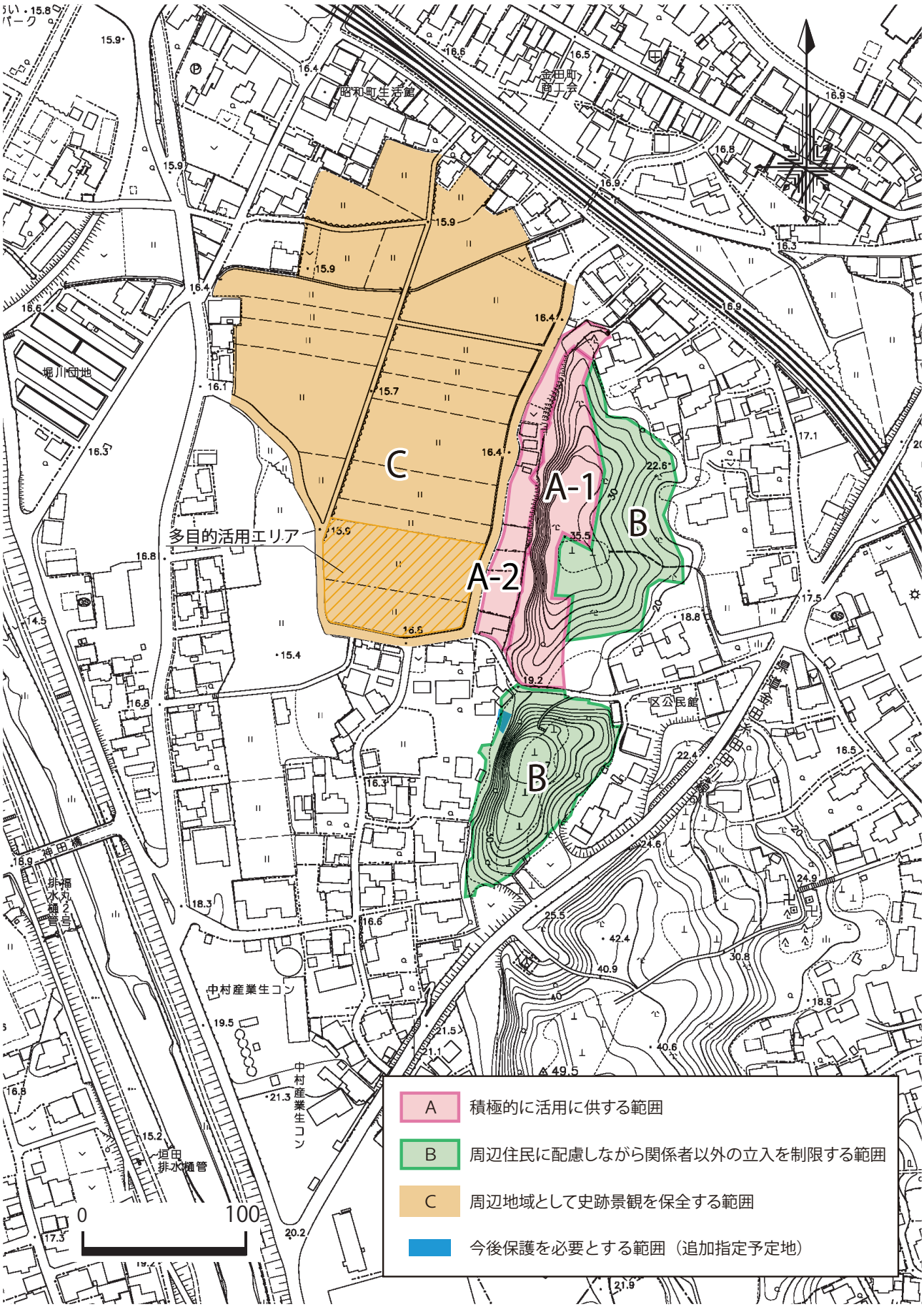
基本設計作成後、次年度工事予定部分の実施設計を行い、令和元年度から令和 2 年度にかけて保存整備工事を行い令和 3 年 4 月 18 日より一般公開を始めた。

（2）保存整備事業の事業費

年度	事業内容	事業費	費用内訳		
			国庫補助	県費補助	町単費
平成 29 年度	整備基本計画策定	4,726	2,361	708	1,657
平成 30 年度	整備基本設計作成 令和元年度分実施設計	16,300	8,000	525	7,775
令和元年度	保存整備工事 令和 2 年度分実施設計	77,003	38,500	525	37,978
令和 2 年度	保存整備工事	123,801	61,900	6,458	55,443
総事業費		221,830	110,761	8,216	102,853

※事業費の単位は千円、千円未満は切り捨て。

第２図　城山横穴群の位置（1/25,000）



第３図　地区区分（史跡城山横穴群保存活用計画より）

Ⅱ　保存整備事業の計画と経過

1. 保存活用計画と整備基本計画

(1) 保存活用計画の概要

1) 計画の目的

城山横穴群の歴史的価値や構成要素を明らかにし、それに基づいて、史跡の保存と管理に対する指針、さらには活用の方向性を踏まえた将来あるべき姿も提示する中で、史跡指定地のみにとどまらず、周辺や町内の歴史、文化、自然環境をも視野に入れた保存活用計画を策定することを目的とした。

2) 計画の概要

福智町及び城山横穴群の概要を整理し、現状と課題について保存管理、活用、整備に分け検討を行った。現状と課題を分析したうえで、保存管理では方向性、地区区分（第 3 図）を行ったのち史跡の価値と構成要素をまとめ、保存管理の方法、現状変更、追加指定および公有化の方針を示した。

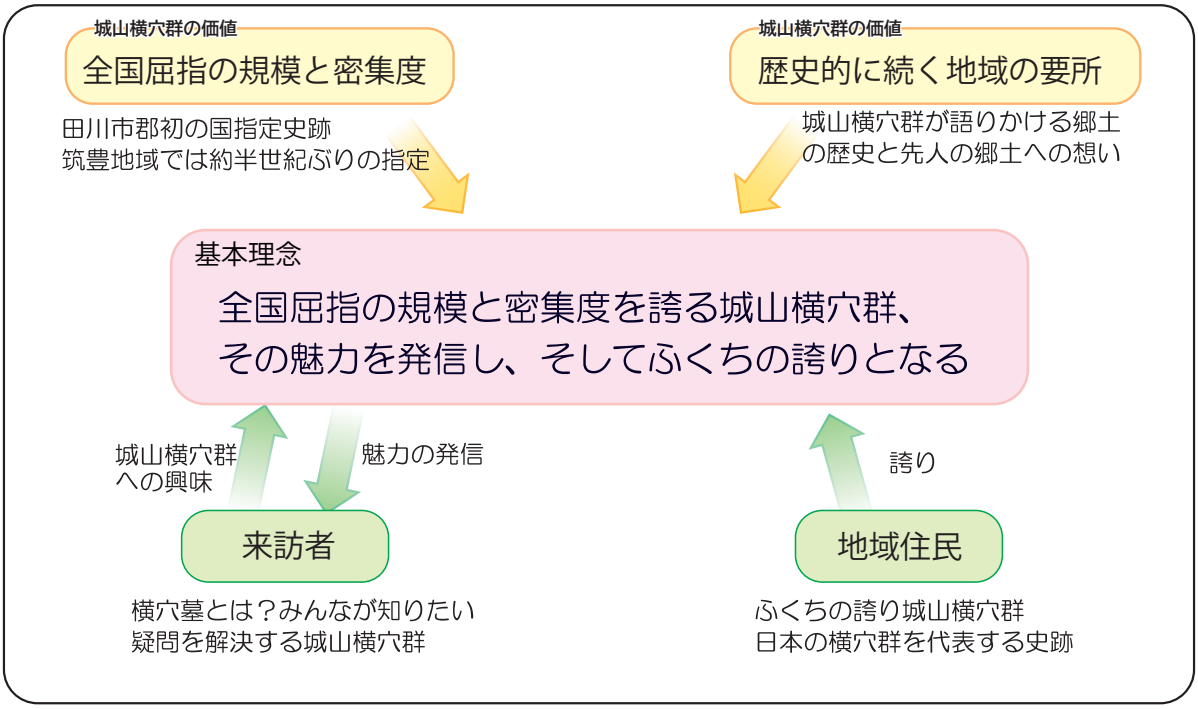
(2) 整備基本計画の概要

1) 計画の目的

整備基本計画策定事業は、福智町に残る貴重な遺跡である城山横穴群を適切に保存し、史跡として整備するため城山横穴群の史跡整備にかかる条件を調査・整理し、城山横穴群を保存・整備・活用する上での基本理念・基本方針を設定する。設定した基本理念（第 4 図）・基本方針に基づく全体整備計画及び個別整備計画を検討することを目的とした。

2) 計画の概要

①基本理念（第 4 図）



第 4 図　保存整備の基本理念（史跡城山横穴群整備基本計画より）

②整備の基本方針

遺構の保存と表現

城山横穴群の特徴である、斜面に造られた 222 基を数える横穴墓や墳丘の保存を図るための整備を行う。さらに、様々な人が正しく理解し、学べる場としての整備を目指す。

●横穴墓や墳丘の保存

・横穴墓内部や羨門部分の崩落、墳丘の崩落や陥没を防ぐための保護を行う。

●適切な樹木管理

・横穴墓や墳丘などの遺構に影響を及ぼす樹木や竹類は、専門家の助言をもとに、伐採・撤去を行う。

・伐採・撤去が不可能な急斜面においては適切な整姿を行う。

・急斜面を保護するため必要な樹木等は適正に管理する。

●横穴墓を正しく理解できる整備

・横穴墓の位置が分かるような顕在化を図るための整備を行う。

・ガイダンス施設等を整備し、城山横穴群の全体を理解できるようにする。

・今後の調査結果を含め、墓道等の復元的な整備も検討する。

斜面の安定化

●横穴墓の保存を行うために、斜面の安定化の整備を行う。

・表土に覆われた斜面の安定化を図り遺構を保護する。

・表土流出の危険性が高い場所は、表土を除去し横穴墓等の遺構の保護を検討する。

・斜面下部には斜面の崩落防止のための盛土等を行う。

管理・活用のための施設

●横穴墓を保存管理するために必要な施設や、史跡を理解するための解説施設等の整備を行う。

・解説サインやガイダンス施設等を整備し、城山横穴群の全体を理解できるようにする。

・西側の多目的活用エリアを使って、駐車場や横穴群全体を見渡せる展望施設などを検討する。

・見学者が横穴墓を観察するための安全な見学ルートを整備する。

・散策や小学生の通学路としても利用できる通路を整備する。

・史跡の管理に必要な標識、説明板、境界標、柵等を整備する。

史跡周辺の地域住民などが気軽に立ち寄れる、オープンな空間として整備する。

③活用の基本方針

歴史学習の場

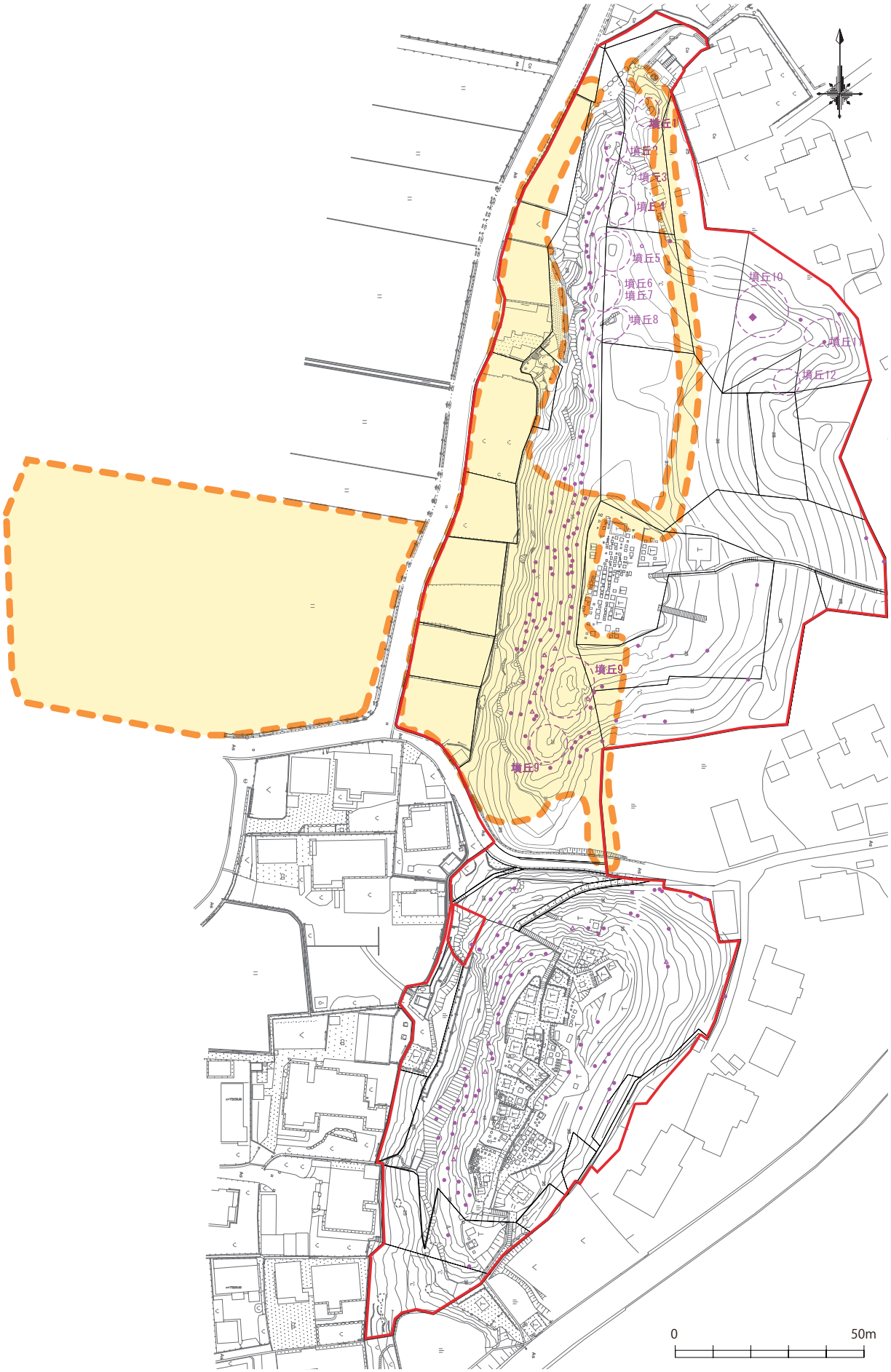
横穴墓の現地見学など、学校教育との連携や生涯学習での利用を図る。

中世城館跡をはじめ、史跡地周辺の神社などを取り込んだ地域の歴史学習の場や、調査時の一般公開などにも利用する。

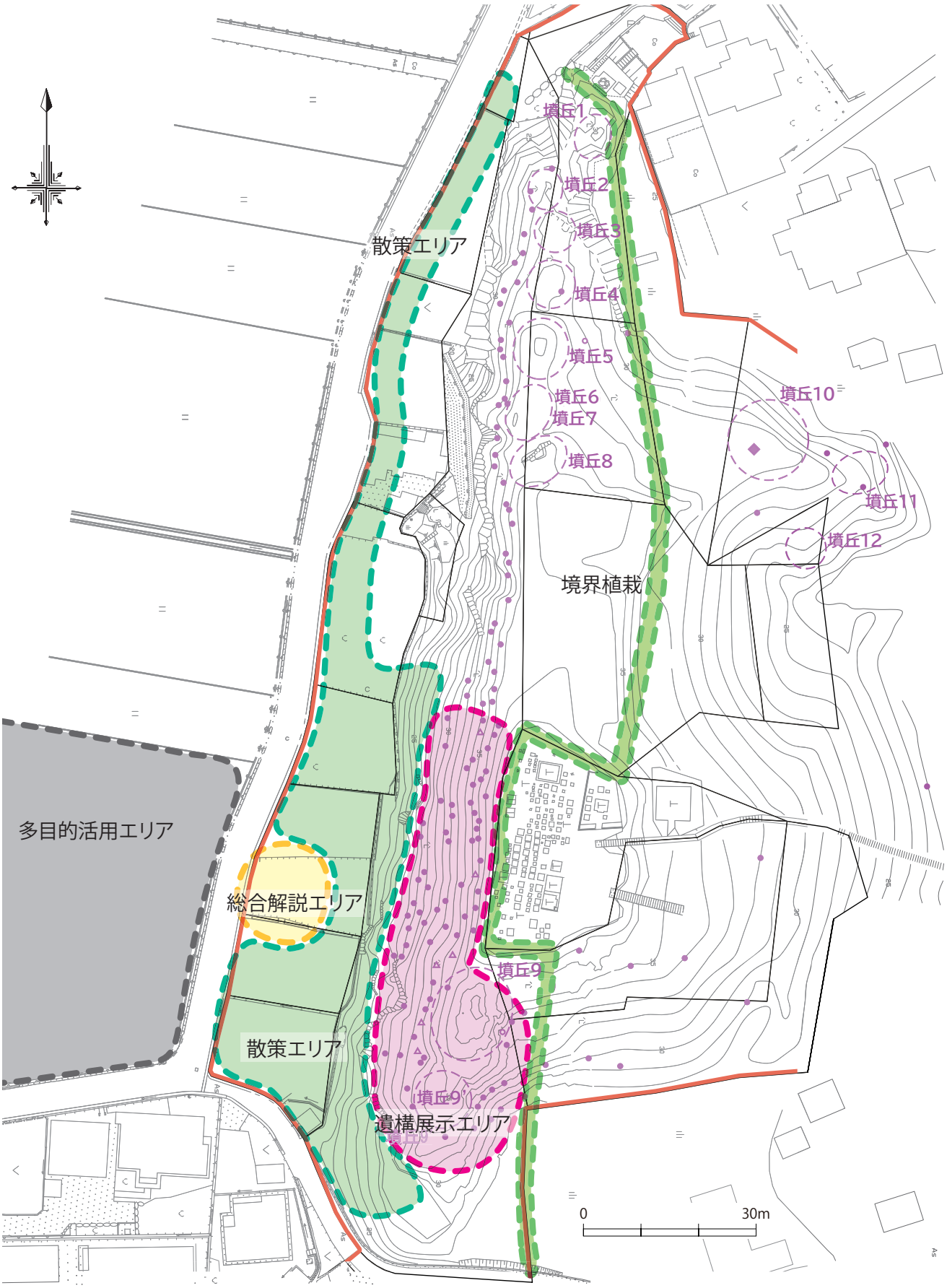
田川地区や筑豊地域などの市町村と連携し、広域的なイベントを開催する。

地域の憩いの場

見学者や地域住民が安心して利用できるよう整備し、いつでも人がいるような空間を目指す。地域の子どもたちが通学路として利用し、住民が散歩を行うなどの日常的な利用に供する場とする。



第５図　短期整備の範囲（史跡城山横穴群整備基本計画より）



第 6 図　短期整備でのゾーニング（史跡城山横穴群整備基本計画より）

第７図　短期整備での整備概要（史跡城山横穴群整備基本計画より）

4）段階的整備の考え方（第 5 図）

史跡城山横穴群は、史跡指定地が約 2.3ha と広く、北側丘陵は南北に約 200 m、南側丘陵は約 140 m、斜面の高低差は約 20 mに及び、横穴墓は 222 基を数える。横穴墓がある地層は比較的脆く急峻な斜面地もあるため、全域を整備するにはかなりの期間が必要である。

一方で、地域住民が史跡の価値を理解し、「ふくちの誇り」としてもらうためにも、早期の公開が望まれる。

そこで城山横穴群整備基本計画では史跡内を区分し、短期整備と中長期整備に分け、積極的に活用に供する短期整備範囲の検討を行った（第 5・6・7 図）。

2. 保存整備事業の体制

(1) 委員会

●史跡城山横穴群整備基本計画策定委員会（平成 29 年度）

策定委員

委員長	小田富士雄	福岡大学名誉教授（考古学）
委 員	井 上　晋	元九州大学准教授（森林生物）
委 員	林　重 徳	佐賀大学名誉教授（地盤工学）（平成 29 年 10 月まで）
委 員	重 藤 輝 行	佐賀大学教授（考古学）
委 員	長谷川清之	福智町文化財専門委員（地元有識者）
委 員	福 田　昌	金田一区代表（地元郷土史家）
委 員	末 次 大 輔	佐賀大学准教授（地盤工学）（平成 29 年 12 月から）

●史跡城山横穴群整備検討委員会（平成 30 年度から令和 2 年度）

策定委員

委員長	小田富士雄	福岡大学名誉教授（考古学）
委 員	井 上　晋	元九州大学准教授（森林生物）
委 員	重 藤 輝 行	佐賀大学教授（考古学）
委 員	長谷川清之	福智町文化財専門委員（地元有識者　平成 31 年 3 月まで）
委 員	福 田　昌	金田一区代表（地元郷土史家）（平成 31 年 3 月まで）
委 員	末 次 大 輔	佐賀大学准教授（地盤工学）（平成 31 年 3 月まで　4 月より宮崎大学教授）
委 員	阿 部 重 信	金田一区代表（金田稲荷神社宮司）（平成 31 年 4 月から）
委 員	山 口 譲 治	福智町文化財専門委員（地元有識者　平成 31 年 4 月より）

（2）指導助言

文化庁

文化財調査官　五 島 昌 也（文化庁文化財部記念物課・現文化財資源活用課　整備部門）

文化財調査官　中 井 將 胤（文化庁文化財部記念物課・現文化財資源活用課　整備部門）

福岡県教育庁総務部文化財保護課

企画係

技術主査　入佐友一郎（平成 30 年 3 月まで）

技術主査　宮地聡一郎（平成 30 年 3 月まで）

福岡県教育庁教育総務部文化財保護課（平成 30 年 4 月から）

文化財保護係

係長　　入佐友一郎（令和 3 年 3 月まで）

係長　　岸 本　圭（令和 3 年 4 月から）

技術主査　下 原 幸 裕

（3）事務局

福智町教育委員会

教育長　　辻 村 哲 弥（令和 2 年 4 月 19 日まで）

朝 部 英 晴（令和 2 年 4 月 20 日から）

生涯学習課

課 長　　谷 川 信 行（令和 3 年 3 月まで）

澤 井 秀 孝（令和 3 年 4 月から）

課長補佐　松 田 由 紀（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

社会教育係

係 長　　前 川　司（平成 29 年 9 月まで）

奥　一 幸（平成 29 年 10 月から）

野 村 和 貴（平成 30 年 4 月～平成 31 年 4 月）

仲 村 浩 美（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月）

末 永 康 彦（令和 3 年 4 月から）

主 査　　豊 田 祐 香（令和 2 年 7 月から）

井 上 勇 也（担当）

主 事　　斉 藤 亮 磨（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

小 池 史 哲（嘱託・平成 31 年 4 月より会計年度任用職員）

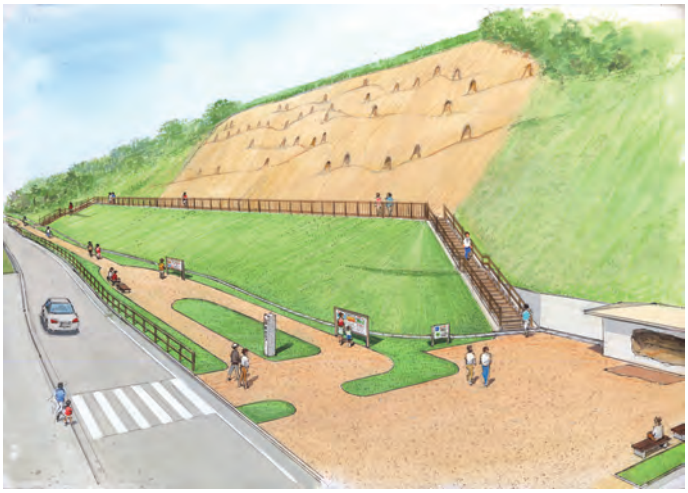
長谷川清之（嘱託・平成 31 年 4 月より会計年度任用職員）

写真１　保存活用計画策定委員会の様子

写真２　整備検討委員会現地視察１

写真３　整備検討委員会現地視察２

第８図　整備イメージ１（史跡城山横穴群整備基本設計より）



第９図　整備イメージ２（史跡城山横穴群整備基本設計より）

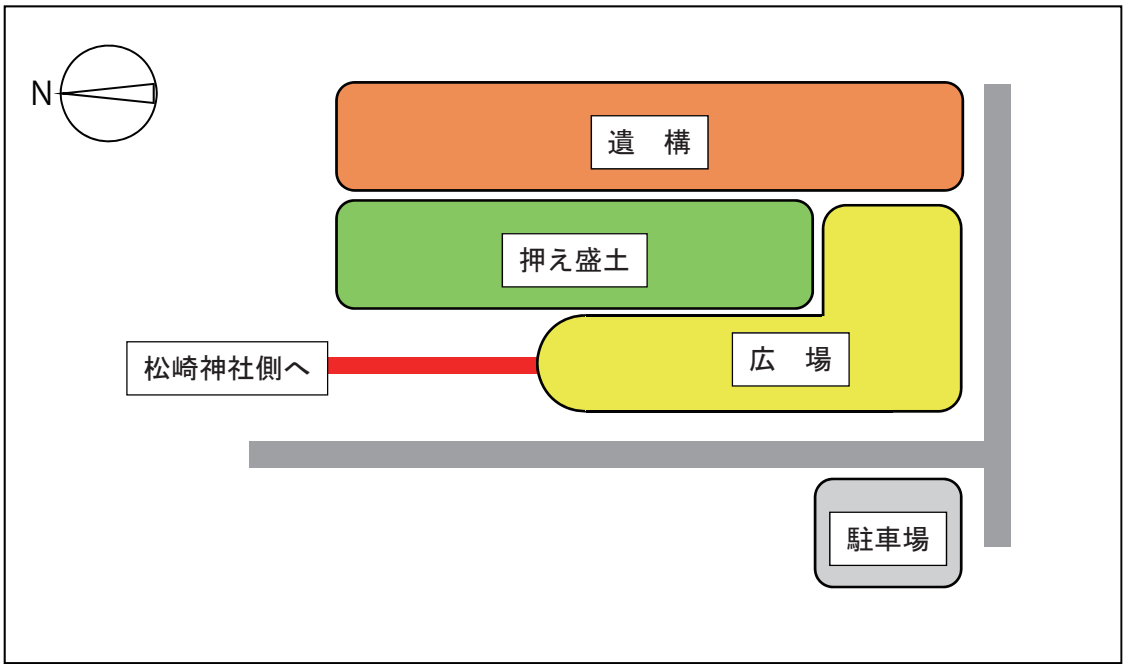
Ⅲ　保存整備事業の内容

1. 城山横穴群整備基本設計

(1) 施設配置の検討

基本計画では、計画地斜面の上部に遺構があり下部は盛土により安定を図ることになっている。下部を押さえ盛土とした場合、盛土の安定勾配を考慮すると天端幅も合わせて 15 m前後の幅を盛土が占めることが想定される（盛土高 5 m、法面勾配 1：2 程度を想定）。計画地は南北に長い狭小地であり、園路も設けることを考えるとガイダンス広場は十分な面積が確保できない恐れがある。そのため広場としての機能は基本計画で「広場」とのみ指定されている場所付近での整備を検討し、ガイダンス広場は必要な情報を提供する場として整備する。

上記の方針より施設配置は下記の施設配置概念図（第 10 図）を元に進めることとした。

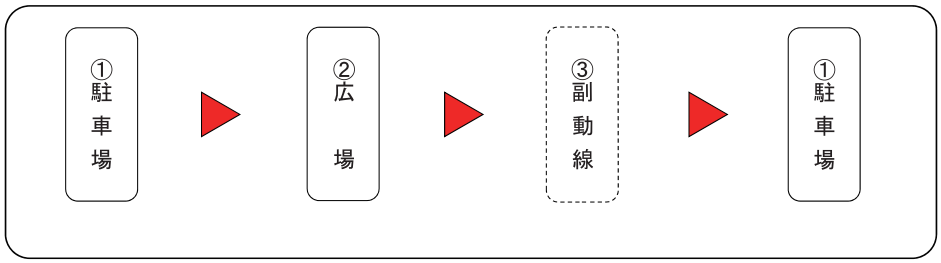


第 10 図　施設配置概念図（史跡城山横穴群整備基本設計より）

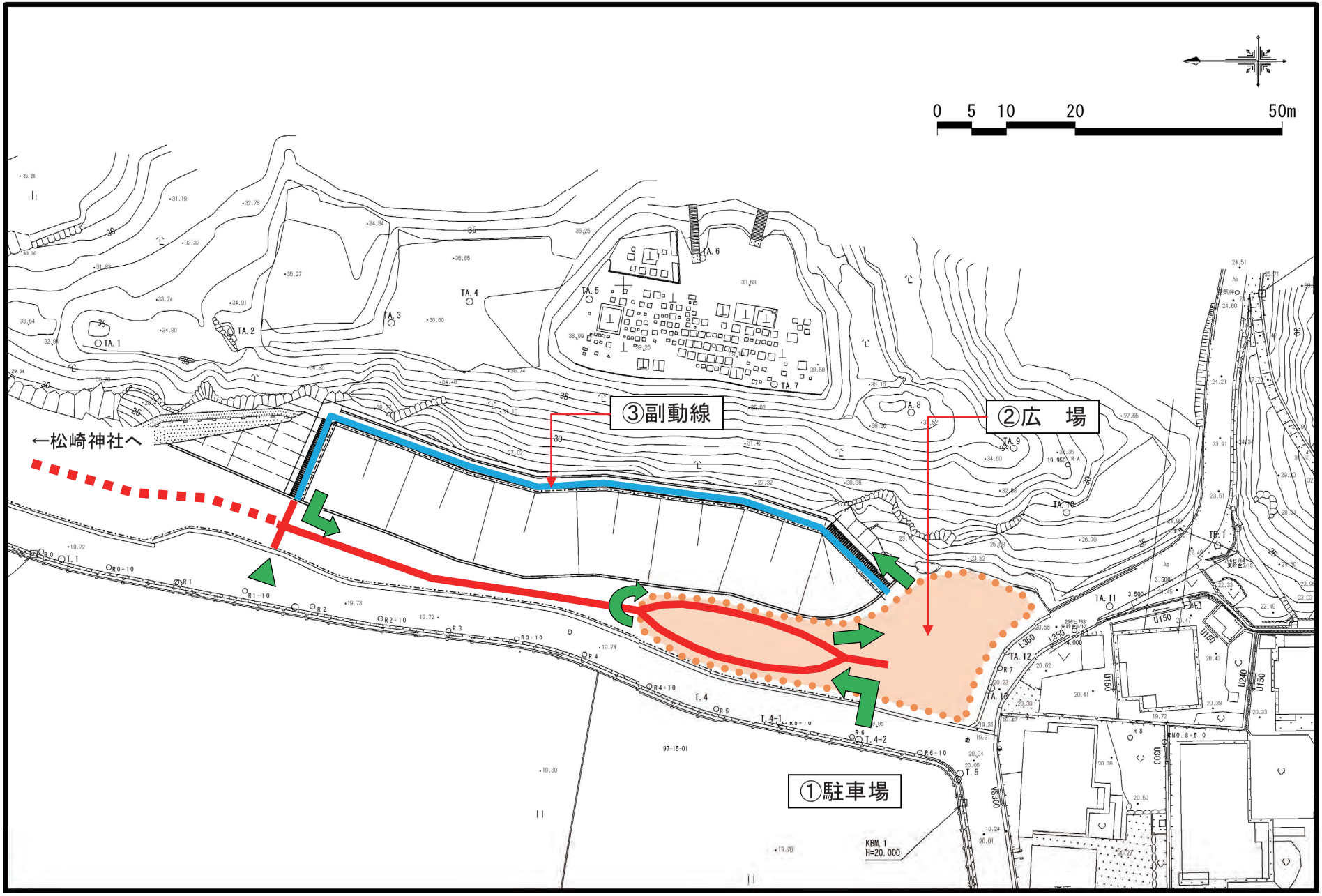
(2) 動線の検討

1) PLAN－A

PLAN－A（第 11･12 図）は、斜面に整備される横穴群正面の広場で整備地の全容等を確認した後、個別解説やレプリカによる横穴墓の構造等を理解し、その後希望者は副動線へ進み横穴群を間近で見学してもらう案である。



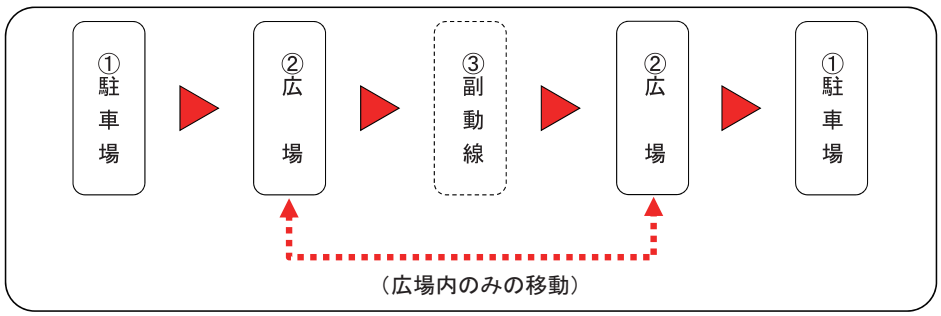
第 11 図　動線 PLAN-A 概念図（史跡城山横穴群整備基本設計より）



第 12 図　PLAN-A 動線図（史跡城山横穴群整備基本設計より）

2）PLAN－B

PLAN－B（第 13・14 図）は、広場のレプリカなどにより横穴墓の構造等を理解した後、副動線へ進み、斜面の横穴墓を見学した後、広場へ戻り総合解説による整備地内の横穴群の全容等を確認する案である。



第 13 図　動線 PLAN-B 概念図（史跡城山横穴群整備基本設計より）

3）見学者の動線

見学者の動線は、計画地の地形及び駐車場の位置からある程度限定されるため、比較検討案の違いはガイダンス部から横穴群を確認する順番である。

PLAN -A（第 11・12 図）は駐車場より史跡内に入った後、そのまま広場で横穴群を確認するが、PLAN－B（第 13・14 図）ではレプリカの見学から盛土上の通路へ上がって個別の横穴墓を見学した後、広場へ降りてきて横穴群の全容を確認する。

検討の結果、計画地は駐車場から整備された横穴群が一目で分かる状況であり、見学者に対して目の前の景観に対する解説・説明を来場してすぐに提供する方が好ましいとの結論に至った。

検討結果を踏まえ、総合的な解説を最初に見て、レプリカで横穴墓の構造等を理解し、横穴墓をまじかに見学していくPLAN－Aを計画案とした。

（3）斜面保護工の検討

基本計画に示された短期整備遺構展示エリアは、発掘調査のために表土鋤取りが行われている。その結果、現況は遺構面が露出した状況であり、遺構の保護を行う必要がある。また、「福智町ハザードマップ」では計画範囲が「土砂災害特別区域・急傾斜地の崩壊」、「土砂災害警戒区域・急傾斜地の崩壊」に設定されている。

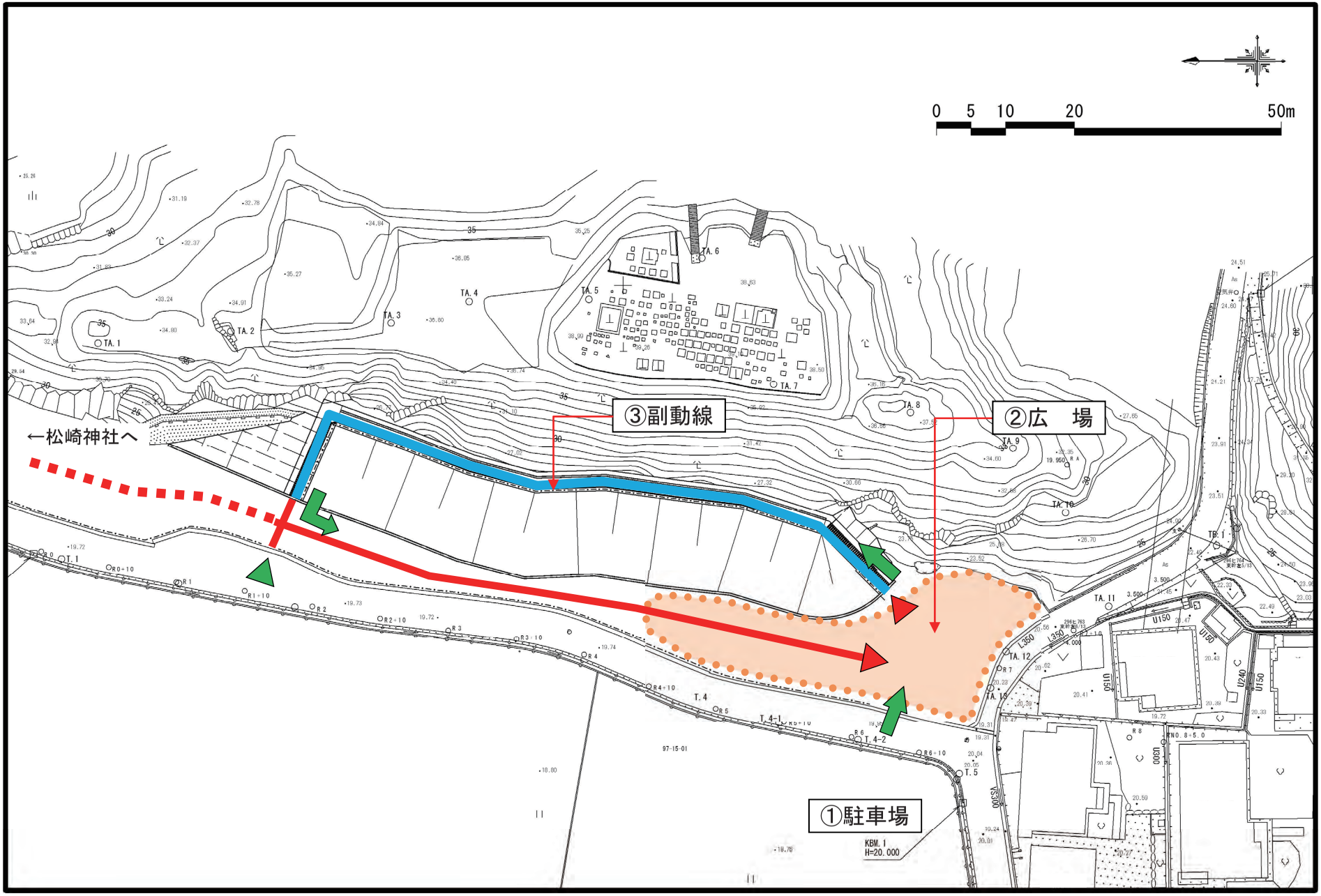
上記の 2 点より、当該対象地では遺構の保護と傾斜地の崩落防止の観点から斜面安定化を図る必要がある。あわせて史跡地内で行われる整備であるため、遺構の保護を主とし防災面にも十分対応できる工法の選定を行うこととした。

1）検討項目

①斜面上部（遺構面）の検討（第 15 ～ 18 図）

遺構面が露出した状況下では風化や劣化が進む恐れがあるため盛土等の保護層を設けることが一般的である。保護層となる部分の厚さは工法によって異なるが、1：1 の急斜面である事を考慮し、技術的に確立されていることが客観的に示されるA、B、C案の工法の比較検討を行った（第 15 図）。

A案では完成後植物の成長により横穴が見えなくなる恐れがあるため、植栽工の代替工法を検討し



第 14 図　PLAN-B 動線図（史跡城山横穴群整備基本設計より）

	イメージ写真	概　　要	特　　徴	材　　質	価格（㎡）
A		【連続繊維補強土工法】 砂質土とポリエステルの連続繊維を混合したものを斜面に吹付け、斜面に土の構造体を構築する工法。 構造体はアンカーにて地山との一体化を図る。 表面は緑化を行い、景観への配慮と法面の崩壊防止を図る。 ※NETIS 登録実績あり	【遺構保護】 保護層を厚く確保できる 【耐久性・維持管理】 先行事例で大きな問題は確認されない 【施工性】 小規模なプラントで施工可能 【景観性】 表面に緑化等を行う必要がある	本体：連続繊維混合砂質土 表層：植栽	￥17,000.－
B		【自然色防草土吹付工法】 綿状のリサイクル竹繊維材を混合した真砂土を斜面にラス網を敷設後吹き付ける工法。 オーバーハングしている崖面での施工実績がある。 全てが自然由来の素材であり環境負荷が極めて小さい。 ※NETIS 登録実績あり	【遺構保護】 保護層は表層程度の厚みとなる 【耐久性・維持管理】 自然土工法なので密な維持管理が必要 【施工性】 小規模なプラントで施工可能 【景観性】 防草効果があり横穴築造時の景観が創出できる。	本体：自然色防草土	￥6,000.－
C		【自然透水型真砂土工法】 真砂土と混和剤を混合し敷設する工法。 透水性に優れており史跡での使用実績も多い。 小規模な墳丘の復元、保護の実績がある ※NETIS 登録実績あり	【遺構保護】 保護層を厚く確保できる 【耐久性・維持管理】 透水性があり雨水による表層の破損が少ない。 【施工性】 大規模な傾斜地での実績が無い 【景観性】 防草効果があり横穴築造時の景観が創出できる。	本体：自然透水型真砂土	￥6,000.－
	総合評価	各プランに一長一短がある。各々のプランをそのまま採用する事は難しいので、傾斜地での施工実績があるＡ・Ｂに候補を絞ってさらに検討を進める。			

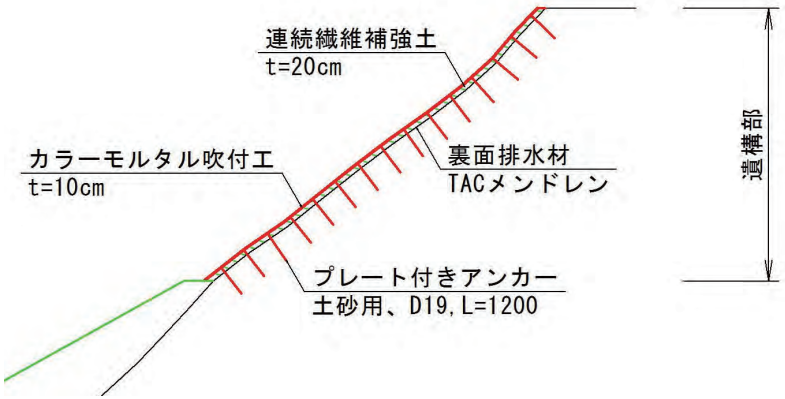
※NETIS　国土交通省が新技術の活用のため、新技術に関わる情報の共有及び提供を目的として整備した新技術情報提供システム

第 15 図　斜面保護工　遺構面の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）

Ａ案修正案　法面保護用連続繊維補強土工法＋カラーモルタル吹付工法

イメージ写真

標準断面図



【工法解説】

基層には法面保護用連続繊維補強土工法を採用し、表層にはカラーモルタル吹付工法を用いた案。

法面保護用連続繊維補強土工法とは、砂質土とポリエステルの連続繊維を混合し斜面に土構造物を構築する工法である。地山にアンカーを打ち込むことで地山との一体化を図る。

表層のカラーモルタル吹付工法は、景観性に配慮して色粉と短繊維を混合した着色モルタルを吹付けるものである。　評価：◎

【遺構保護・景観性】

連続繊維補強土工法に用いる土は砂質土なので、補強土自体が保護盛土の役割を兼ねる。そのため、保護盛土の崩落やすべり、流出などは発生しない。

土構造物は擁壁と同等の強度を有するので遺構面は強固に保護される。

一般的には緑化を図る工法であるが、植生用土の吹付をカラーモルタル吹付に置き換えることにより遺構築造当初を思わせる風合いを創出できる。

粕谷横穴群（静岡県函南市）、市ヶ尾横穴古墳群（横浜市）に用いられている　。　評価：◎

【施工性】

山裾部に 5m×45m程度のプラントが設置出来れば施工可能。

施工に際しては山頂部に吹付作業用のアンカーを打設する必要がある（アンカーは遺構を避けて設置可能）。

クレーンやリフトによる吹付作業は安全性を損なうので行わない。

複合工法になるので、補強土とモルタルの２回吹付を行う。　評価：◎

【耐久性】

表層にはモルタルの収縮による軽微なひび割れが発生するが、構造体その物の耐久性に問題は生じない。

土構造物は擁壁と同等の強度を有するので遺構面は強固に保護される。

地山と土補強土の間にはシート状の排水材を設置するので浸透水の影響もない。　評価：◎

【経済性】

1 ㎡当り¥30,000.-（標準工法の場合）　評価：○

【維持管理】

基本的に維持管理は不要。表面の汚れが著しい場合は状況により清掃を行う。　評価：◎

【総合評価】

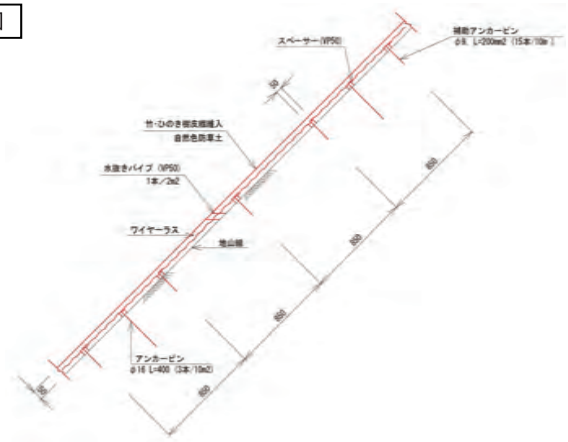
初期費用は高いが、遺構の有るべき姿の再現性、遺構面の保護、維持管理費用の軽減等を総合的に考慮した場合工法Ⅱより適切である。

第 16 図　斜面保護工　遺構面の検討　Ａ案修正の詳細検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）

Ｂ案　自然色防草土吹付工法

イメージ写真

標準断面図



【工法解説】

自然土と綿状竹短繊維を混合した自然色防草土を、ラス網を敷設後吹き付ける工法。
にがり成分より抽出された低アルカリの酸化マグネシウムにより基盤材が固化する。
結束材となる竹短繊維材は里山保全活動で切り出された竹材を用いるリサイクル品である。
施工後は概ね 10 年以上の雑草抑制効果が見込まれ、基材の土の色がそのまま残る。
全ての材料が自然由来であり環境に極めて優しい工法である。
遺構面の保護よりも土を用いた仕上りの風合いを重視している。　評価：◎

【遺構保護・景観性】

史跡での整備例として乗場古墳の外周壁面整備に用いられている。
現在の所、大きな問題は発生しておらず、崖面の傾斜が庇状になっている様な所でも崩落等は確認されていない。
基材がそのまま保護盛土の役割を果たすので改めて保護盛土を行う必要はない。
自然土工法なので周辺の景観に違和感なく調和する。遺構築造当初を想像させる風合いを創出できる。
評価：○

【施工性】

長さ 20ｍ程度のヤードがあれば施工可能。
施工に際しては山頂部に吹付作業用のアンカーを打設する必要がある（アンカーは遺構を避けて設置可能）。
クレーンやリフトによる吹付作業は安全性を損なうので行わない。　評価：◎

【耐久性】

自然土を用いる工法なので経年変化によるひび割れの発生は免れない（概ね５年程度）。
自然色防草土は透水性を有するので浸透水は速やかに排出される。
ラス網を用いているので全体的な剥落はない。　評価：○

【経済性】

1 ㎡当り¥9, 000. －（標準工法の場合）　評価：◎

【維持管理】

ひび、割れが発生した場合には補修が必要。　評価：○

【総合評価】

初期整備費用は安価だが、遺構保護と維持管理面において工法Ｉに劣る。

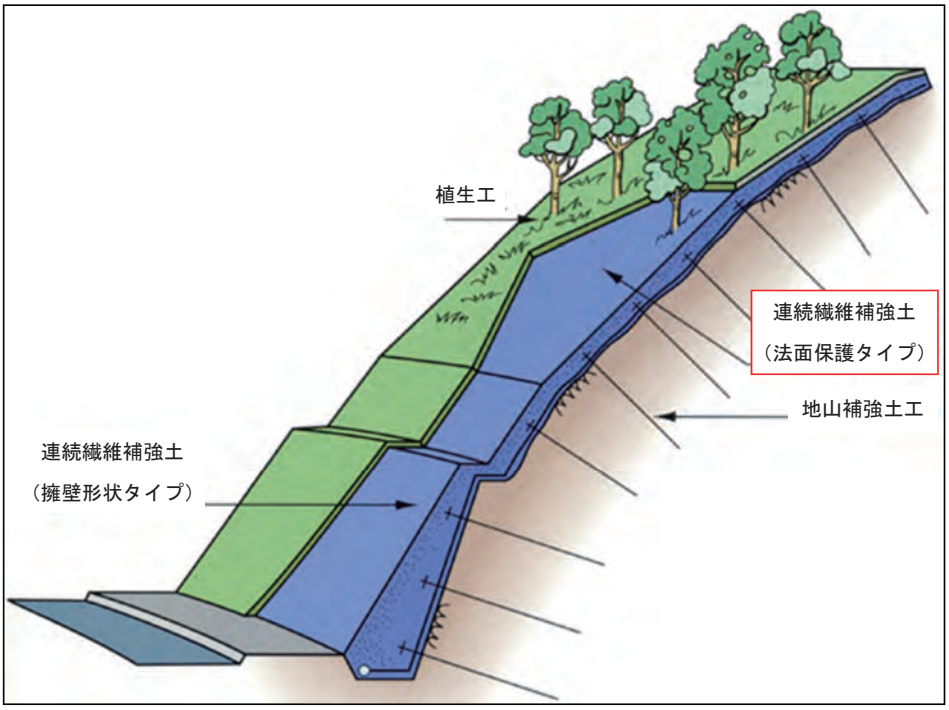
第 17 図　斜面保護工　遺構面の検討　Ｂ案の詳細検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）

なければならない（第 16 図）。通常では、急斜面に対する施工であり、経年により緑化を達成している。

城山横穴群では、施工例のように緑化が進んだ場合、横穴墓が隠れるため表層の緑化工は採用できない。今回の整備では山肌の色合の調整が可能であること、雨水の浸透をある程度防げること、補強土への負荷が少ないことから表層にカラーモルタルの吹付を行うことでA案の修正を行った。

C案は透水性があり小規模な墳丘等の実績はあるが、大規模な傾斜地での実績が無いことから採用しないこととし、残る修正したA案とB案で比較検討を行った（第 16・17 図）。B案（第 17 図）は、横穴墓築造当時は表層が露呈した斜面であったと思われる風景を表現できる工法であるが、ひび割れによる大規模な補修等も必要となることが予想されるため採用しないこととした。

検討の結果、遺構の保護層を十分に確保でき、斜面の安定化の実績もある。表面をコンクリート吹付にすることにより耐久性も望めることから、A案修正案（第 1 図）を採用することとした。



第 18 図　連続繊維補強土工法標準図（史跡城山横穴群整備基本設計より）

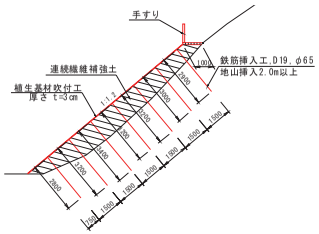
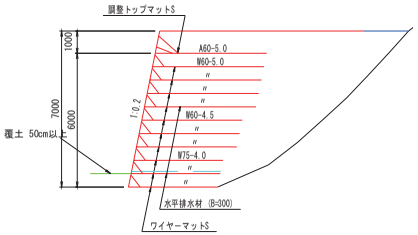
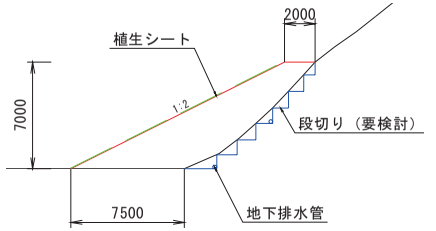
②斜面下部の検討（第 19 ～ 22 図）

斜面の下部は横穴墓が存在しないため、斜面の安定化を主とした工法を選定する。斜面下部は、基本計画により盛土工とするが、同様の効果がある他工法との比較検討を行い、優位性を確認する（第 19 図）。工法選定にあたっては、機能面を重視し経済性に優位であるものを選択することとした。

基本設計ではレプリカ等に費用が掛かるため、経済性に優れる盛土＋法面保護工法を主に検討した。盛土の高さは横穴墓 Y-213 を基準とし、これが盛土で隠されないように設定すると、広場から概ね 6 mの高さとなる。盛土は砂質土の安定勾配から 1：1.8 ～ 2.0（第 20 図）となるが、盛土材料 w を真砂土とした場合、粒度等の詳細が明らかでない点、また安定を図る点から 1：2.0 を採用した。

盛土天端を通路や柵、排水施設等を考慮して幅 3.5 mと設定した場合、同地点での盛土高 6.3 m により盛土幅は 12.6 mとなるが、道路との離隔は 3.5 m確保できる（第 21 図）。一般的な園路の幅員は 2 m程度であるため十分な余地が確保される。

検討の結果、斜面下部の工法は一般的な土木工法である盛土＋法面保護工法を選択した。

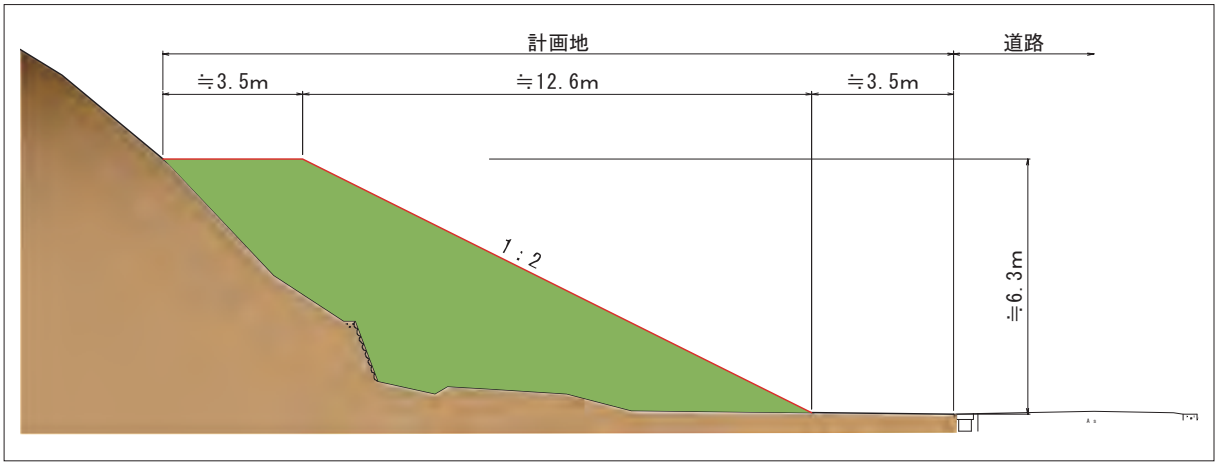
	【下部安定化工比較検討表】		
	のり面保護用連続繊維補強土工法	緑化補強土壁工法	盛土＋法面保護工法
イメージ			
標準断面			
工法概要	砂質土とポリエステルの連続繊維を混合し、法面に厚い土構造物を構築する工法。 地山にアンカーを打ち込むことで地山との一体化を図る。 表面には植生工を施し法面保護と自然環境の創出を図る。	壁面材と補強材が一体となったワイヤーマットを使用した擁壁工。 垂直から5分勾配までの急勾配盛土が可能。 現場での部材加工が可能であり、複雑な施工にもある程度対応出来る。	一般的な盛土法面に法面保護と緑化を目的とした植生シートを施したもの。一般的には1割8分以上の勾配となる。 高盛土の場合、盛土を安定させるために山側に段切りの検討を行う必要がある。
経済性	60,000 円/㎡	30,000 円/㎡	2,000 円/㎡
施工性	遺構面の保護工候補と同じ工法であり、大規模なプラントを必要としない。	構造材は軽量で一体化されており、大型機械は不要。	一般的な土工として施工可能。特殊な技能を必要としない。
景観性	いずれの工法も最終的には緑の壁となるので景観性に差異は無い		
総合評価	斜面勾配を立てることが出来るので広場を広くとる事が可能であるが経済性に著しく劣る。 評価：△	3案中最も斜面勾配を立てることが出来るので広場を広くとる事が可能であるが経済性に劣る。 評価：○	法面勾配が緩くなる分広場の面積は小さくなるが、経済性に大きくすぐれており、事業費を遺構の保存展示に充てることが出来る。 但し安定化措置が史跡に適応する様に検討する必要がある。 評価：◎

第19図　斜面保護工　斜面下部の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）

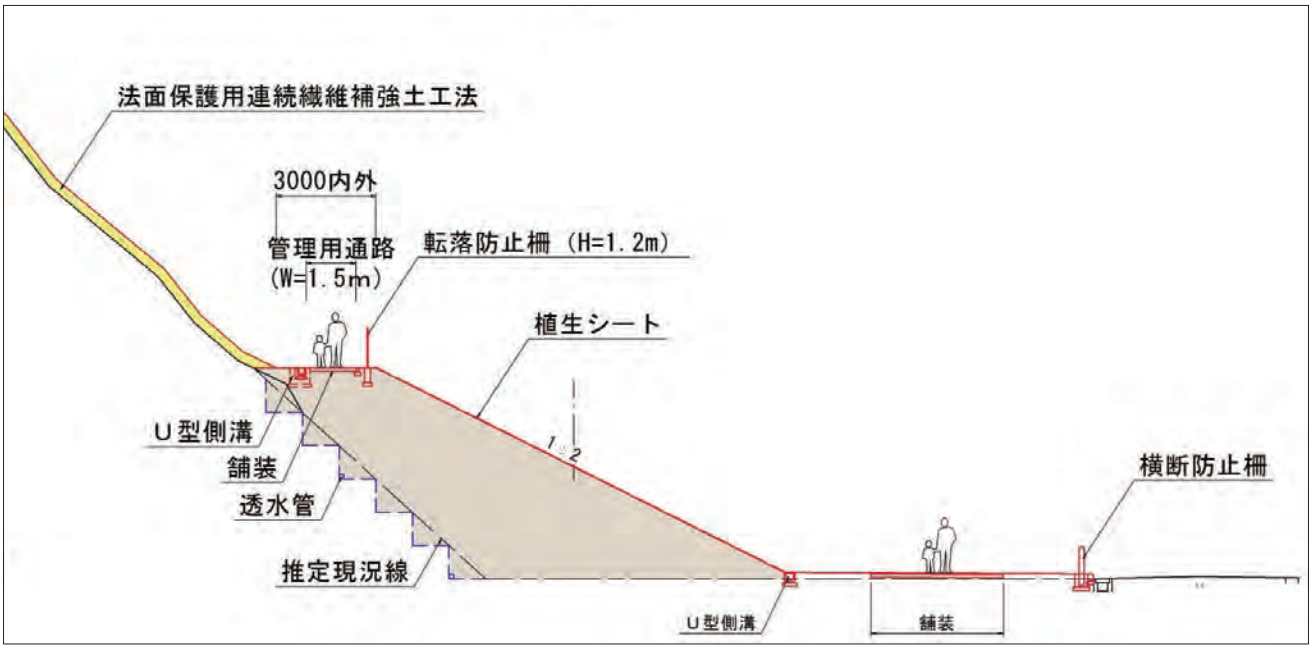
盛土材料	盛土高（m）	勾　配	摘要
粒度の良い砂(S)、礫および細粒分混じり礫(G)	5m以下	1:1.5～1:1.8	基礎地盤の支持力が十分にあり、浸水の影響のない盛土に適用する。 (　)内の統一分類は代表的なものを参考に示す。 標準のり面勾配の範囲外の場合は安定計算を行う。
	5～15m	1:1.8～1:2.0	
粒度の悪い砂(SG)	10m以下	1:1.8～1:2.0	
岩塊(ずりを含む)	10m以下	1:1.5～1:1.8	
	10～20m	1:1.8～1：2.0	
砂質土(SF)、硬い粘質土、硬い粘土(洪積世の硬い粘質土、粘土、関東ローム等)	5m以下	1:1.5～1:1.8	
	5～10m 以下	1:1.8～1:2.0	
火山灰質粘性土(V)	5m以下	1：1.8～1：2.0	

出典：盛土工指針

第 20 図　斜面保護工　斜面下部抑え盛土の検討 1（史跡城山横穴群整備基本設計より）



第 21 図　斜面保護工　斜面下部抑え盛土の検討 2（史跡城山横穴群整備基本設計より）



第 22 図　斜面保護工　斜面下部抑え盛土標準断面図（史跡城山横穴群整備基本設計より）

（4）遺構展示の検討

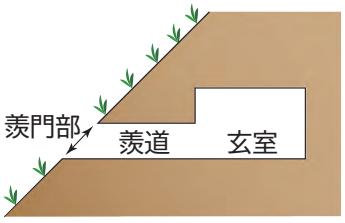
遺構の区分は、基本設計の対象範囲内か範囲外か（第 5 ～ 7 図に示す短期整備の範囲内かどうか）、横穴墓の状況（築造時の状況を留めるか否か）、位置（見学用の通路からの距離）、横穴墓の形状（羨門部の石組の有無など）、展示の必要性の 4 つに区分される（第 23 図）。

保存整備事業において展示の対象となる遺構は、主に基本設計対象範囲内の横穴墓である。この範囲内の横穴墓は横穴群として理解してもらうため、遺構の状況、位置、形状に関わらず展示を行う必要がある。

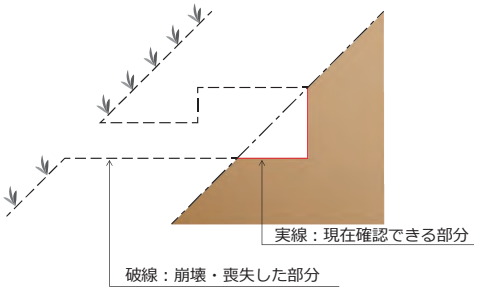
（1）検討項目

1）展示対象と区分（第 23 図）

範囲	横穴墓の状況	横穴墓の位置	横穴墓の形状		展示の必要性
対象範囲内	築造時の状況を留めない	見学用通路から近い	羨門部の石組等有	羨門部の石組等無	有
	築造時の状況を留めない	見学用通路から遠い	羨門部の石組等有	羨門部の石組等無	有
	築造時の状況を留める	見学用通路から近い	羨門部の石組等有	羨門部の石組等無	有
	築造時の状況を留める	見学用通路から遠い	羨門部の石組等有	羨門部の石組等無	有
対象範囲外	築造時の状況を留めない	見学用通路から見えにくい	羨門部の石組等有	羨門部の石組等無	無
	築造時の状況を留める	見学用通路から見えにくい	羨門部の石組等有	羨門部の石組等無	見学用動線より見えるものは必要性有



築造時の状況を留める横穴墓模式図
（羨門部・羨道・玄室が残存）



築造時の状況を留めない横穴墓模式図
（部分的に残存）

第 23 図　遺構の分類

2）展示方法（第 24 図）

①痕跡展示

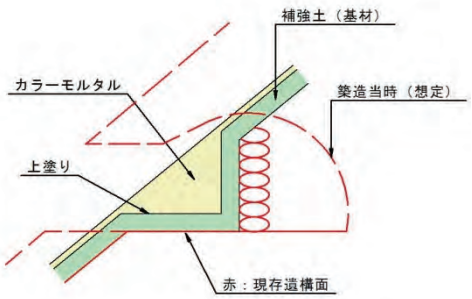
崩壊により築造時の状況を留めないものは横穴墓があったことを伝える簡単な展示を行う（窪み程度）。

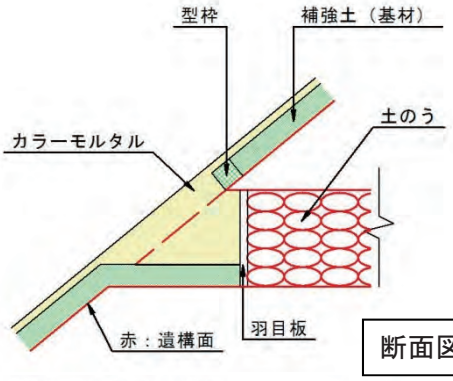
②開口展示

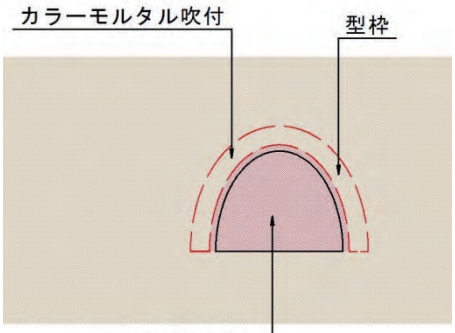
見学者が全景を見た時に横穴群の数的規模を体感するよう忠実に再現するため、管理用通路から遠い横穴墓は穴の存在のみを明示する展示を行う。

③復元展示

管理用通路から良く見え、間近までアクセスできる横穴墓は観賞に耐えうるレベルまで整備を行う。開口部の形状を復元するために横穴墓を土のう等で保護し、開口部の上部に型枠を入れた後、吹付後にカラーモルタルコテ仕上げで型枠を隠しながら横穴墓開口部の形状に復元する。

<table>
<tr><th></th><th>横穴の状況</th><th>展示対応</th><th>参考図・写真</th></tr>
<tr><td rowspan="3">基本設計対象範囲内の遺構</td><td>・崩壊が進み築造時の横穴墓の原型をとどめないもの
・開口部が明確でないもの</td><td>a) 痕跡展示
遺構が残っていないので、遺構面まで基材吹付により穴の痕跡を創出する。床部は別色で着色しメリハリを付ける。</td><td> 

断面図</td></tr>
<tr><td>・管理用通路から遠いもの</td><td>b) 開口展示
横穴を保護するための基材吹付～カラーモルタルの吹付までは復元展示と同じである。</td><td rowspan="2"> 

断面図
 

正面図</td></tr>
<tr><td>・開口が明確で管理用通路に近いもの</td><td>c) 復元展示
開口展示と同様の処置を行った後、コテ仕上げによりリアルな横穴の開口状況を整備する。</td></tr>
<tr><td>基本設計対象範囲外の遺構</td><td>・状況が特徴的なもの
・重要度が高いが来園者が確認できない場所にある物</td><td>d) レプリカ展示
該当する横穴墓のレプリカを作成する。</td><td>
例：石見銀山大久保間歩</td></tr>
</table>

第 24 図　遺構展示方法の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）

④基本設計対象範囲外の重要な横穴墓

城山横穴群の特徴を示す重要な横穴墓はレプリカを作成し展示を行う。レプリカは広場に設置し、全ての来場者が見学できるものとする。

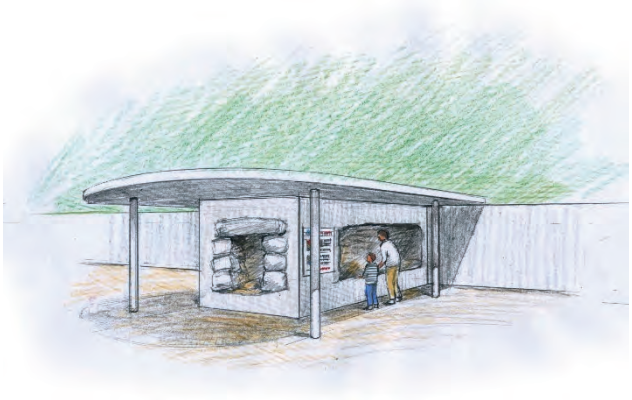
3）レプリカ展示

①素材の検討（第 25 図）

比較検討の結果、素掘りや石組の素材感や再現性の高さなど、横穴墓を的確に再現できることと、耐久性の高さを評価しGRC（ガラス繊維補強セメント）を採用することとした。

ＧＲＣ （ガラス繊維補強セメント）	長所：石材や土壌の再現性が高く、遺構の様子を的確に伝えられる。 石材部分と土壌部分を一体的に製作できる。セメント素材であるため耐久性が高い。 短所：金額が高い 評価：◎	 テーマパーク設置例
ＦＲＰ （繊維強化プラスチック）	長所：横穴墓の形状を再現できる。 軽い素材であるため、施工性が良い。 比較的安価に製作できる。 短所：ＦＲＰは土や石としての質感に乏しく触ると中空のプラスチックの感触であり、偽物であることが分かる。 耐候性に難点がある。特に紫外線により劣化するため、屋外設置は数年で交換が必要になる。 評価：△	 加茂岩倉遺跡
自然石 ※羨門石組を対象とする	長所：素材の再現性が高く、耐久性も高い。 短所：石材の加工や施工性、石組み等の忠実な再現は難しい。 評価：○	 大宰府政庁跡
モルタル吹付 **（コテ仕上げ）** ※石組以外の素掘り部分を対象とする	長所：コンクリート系の吹付で耐久性は高い。 短所：ラス（金網）を張れる形状に限られるため、細かな再現性には限りがある。 評価：○	 市ヶ尾横穴古墳群

第 25 図　レプリカ展示　素材の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）

	イメージ	解　説
A		サインにより縦断方向の解説を行い、その左右に入口部のレプリカを配置する。 奥行きは羨門石組がある入口の前に平面表示を行う事により表現する。 概算単価：◎
B		サインにより縦断方向の解説を行い、その下に平面表示を行う。 縦断表示と平面表示は中心で折れるように表現し、玄室の空間を体感できるようにする。 入口部のレプリカはその左右に配置する。 概算単価：◎
C		広場の正面に縦断面のレプリカを展示し、入口のレプリカは広場に対して垂直に配置する。 これにより構造を一体的に理解しやすくなる。 縦断部レプリカの前面には舗装により平面を表記する。 概算単価：○
D		広場の正面に入口のレプリカを展示し、縦断面のレプリカは広場に対して垂直に配置する。 入口と内部は貫通したものとして構造を一体的に理解しやすくなる。 レプリカの内部にアクリル板を設けるなど、人が入れない様にする。 概算単価：△

第 26 図　レプリカ展示　設置方法の検討（史跡城山横穴群整備基本設計より）

②展示方法の検討（第 26 図）

レプリカ展示の目的は、横穴墓の構造と規模を理解してもらうために設置することから、横穴墓全体が分かるものが望まれる。経済性、再現性などを考慮し 4 つの案を比較検討した。A案及びB案は横穴墓の入口は立体的に示すが、内部の様子は平面的な解説である。C案及びD案は内部も立体的な展示であるため、横穴墓全体の様子が体感できる（第 26 図）。

C案は斜面の擁壁に平行に設置し、構造的にも安定している。D案は擁壁に対して垂直に設置し、屋根を広くすることから雨天でも見学できるが、スペースを多くとることになる。

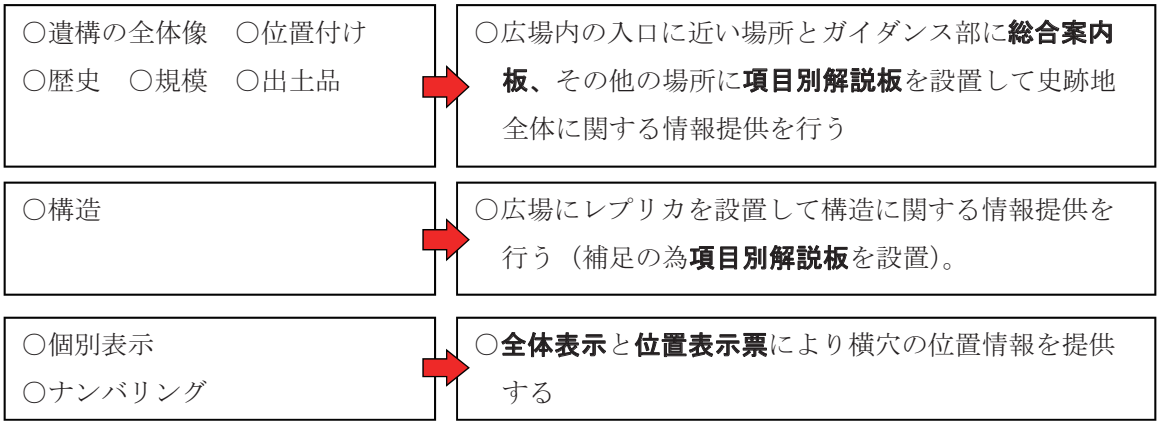
例示された案を検討した結果、個別の横穴墓をより理解でき、限られたスペースの中で比較的コンパクトに展示できるC案（擁壁に並行し建物を設置する）を採用することとした。

（5）サインの検討（第 27・28 図）

案内説明用	・案内板	・総合案内板	城山横穴群全体に関する情報を提供
	・説明板	・項目別解説板	城山横穴群の個別事項に関する情報を提供
		・レプリカ展示	レプリカによる入口の展示他
		・位置表示票	横穴の認識票
指示用	・指示標	・誘導案内	園内誘導・順路表示
規制用	・制札板	・危険表示	転落・飛出し
標識用	・標識	・史跡名標識	標識柱

※誘導表示と危険表示は状況に応じて適切に配置する

第 27 図　サインの検討 1　設置の目的と内容（史跡城山横穴群整備基本設計より）



第 28 図　サインの検討 2　設置するサインの種類（史跡城山横穴群整備基本設計より）

（6）その他の検討

さらに施設配置の概念図、動線計画に基づきの園路・広場の施設整備などについて検討を重ね基本設計をまとめた。

2. 令和元年度の保存整備

敷地造成および斜面保護盛土に関連する工事を行った。

(1) 敷地造成

敷地造成工事は、1・2工区に分けて以下の仕様で行った（第 29 図）。

1) 準備工事

着工前測量、安全対策、構造物の解体･撤去、竹木の伐採･剪定、生垣の設置等の準備工事を行った。

①安全対策および構造物の解体・撤去等

工事範囲に仮囲いを設け、一般者が立ち入らないように安全対策を講じた。また、構造物の解体・撤去時から、工事車両の出入りに際しては、作業員等による安全確認を行った。

写真 4　施工時の仮囲い 1（1 工区、西から）

写真 5　施工時の仮囲い 2（2工区、北西から）

写真 6　構造物等の撤去 1（1 工区、南から）

写真 7　構造物等の撤去 2（2工区、北西から）

②樹木の伐採および剪定

竹木の伐採および剪定を丘陵斜面において行った（第 30 図）。一面に生えるモウソウチクは、根が遺構の保護に影響を与えることから伐採した。しかし、依然として広範囲に地下茎が残っていることから、タケノコが生える春季を中心に今後も継続的に管理・伐採する必要がある。成長が遅く、表土流出を防止する役割を果たしているヤブツバキなどの中低木は、伐採せずに維持した。一方で、盛土施工範囲にあるムクノキやクロガネモチなどの小中木を伐採した。斜面にはクスノキを中心に数本の大木があり、なかでも墳丘9’上のものは幹回り4mを超えるため、諸条件から伐採せず強剪定を行ない、

樹勢を落とし遺構に極力影響がないように対策を講じた。今回伐採できなかった樹木は、台風等により倒れる恐れがあるため、将来的に伐採を検討する必要がある。

写真 8　モウソウチク伐採状況（2 工区）

写真 9　クロガネモチ伐採状況（2 工区）

写真 10　クスノキ剪定状況 1（2 工区）

写真 11　クスノキ剪定状況 2（2 工区）

③生垣の設置

整備工事にともなう植生の伐採により、丘陵上の六角家歴代墓地へ強風が直接吹き込み、また視界を遮るものがなくなった。この対策として、墓地が位置する丘陵平坦面および斜面の境界にシラカシの生垣を新設した。

写真 12　生垣の設置状況 1（2 工区、南から）

写真 13　生垣の設置状況 2（2 工区、東から）

2）造成工事

造成工事では、表土の鋤取りおよび残土等の搬出、床掘および掘削、真砂土による置換、栗石の充填等を順に行った（第 31 図）。

①掘削および真砂土置換等

工事範囲のうち以前宅地であった地所は、建物等の除却にともなうコンクリート殻などが混ざっており、また粘性土を多く含んでいることから真砂土への置換を行った。横穴墓が位置する斜面の下方に積み上げた残土も、遺構調査の際にはぎ取った丘陵斜面の表土を多く含んでいることから除去した。計画当初、宅地跡の真砂土置換を 50cm としていたが、表土下に軟弱地盤が堆積していることが明らかになり、一部を 1 mに変更した。

写真 14　表土鋤取り状況（1 工区、南西から）

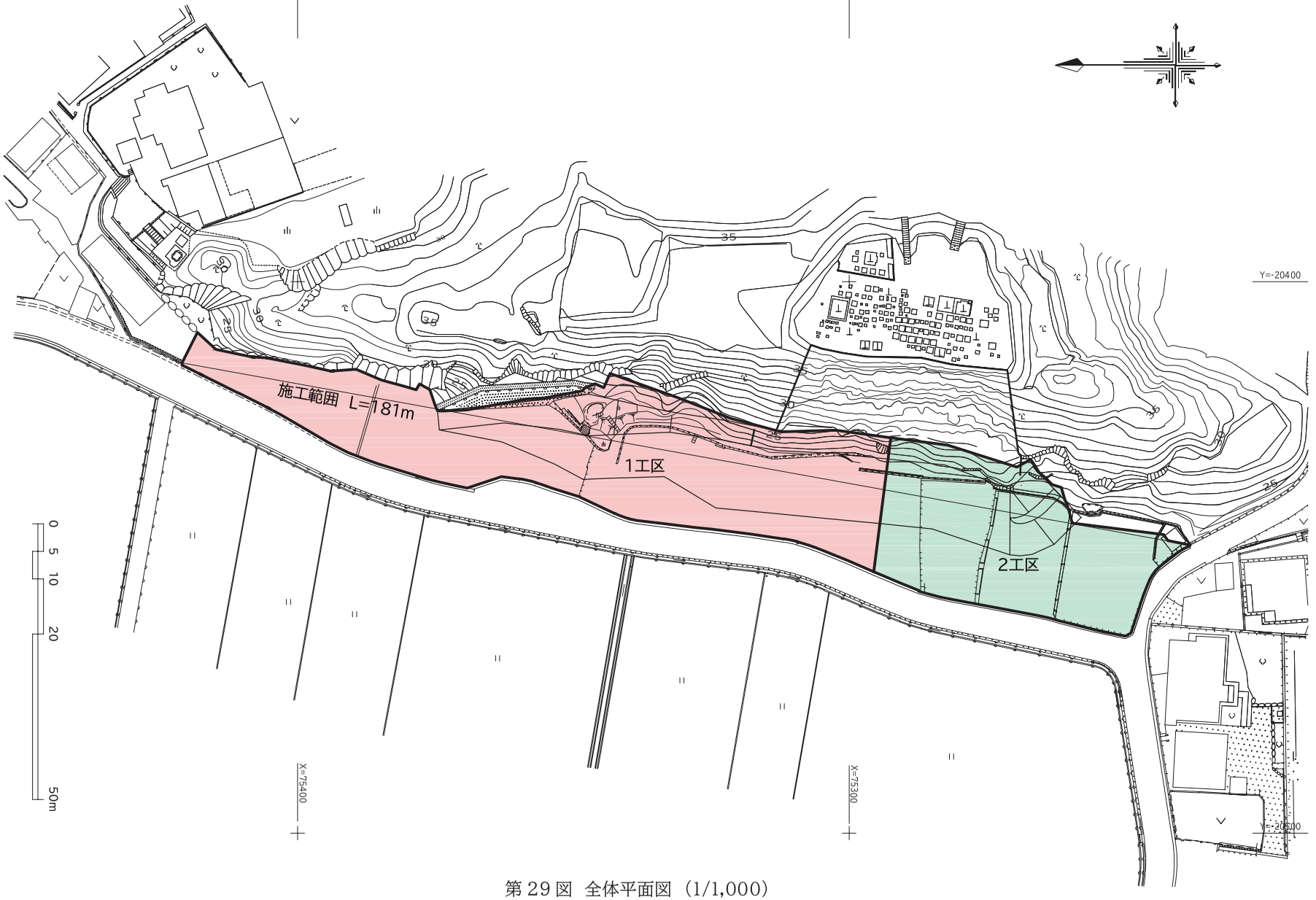
写真 15　真砂土置換状況（2工区、南から）

②栗石充填等

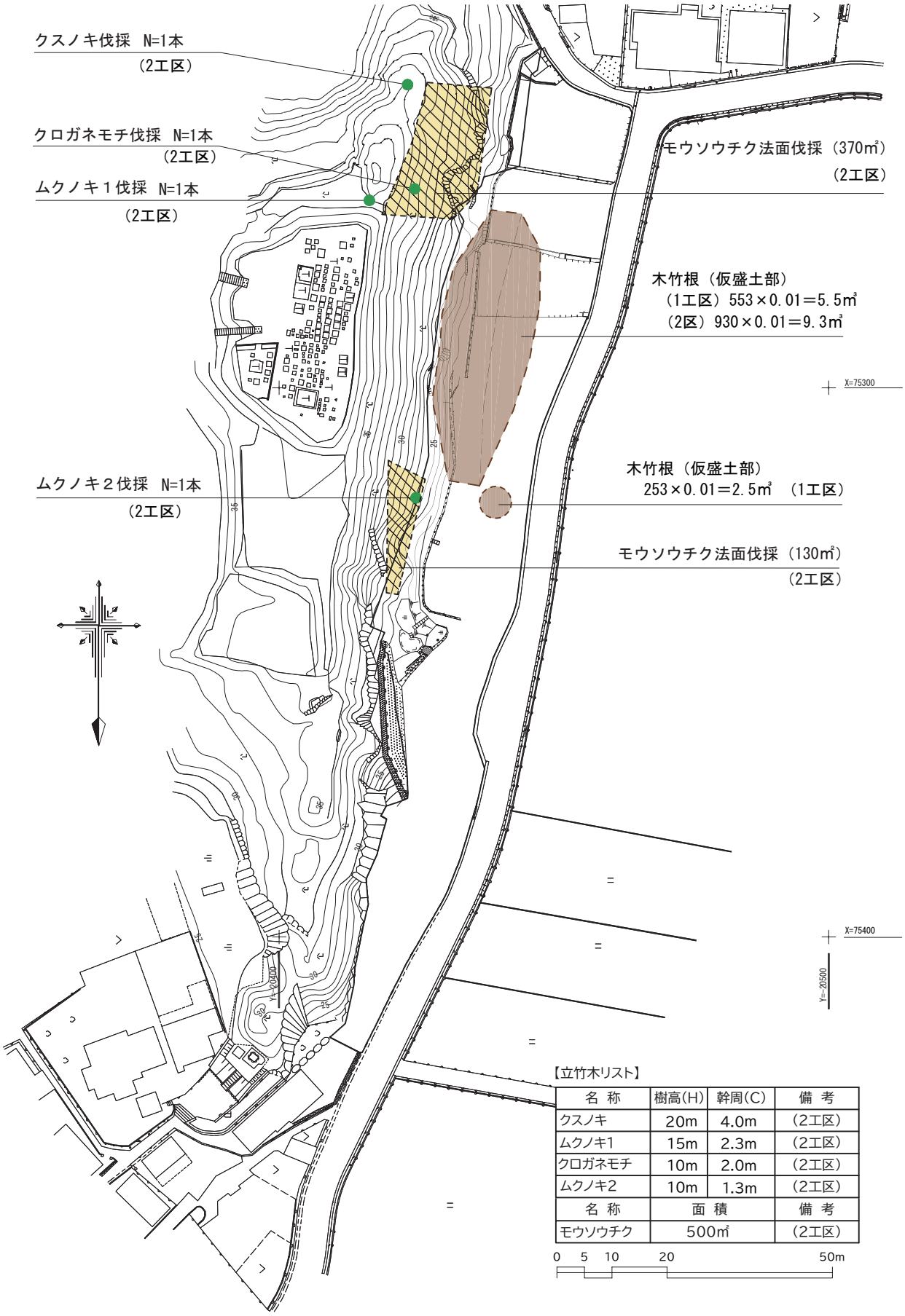
1 工区では、表土下で粘性土の軟弱地盤と GL-1 mの高さで地下水位が確認された。また No.3+10 以南では、砂岩の転石も多くみられた。地下水の湧水箇所周辺では真砂土置換による締固めが無理なため、1mある置換層のうち下半の 50 ㎝に割栗石を充填して締固めを行し、吸い出し防止材を敷設した上に 50cm の真砂土を盛った。一方、工区西側（道路側）では 50cm の真砂土置換を行ったが、常に水分を含んだ状態で締固めできなかったため、下層 30cm に割栗石を充填し、吸出し防止材を敷設した上に真砂土を盛った。

写真 16　地下水湧水の状況（1 工区、北から）

写真 17　割栗石による置換状況（1 工区、南から）

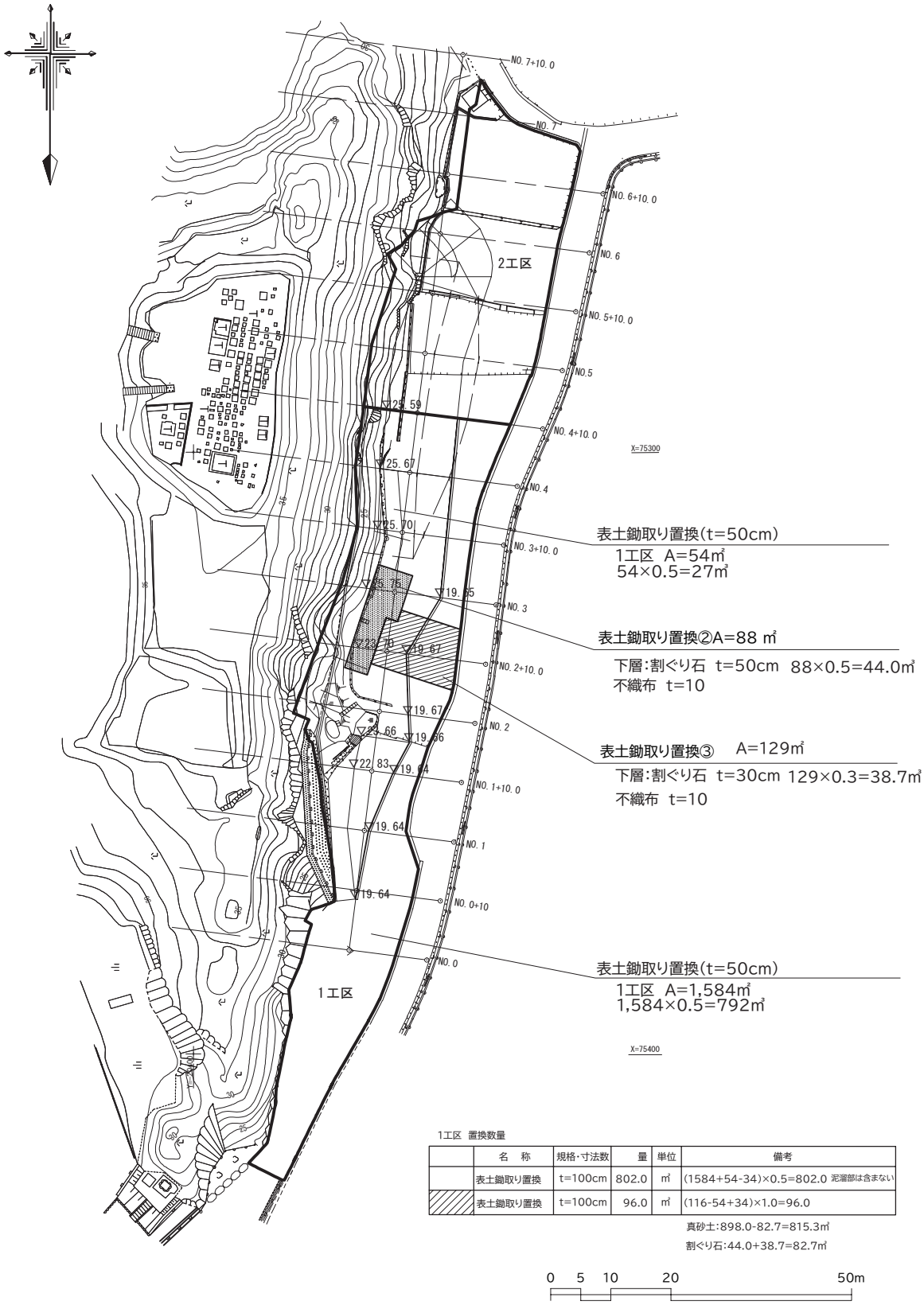


第 29 図　全体平面図（1/1,000）



名　称	樹高(H)	幹周(C)	備　考
クスノキ	20m	4.0m	（2工区）
ムクノキ1	15m	2.3m	（2工区）
クロガネモチ	10m	2.0m	（2工区）
ムクノキ2	10m	1.3m	（2工区）
名　称	面　積		備　考
モウソウチク	500㎡		（2工区）

第 30 図　立竹木伐採図（1/1,000）



1工区 置換数量

	名 称	規格・寸法数	量	単位	備考
	表土鋤取り置換	t=100cm	802.0	㎥	(1584+54-34)×0.5=802.0 泥溜部は含まない
	表土鋤取り置換	t=100cm	96.0	㎥	(116-54+34)×1.0=96.0

真砂土:898.0-82.7=815.3㎥

割ぐり石:44.0+38.7=82.7㎥

第 31 図 造成平面図 (1/1,000)

（2）斜面保護盛土

1）路体盛土工

敷地の表層土を真砂土に置換した後、盛土を行った（第 32・33 図）。なお旧宅地面から高さ 6.3 m程度で横穴墓が確認されたことから、盛土天端の高さを最大6mとした。天端幅は、管理用通路（幅 2.0 m）、転落防止フェンス、（遺構が残存する斜面からの表流水を受ける）側溝等の幅を確保するため、最低 3.5 mとして施工した。

写真 18　盛土築造状況 1（1工区、南から）

写真 19　盛土築造状況 2（2工区、北西から）

写真 20　盛土天端状況 1（1工区、南から）

写真 21 盛土天端状況 2（2工区、北から）

写真 22　植生シート敷設状況（2工区、北から）

写真 23　豪雨後の盛土流出状況（1・2 工区、西から）

盛土は、1層の厚さ平均 30cm とした巻き出し転圧を 19 ～ 20 層分繰り返して行った。法面の勾配は、安定勾配である 1：2 で施工した。斜面の掘削量が想定していたより多かったことなどから、設計当初の土量では不足することが判明したため、1工区の北側（No.0 ～ No.3）の区間は盛土の高さを下げ、全体の形状を変更した。

法面の養生については、工事の進捗が比較的早かった 2 工区において当初の設計にしたがって植生シートをはじめに敷設した。しかしながら種子の発芽をまたずして豪雨に襲われ、路体盛土の一部が流出する事態となった。さらに、本期工事の完了から次期工事までには半年以上の期間が予定されており、6 月から 10 月にかけては梅雨や台風などによる豪雨も予想されることから、耐候性シートで盛土を被覆するように計画を変更した。

2）排水工

翌年度（令和 2 年度）に実施予定の保存整備工事のための荒造成として、本排水工を行った（第 34 図）。なお、遺構が集中する斜面および表流水などの排水工については、翌年度の工事内で検討・整備するものとする。本工事の施工前には、斜面からの湧水等は認められなかった。しかし、近年増加している局地的な豪雨等が想定されることや、斜面を掘削することによる表流水の状況が変化する可能性があるため、下層および上層に暗渠排水管を設置した。1 工区の No.2 から No.3 にかけての範囲では地下水位も高く、斜面も谷の形状を呈しており、また盛土の築造時にも降雨後の乾きが遅く、水分を多く含んでいることが確認された。このことから、路体盛土の水分を減らすために暗渠排水管の周りにフィルター材（単粒度砕石）を入れ、水分が抜けやすい構造を採用した。

写真 24　暗渠排水管設置状況 1（1工区、北から）

写真 25　暗渠排水管設置状況 2（2工区、西から）

写真 26　U 字側溝仮設状況 1（天端・2工区、北から）

写真 27　U 字側溝仮設状況 2（法尻・1工区、北西から）

3）仮設工

工事範囲に、仮設の排水設備を設けた。盛土天端の斜面側には高密度ポリエチレン製のU字溝を設置し、横穴群が位置する斜面から流れてくる雨水を受け、盛土内に浸透しないようにした。また盛土の法尻にも同じU字溝を設置し、法面の表流水が平坦面に漏れることなく速やかに流れるよう対処した。真砂土による置換と盛土により、雨水や工事中の排水が泥水となって前面道路の側溝に直接流れ込むことがないよう泥溜桝を設けた。

法面は、植生シートを用いた表面の保護を当初計画していたが、発芽するまでの間に再度豪雨が降った場合には路体盛土の流出が少なくないと想定されるため、耐候性シートでその全体を覆うように変更した。

写真 28　泥溜設置状況 1（1工区、北から）

写真 29　泥溜設置状況 2（2工区、西から）

写真 30　耐候性シート被覆状況 1（1工区側、北西から）

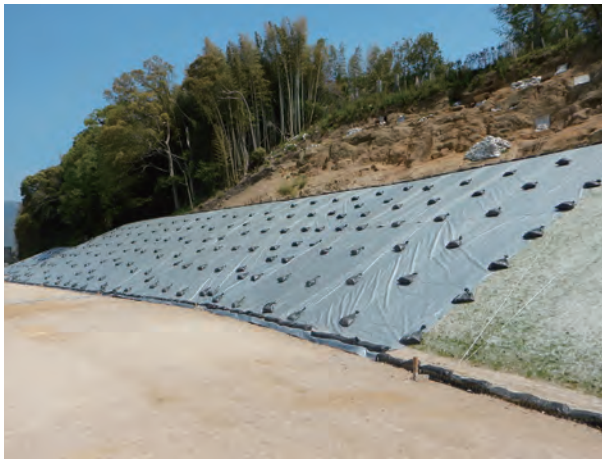
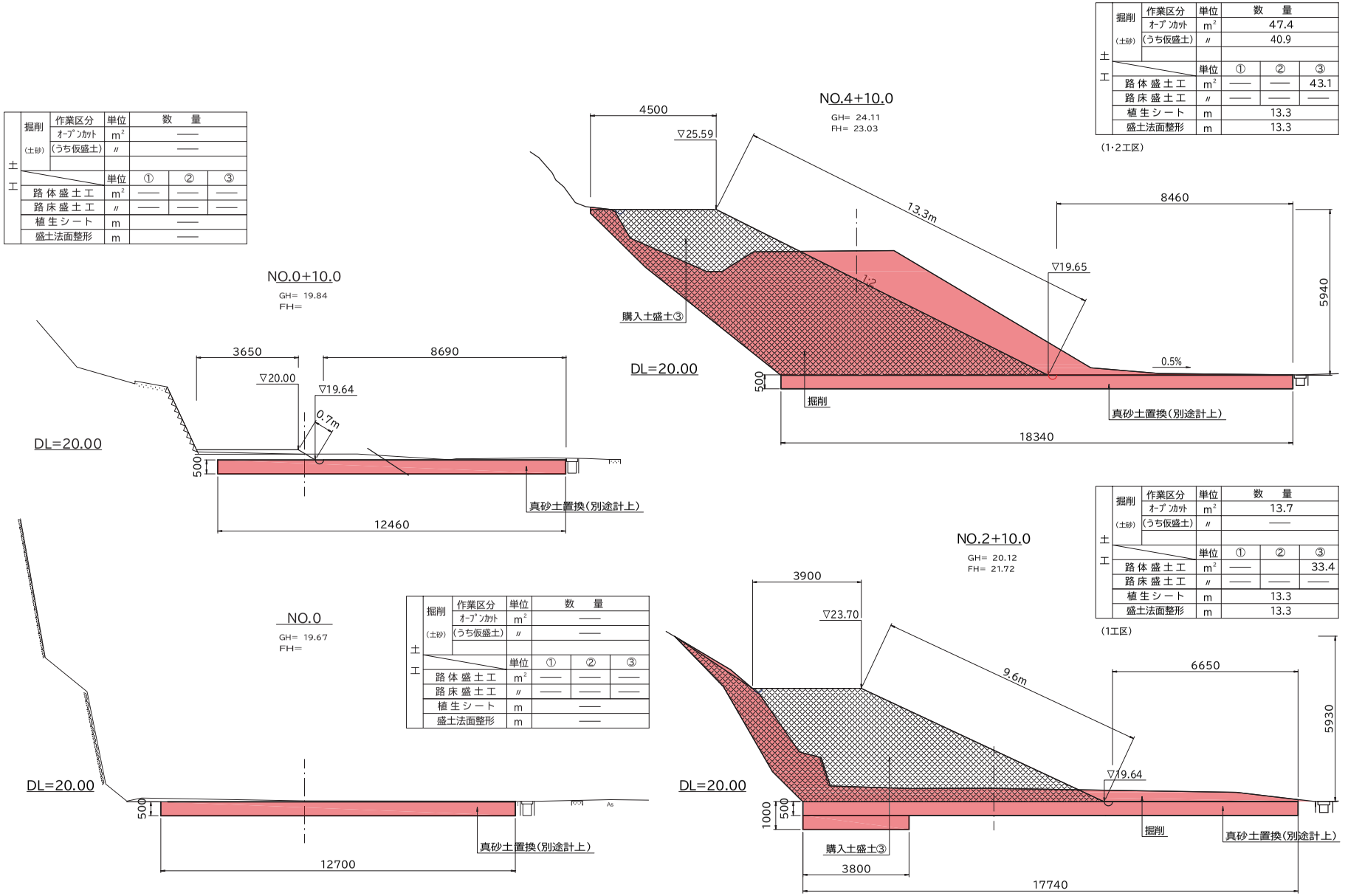


写真 31　耐候性シート被覆状況 2（2工区側、南西から）



土工	掘削	作業区分	単位	数量		
		ｵｰﾌﾟﾝｶｯﾄ	m²	——		
	(土砂)	(うち仮盛土)	〃	——		
			単位	①	②	③
		路体盛土工	m²	——	——	——
		路床盛土工	〃	——	——	——
		植生シート	m	——		
		盛土法面整形	m	——		

土工	掘削	作業区分	単位	数量		
		ｵｰﾌﾟﾝｶｯﾄ	m²	47.4		
	(土砂)	(うち仮盛土)	〃	40.9		
			単位	①	②	③
		路体盛土工	m²	——	——	43.1
		路床盛土工	〃	——	——	——
		植生シート	m	13.3		
		盛土法面整形	m	13.3		

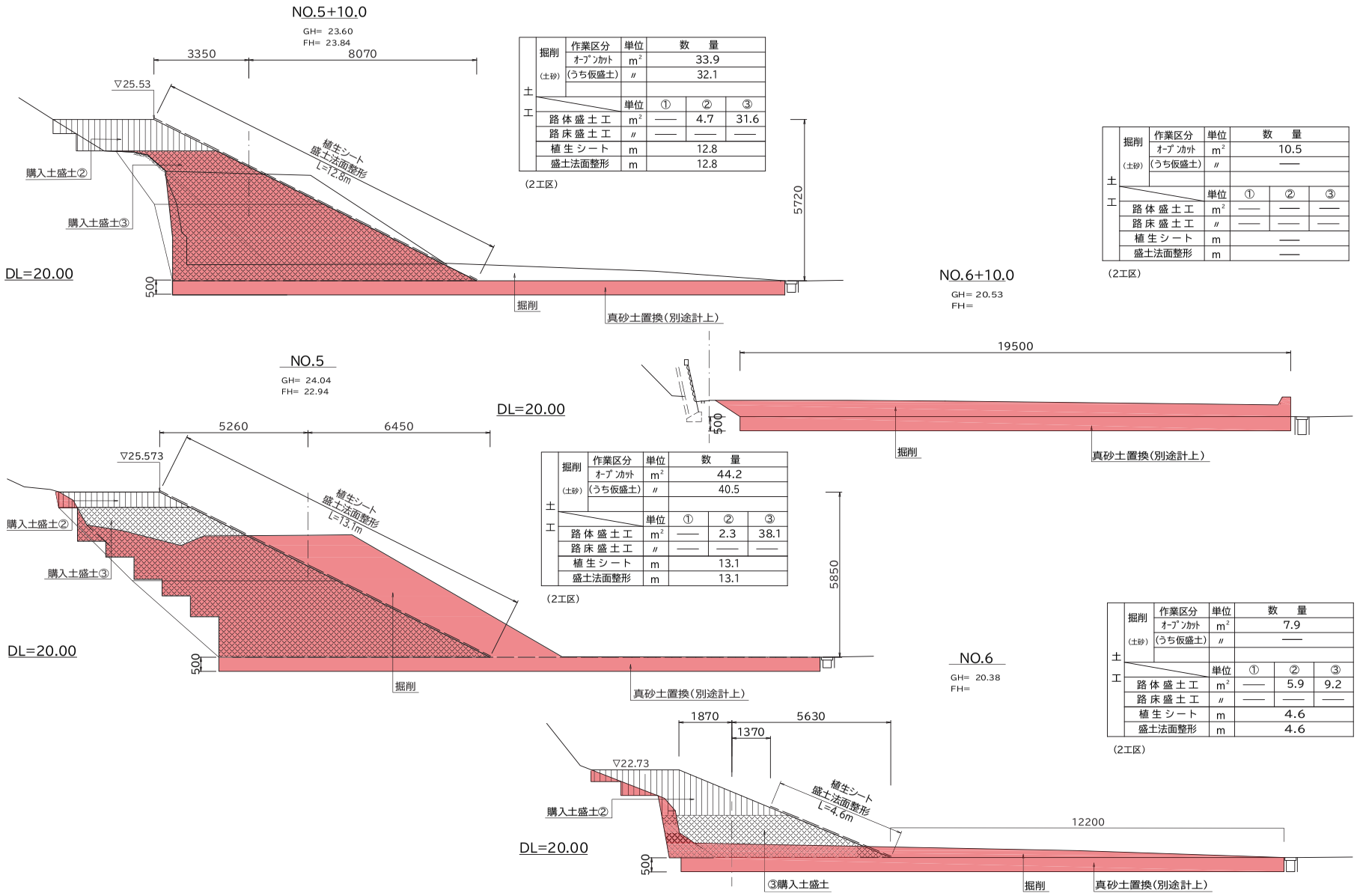
(1･2工区)

土工	掘削	作業区分	単位	数量		
		ｵｰﾌﾟﾝｶｯﾄ	m²	13.7		
	(土砂)	(うち仮盛土)	〃	——		
			単位	①	②	③
		路体盛土工	m²	——		33.4
		路床盛土工	〃	——	——	——
		植生シート	m	13.3		
		盛土法面整形	m	13.3		

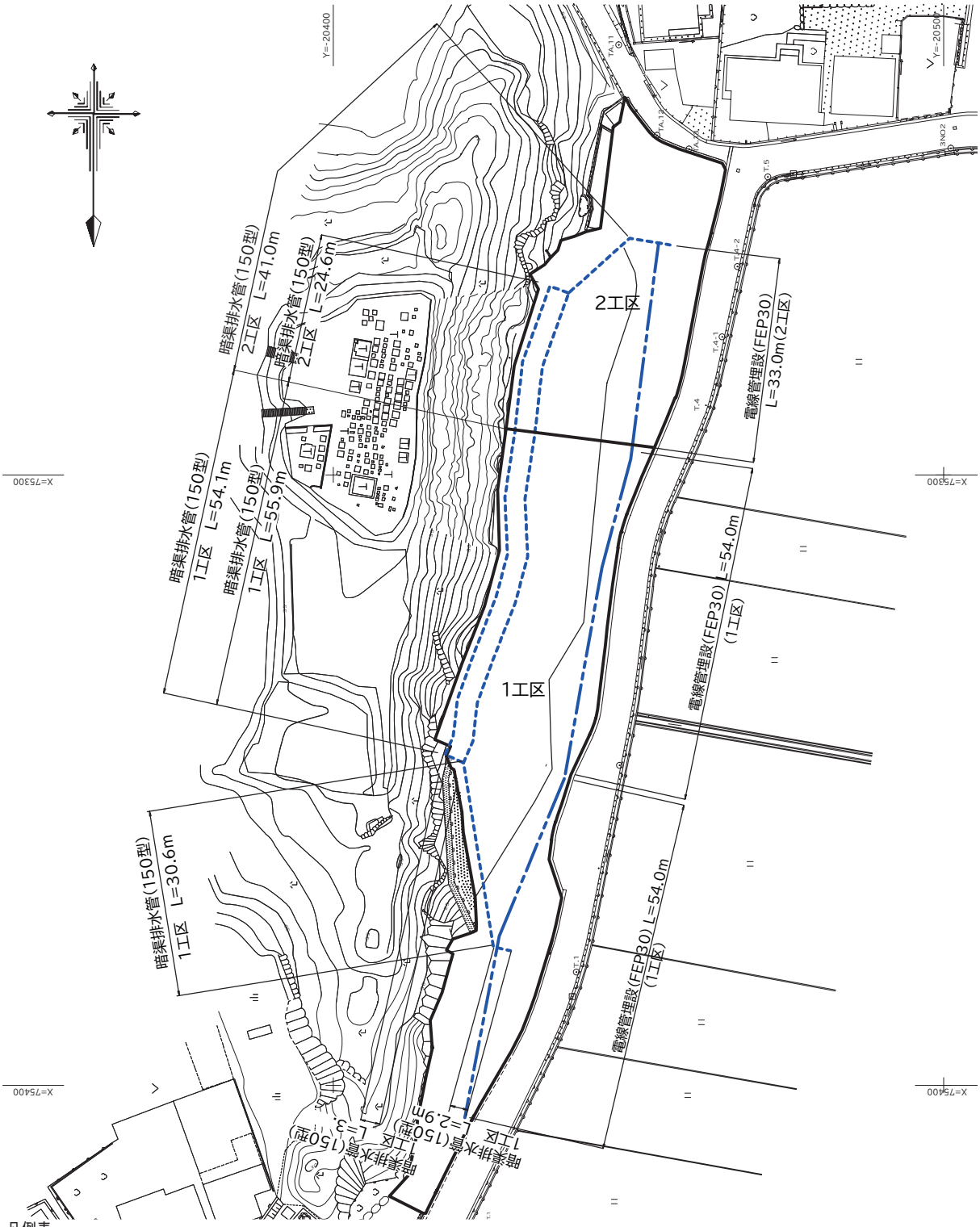
(1工区)

土工	掘削	作業区分	単位	数量		
		ｵｰﾌﾟﾝｶｯﾄ	m²	——		
	(土砂)	(うち仮盛土)	〃	——		
			単位	①	②	③
		路体盛土工	m²	——	——	——
		路床盛土工	〃	——	——	——
		植生シート	m	——		
		盛土法面整形	m	——		

第 32 図 盛土断面図 1 (1/200)



第 33 図 盛土断面図 2（1/200）



凡例表

名　称	規格・寸法	数量	単位	備考
暗渠排水管	有孔波状管150型	146.8	m	(1工区) 2.9+3.3+30.6+54.1+55.9=146.8
暗渠排水管	有孔波状管150型	65.6	m	(2工区) 24.6+41.0=65.6
電線管埋設	FRP30	112.0	m	(1工区) 58.0+54.0=112.0
電線管埋設	FRP30	33.0	m	(2工区)

※ 暗渠排水管の設置は標準断面図参照し現場状況に合わせて行う事
※ 電線管の端部は次年度以降照明灯工事に対応するため地上部に露出し端部処理を行う事

第 34 図　排水工平面図（1/1,000）

3．令和2年度の保存整備

1）広場整備、2）展示施設新築、3）法面遺構防災に関連する工事を行った。なお工事に先立って、横穴墓羨道内部に耐候性土嚢を積み上げて遺構保全を行った。

(1) 広場整備工事

本工事は、丘陵裾部から西側平坦面にかけての範囲において、1）準備工、2）管理通路整備、3）待受擁壁周辺の排水工、4）擬木階段設置、5）広場整備、6）北側広場整備、7）侵入防止柵設置等を行った（第 35・39 図）。以下、作業工程ごとに内容を記す。

1）準備工

本工事に先立って、前年度に設置した管理通路と法尻の半割水路、法面保護シート、雨水泥溜といった防災仮設施設等を撤去した。

写真 35　管理通路工事着工前現況（北から）

写真 33　広場工事着工前現況（南から）

2）管理通路整備

管理通路部の側溝（PU240*240）、集水桝、縁石工、舗装路盤工、転落防止柵基礎等を設置した。さらに法面遺構保全工事が完了した後、転落防止柵（H1100）の組立および脱色 As 舗装工を行った（第 36 図）。

写真 34　管理通路南側施工状況（北から）

写真 35　管理通路北側施工状況（南から）

写真 36　管理通路舗装状況（南から）

写真 37　管理通路竣工状況（南から）

3）待受擁壁周辺の排水工

展示施設の新築工事にあわせて施工した待受擁壁の完成後に、周辺排水施設（PU240*240 側溝、集水桝）を設置した。

写真 38　待受擁壁内側（北から）

待写真 39　待受擁壁外側（西から）

4）擬木階段設置

広場園路および管理通路の南北両側の法面に擬木階段（幅 w2000、踏み面幅 w300、蹴上高 H150）を設置し、両脇に手摺（H850）を付け、南では階段中央部に踊り場（幅 2000 ＊奥行 2200）を設けた。表面仕上げは、モルタル刷毛引き仕上げとした。

写真 40　南側擬木階段施工状況（南から）

写真 41　南側擬木階段竣工状況（南から）

写真 42　北側擬木階段施工状況（西から）

写真 43　北側擬木階段竣工状況（西から）

5）広場整備

①排水工

丘陵側では管理通路の側溝（Pu-240*240）で雨水を受け、その北半分には園路側溝（Pu-360*360）、南半分には擬木階段脇と広場に側溝（Pu-240*240）をそれぞれ設置して町道側溝へ接続させた。また法面では法尻側溝（PU240*240）で雨水を受けて側溝（PU240*240）で園路を横断させ、町道側溝へ接続させた。さらに園路では集水桝を 10m ピッチに設置し、VP 管（φ200）で町道側溝へ接続させた（第 37・38 図）。

写真 44　園路側溝（南東から）

写真 45　法尻側溝（南西から）

写真 46　園路集水桝（北から）

写真 47　擬木階段脇と広場の側溝（北東から）

②縁石工、横断防止柵工

町道および広場敷地との境界に、縁石および擬木横断防止柵（H850）を設置した。

写真 48　縁石・横断防止柵施工状況（南から）

写真 49　縁石・横断防止柵竣工状況（北から）

③舗装工

広場はAs舗装（黒アスファルト）とし、舗装端に見切り板（アルミ製）を設置し、タンパーおよび振動ローラにより転圧した。

写真 50　舗装見切り（北から）

写真 51　舗装施工状況（北から）

写真 52　舗装竣工状況 1（南から）

写真 53　舗装竣工状況 2（北から）

④車止め工（身障者対応）

北側出入口に門型、南側広場に門型・身障者対応型の車止めを設置した。

写真 54　門型出入口（北側、北から）

写真 55　門型・身障者対応型出入口（南側、北から）

⑤ベンチ工

南側園路部にベンチ（座板 w1800、背なし、サポートパイプ有り）を 3 基設置した。

写真 56　ベンチの位置（南から）

写真 57　ベンチの設置状況（北東から）

⑥張芝工、法面工

張芝は、野芝のベタ張りとし、広場園路両側の盛土部および北側広場において行った。また、盛土法面部は植生シートを総張りした（第 37 図）。

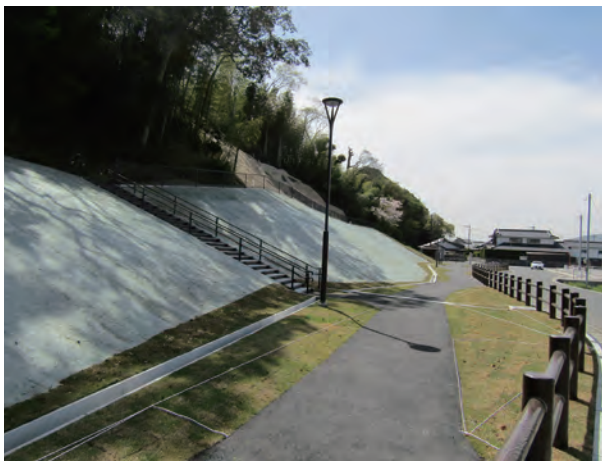


写真 58　張芝・植生シート竣工状況（北から）

写真 59　張芝竣工状況（南から）

6）北側広場整備

北側広場は、町道より 1.5m 程度高い位置にあるため、安全確保を目的とした菱型金網フェンス（H1100）の転落防止柵を設置し、広場は張芝（野芝）をベタ張りとした。

写真 60　北側広場工事前状況（南から）

写真 61　北側広場竣工状況（北から）

7）侵入防止柵設置

横穴群の東側に位置する丘陵の南北にかけて、菱型金網フェンス（H900）および片開き門扉を侵入防止目的に設置した。

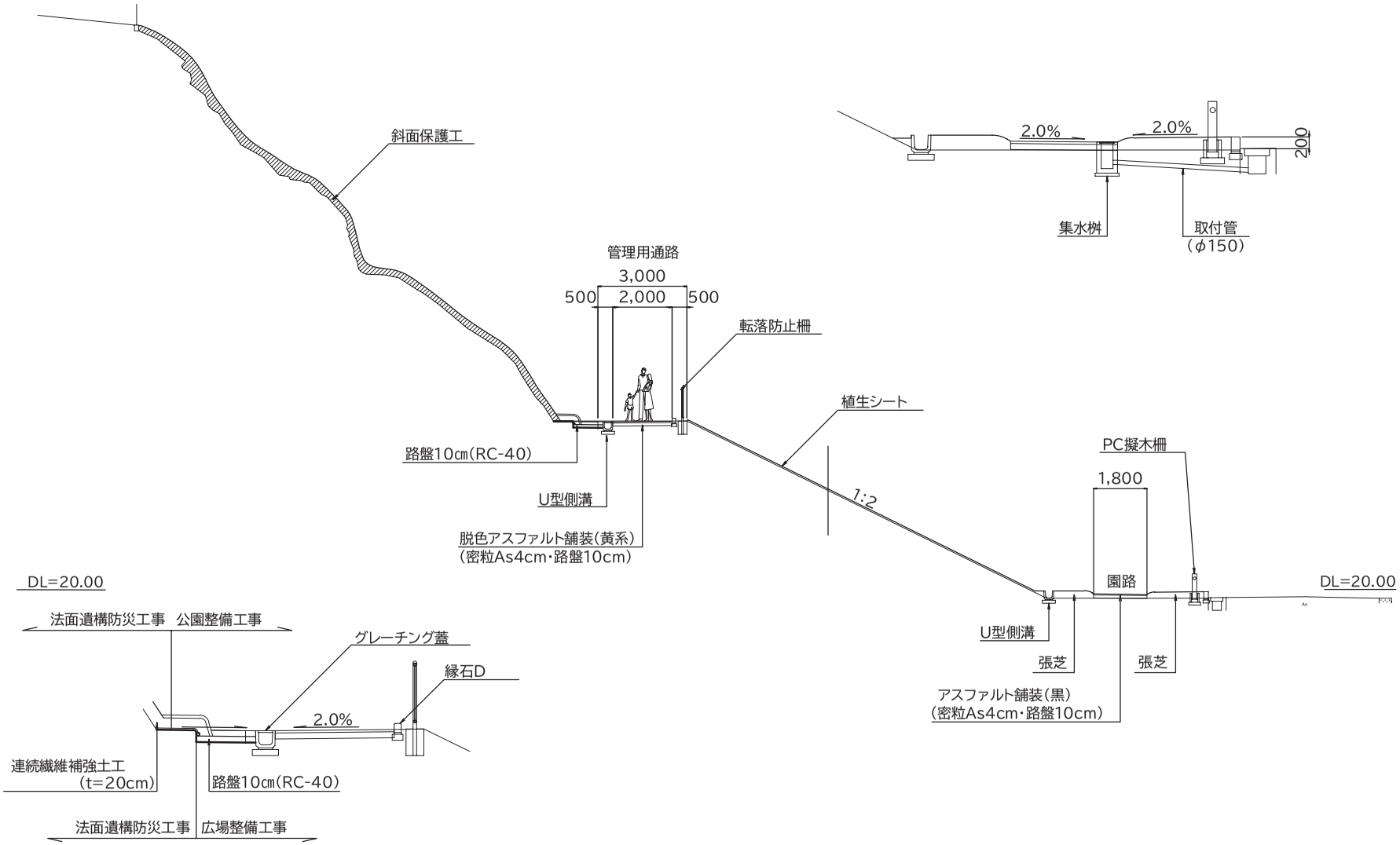
写真 62　北側片開き扉とフェンス（北から）

写真 63　南側片開き扉・フェンス（北から）

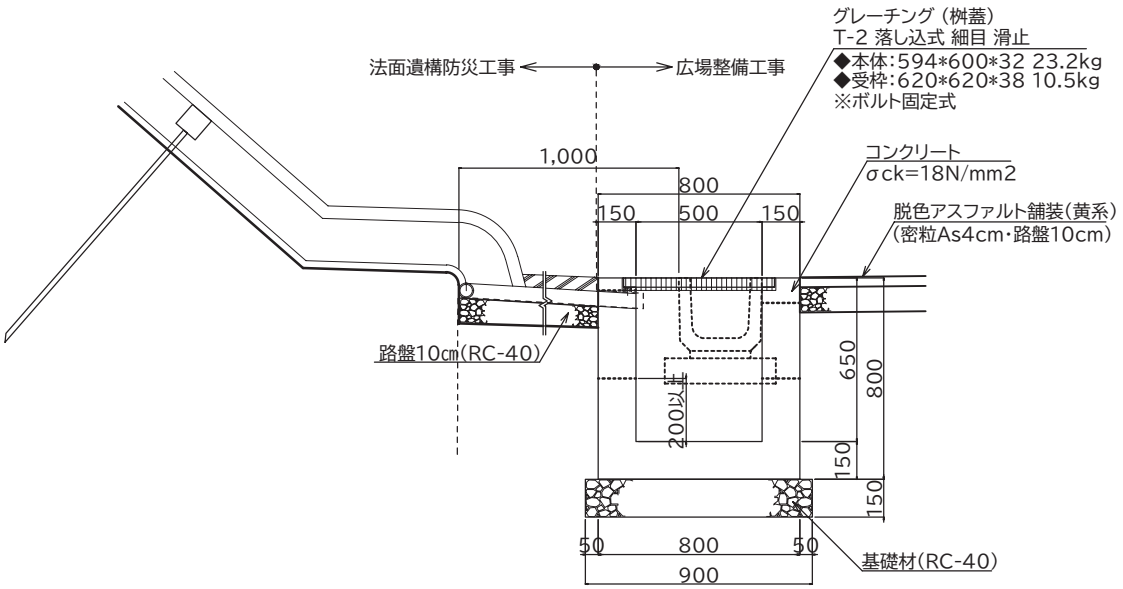
写真 64　北側フェンス（南から）

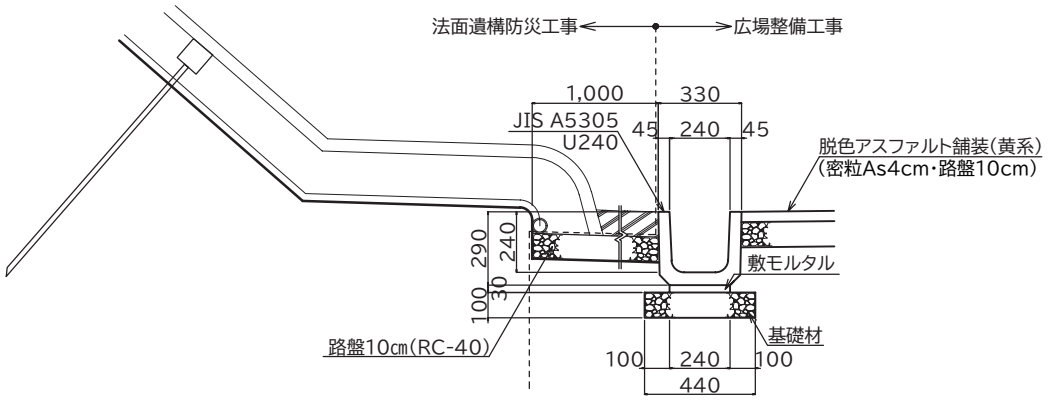
写真 65　南側フェンス施工状況（東から）

第 35 図　広場整備全体計画平面図（1/1,000）

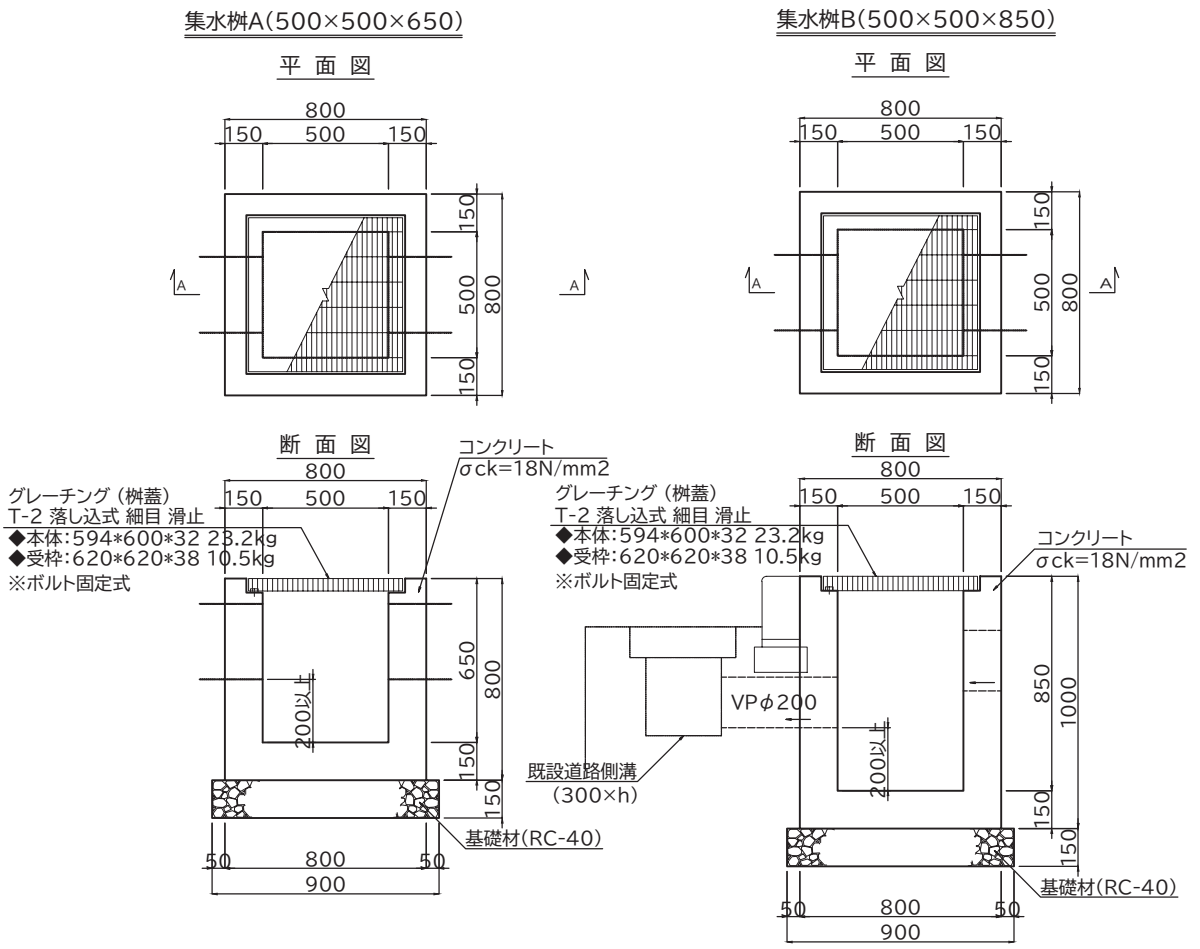


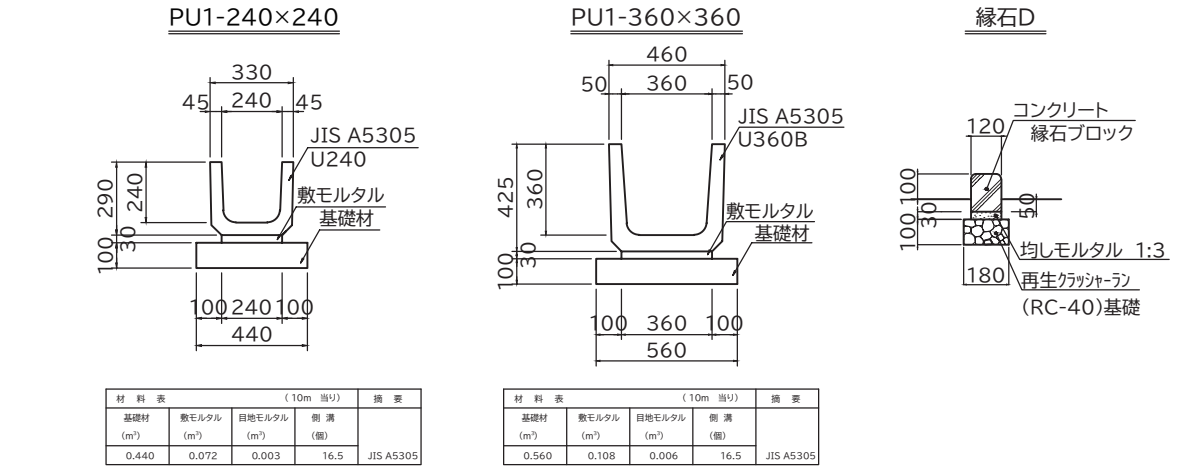
第 36 図　管理通路整備標準断面図（1/200・1/100）





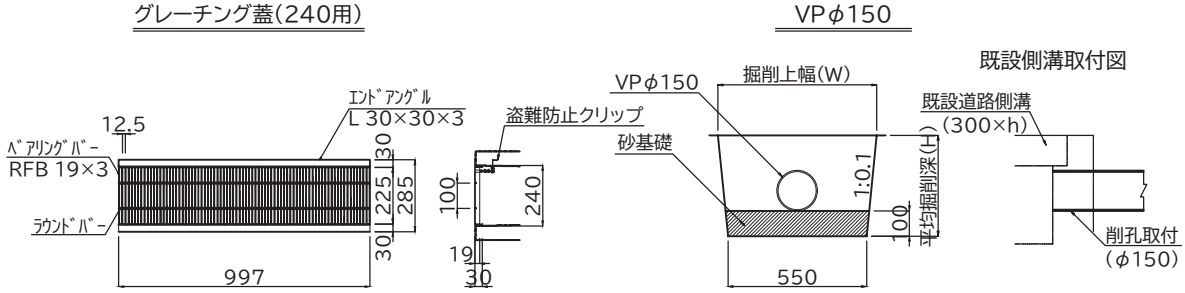
第 37 図　標準断面接続部・U 字側溝詳細図（1/30）



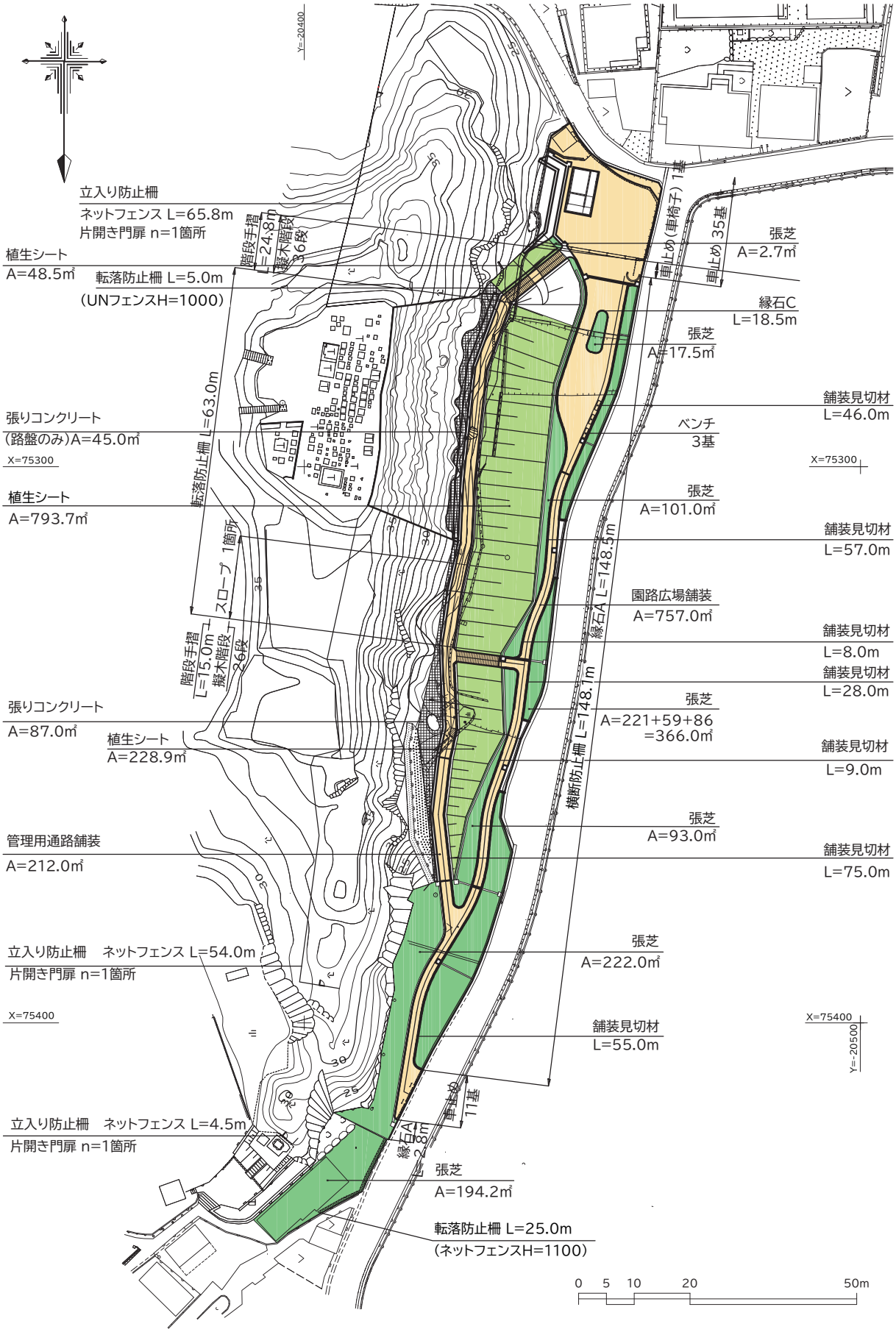


材 料 表			(10m 当り)		摘 要
基礎材 (m^3)	敷モルタル (m^3)	目地モルタル (m^3)	側 溝 (個)		
0.440	0.072	0.003	16.5	JIS A5305	

材 料 表			(10m 当り)		摘 要
基礎材 (m^3)	敷モルタル (m^3)	目地モルタル (m^3)	側 溝 (個)		
0.560	0.108	0.006	16.5	JIS A5305	



第 38 図　排水施設構造図 (1/30)



第 39 図 張芝工等平面図 (1/1,000)

（2）展示施設新築工事

この工事では、本史跡の代表的な横穴墓のレプリカを展示する施設整備およびサインや外灯等の設置を南側広場で行ない、あわせて広場東側斜面からの落石被害防止のための待受擁壁を設置した（第40図）。以下、施工順に、1）待受け擁壁工事、2）直接仮設工事、3）床スラブ鉄筋工事、4）壁および屋根スラブ鉄筋工事、5）壁および屋根スラブコンクリート工事、6）鉄骨屋根工事、7）レプリカ工事、8）外灯およびサイン等の工事について内容を記す。

1）待受け擁壁工事

南側広場の東側に位置する丘陵の裾部に沿って残存する石積みの前面に、現場打ちコンクリートによる待受け擁壁（全長＝25422、H=3000）を設置した（第41図）。待受け擁壁はＬ型平面とし、短辺の端部は既存の石積みおよび東側斜面に突き当てて収めることとした。新設した擁壁の内側では、既存石積みを積み直して、これに沿って側溝を入れた。また側溝と擁壁の間には、土間コンクリートを打設した。待受け擁壁内部での排水は、側溝から擁壁を貫通して南側の雨水桝へと流れ、擁壁の外周に設置した側溝を通じて行なうようにした。

また工事にあわせて待受け擁壁内部への侵入を防止するため、擁壁内部へ通ずる北側の通路部分から擁壁天端を跨ぐようにメッシュフェンスを設置した。また擁壁内部の管理を目的として、通路部分のメッシュフェンスには片開き扉を設けた。

写真66　待受擁壁施工状況1（外側、南西から）

写真67　待受擁壁施工状況2（内側、北西から）

写真68　擁壁南側の雨水桝施工状況（西から）

写真69　侵入防止用フェンス施工状況（北から）

2）直接仮設工事

地表面の浅層改良（GL-1m、固化材 100kg/ ㎥）を行った後、新設した待受擁壁を基準として展示施設の位置を決定し、その縄張りを行った。なお仮設工事に先立って、展示施設と待受擁壁の間に設けるメッシュフェンスの基礎を設置した。

写真 70　仮設工事縄張り（北から）

写真 71　メッシュフェンス基礎の設置状況（北から）

3）床スラブ鉄筋工事

展示施設の縄張りを行った場所において、まず床掘り、砕石地業、防湿ポリエチレンフィルムシート敷き（t=0.15mm）、捨てコンクリート打設（50d）等を行った。その後、床スラブ配筋（上端、下端ともに D13 @ 200）を施工した。

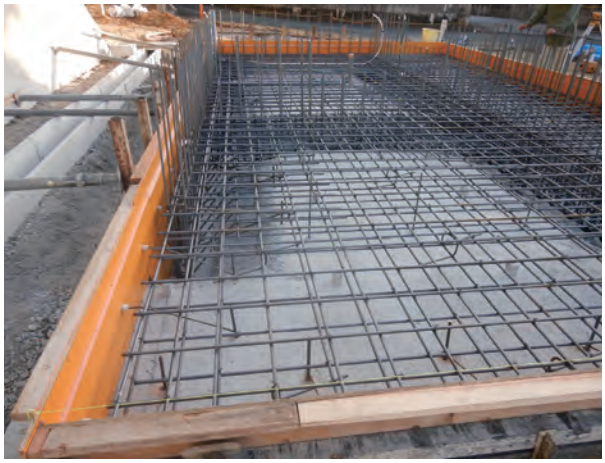


写真 72　床スラブ配筋施工状況（北から）

写真 73　基礎フーチング部分の配筋（南から）

4）壁および屋根スラブ鉄筋工事

床スラブの配筋を検査した後、コンクリートを打設し、ついで壁型枠を設置した。建物内側の壁型枠を設置した後、壁配筋（縦筋 D13 ダブル、横筋 D10 ダブル）を行ない、配筋検査を経て外側の壁型枠を設置した。配筋検査では、縦筋および横筋の径およびピッチ、かぶり厚さ（50mm 以上）等をおもに確認した。外壁の設計仕様は、コンクリート打放しの上に保護塗料塗りとしているため、型枠は打放し用の化粧型枠を使用した。壁配筋および壁型枠設置後、屋根型枠および天井型枠を設置し、その後に屋根スラブ配筋を行った。

写真 74　内側壁型枠施工状況（北西から）

写真 75　壁配筋施工状況（北から）

写真 76　壁配筋ピッチ確認作業（開口部脇、北から）

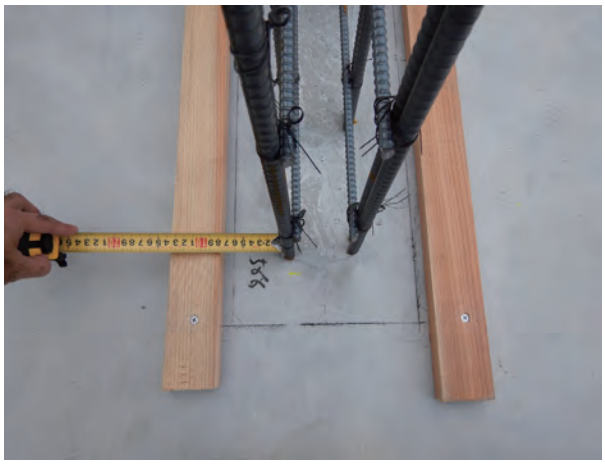


写真 77　壁配筋かぶり厚確認作業（北から）

写真 78　開口部補強施工状況（東から）

写真 79　外側壁型枠施工状況（南西から）

写真 80　屋根型枠施工状況（北から）

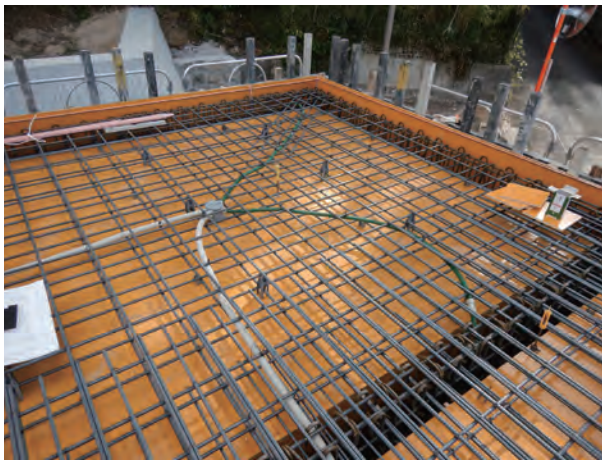


写真 81　屋根スラブ配筋施工状況（西から）

5）壁および屋根スラブコンクリート工事

壁および屋根スラブのコンクリートを打設した後、5日間の養生期間をおいて壁型枠の脱型作業を行った。天井型枠は支保工により支持し、さらに6日間の養生期間をおいて屋根スラブの脱型作業を行った（第 42 図）。

写真 82　壁型枠脱型後の補修状況（南東から）

写真 83　天井型枠の支保工（北西から）

写真 84　天井型枠の脱型（北西から）

写真 85　天井型枠脱型後の状況（北西から）

写真 86　軒天型枠の脱型（北西から）

写真 87　屋根スラブ型枠脱型後の状況（西から）

6）鉄骨屋根工事

屋根スラブのコンクリート打設時に墨付けとアンカー設置を行ない、鉄骨フレームを緊結してガルバリウム鋼板（t-0.6mm）折板葺屋根を設置した（第 43・44 図）。

写真 88　屋根スラブアンカー設置状況（南西から）

写真 89　鉄骨屋根の設置状況（西から）

7）レプリカ工事

城山横穴群の南側丘陵に位置し、ここに特徴的な羨門部の石組を持つ横穴墓（Y133）のレプリカを製作し、展示施設に設えた。レプリカは、強度面や経年変化による退色の少なさ等の理由から、GRC（ガラス繊維補強セメント）で製作することとした。羨門部の石組を展示施設の外部（北側）に設置し、さらに横穴墓の内部を観察できるように西面に窓を設けた。なお工事の前に模型を製作し、レプリカの構成や質感を確認したうえで一連の作業を進めた。

写真 90　模型による事前確認

写真 91　羨門部石組の模型

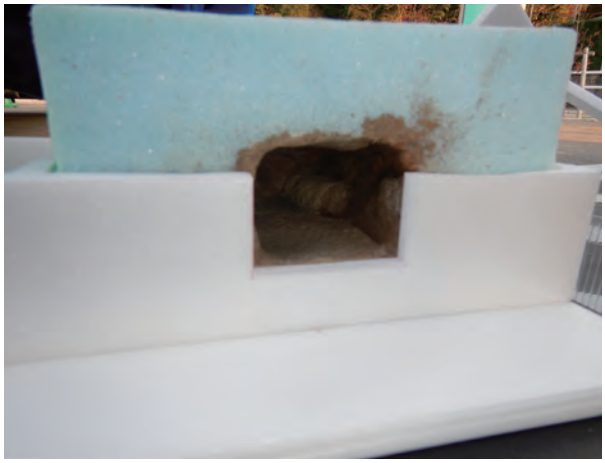


写真 92　西面窓および横穴墓内部の模型

写真 93　模型による質感の確認

写真 94　土嚢撤去後の横穴墓 Y133（北東から）

写真 95　石材表面の汚れ除去作業風景（北から）

写真 96　町生涯学習課による立会（北から）

写真 97　羨門に残る赤色顔料（北から）

写真 98　レプリカ型取施工状況（北東から）

写真 99　剥離剤の塗布施工状況（北東から）

写真 100　シリコンの準備作業

写真 101　シリコン塗布作業風景（北から）

写真 102　シリコン塗布状況（北から）

写真 103　ガラスマット張り施工状況（北から）

写真 104　シリコンのバックアップ完了状況（北から）

写真 105　シリコンの脱型（北から）

写真 106　土嚢復旧作業風景（北西から）

写真 107　高耐候性土嚢の充填状況（北から）

レプリカを製作するにあたって、羨門部石組の型取りを行なうために、まず横穴墓の養生を目的として調査時に充填した土嚢を撤去した。その後、石組の表面に付着した汚れを除去すると、羨門部の石材に赤色顔料を用いた彩色が遺存していることを生涯学習課が確認したため、これもあわせてレプリカで再現することとなった。次に剥離剤を塗り、さらにシリコン（シラスコン RTV 8600_1KG）を塗布して乾燥・硬化させる作業を3回繰り返した。シリコンが硬化した後、その形状を保持するためのバックアップ材として表面にガラスマットを張り、シリコンを脱型した。作業が終了した後、撤去した土嚢を高耐候性土嚢に取替えて横穴墓内部に充填して復旧した。

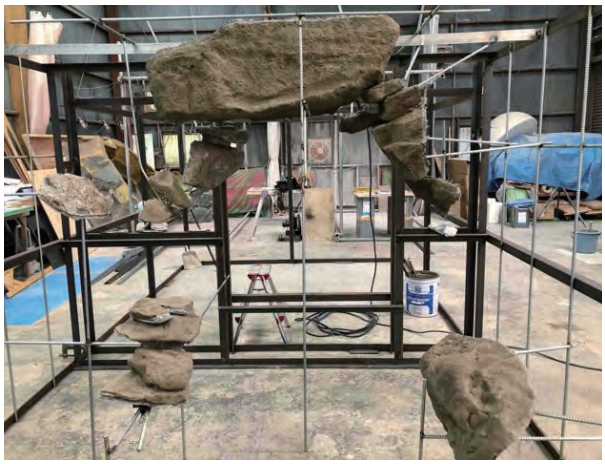


写真 108　レプリカ製作作業のリモート確認

写真 109　外部下地の組立状況（北から）

写真 110　外部石組の設置状況（北から）

写真 111　内部下地の組立状況（南から）

写真 112　レプリカ現場搬入時の立会

写真 113　仕上げ見本による確認

写真 114　モルタル吹付施工状況（外部、北から）

写真 115　モルタル吹付による成型（内部、南から）

型取り完了後、工場で鉄筋の下地および石組のレプリカを製作した。新型コロナ渦の移動制限により製作状況を工場で直接確認することは不可能だったが、生涯学習課および監理者がリモートによる動画映像で確認することができた。その後、施工現場に製品を分割して搬入し、生涯学習課の立会の下で下地の組立を行ない、規模や形状の確認と実物大の仕上げ見本により質感等を確認した。最後にガラス繊維を貼り付けた上からモルタル吹付により成型し、水系塗料（IP グロス、調色：YP エイジングペイント　オーカー）で塗装した（第 45・46 図）。

レプリカ工事が完了した後、外部展示用照明の保護カバーを取り付け、内部の結露対策として除湿機とサイクルファンを設置した。

写真 116　ガラス繊維とモルタル吹付による成型

写真 117　水系塗料による塗装 1（外部、北から）

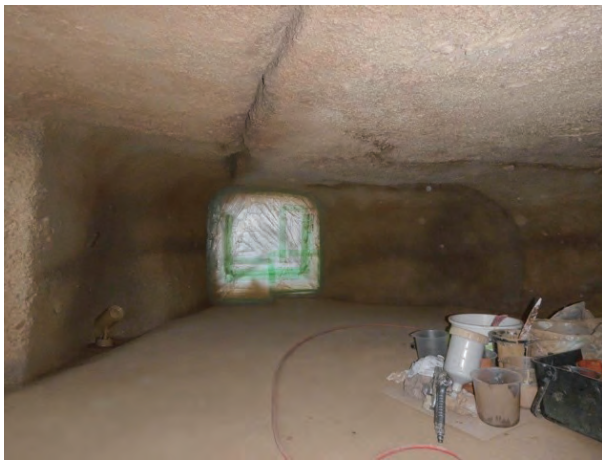


写真 118　水系塗料による塗装 2（内部、南から）

写真 119　外部展示用照明のカバー設置状況

写真 120　湿除機とサイクルファンの設置状況

写真 121　レプリカ竣工状況（北から）

8）外灯およびサイン等の工事

外灯のうち南側の3箇所については、前年度に展示施設側から配管を埋設していた。本年度の工事では、座標に基づき設置位置をあらためて指示し、現地にて動線を考慮しながら緑地内に納まるように微調整した。最も北側の1箇所については、既設の電柱から電源を引いた。

サインについては基準 GL の指示を行ない、床掘りと砕石地業を行った後にアンカーを埋め込んで基礎コンクリートを打設した。標柱については、床掘りの際に埋設排水管が検出されたため、位置を変更した（第 40・47・49 図）。

写真 122　南側外灯用の既設埋設管（西から）

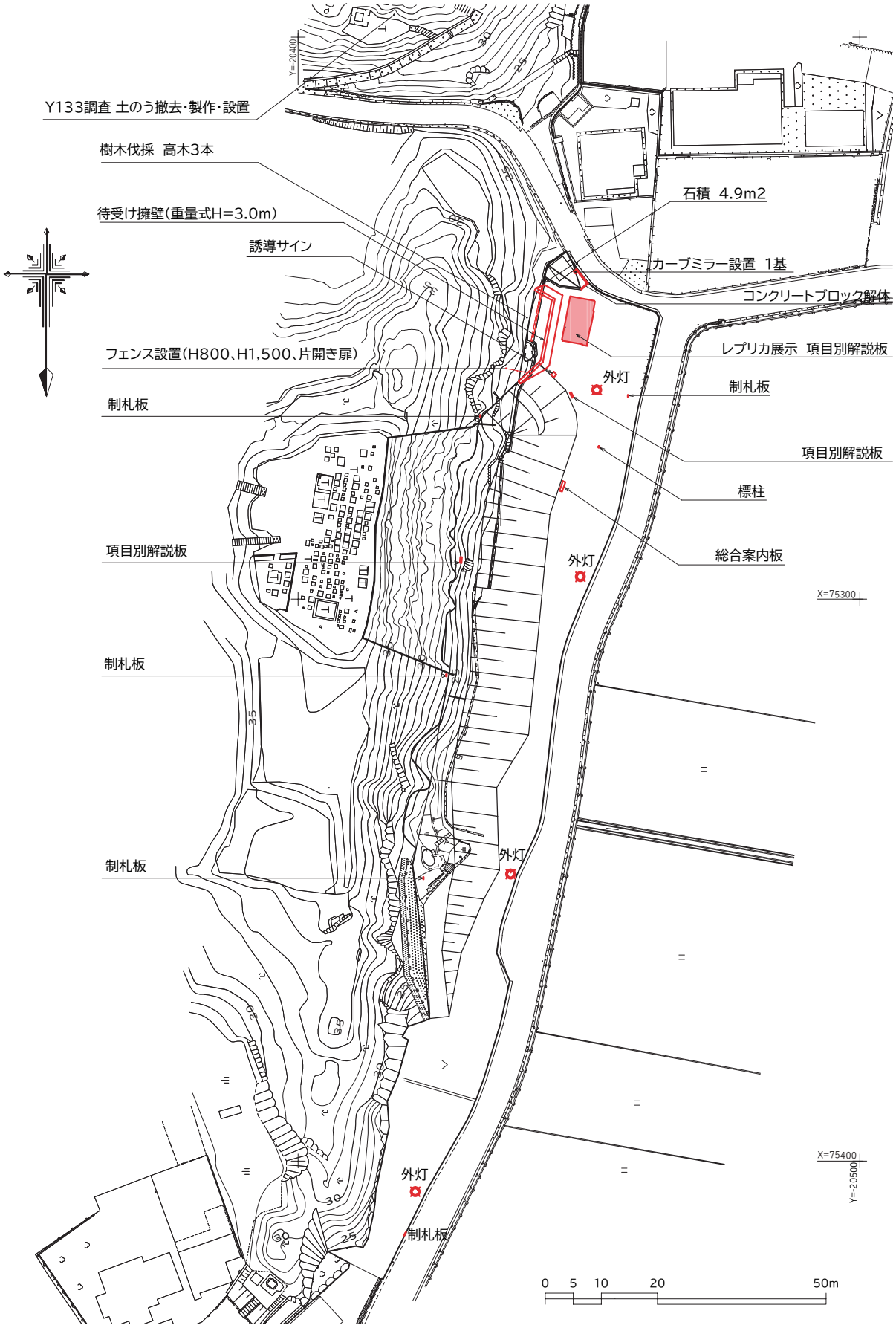
写真 123　標柱床掘削状況（南から）

写真 124　標柱基礎砕石工状況（南東から）

写真 125　解説板基礎コンクリート打設状況（南から）

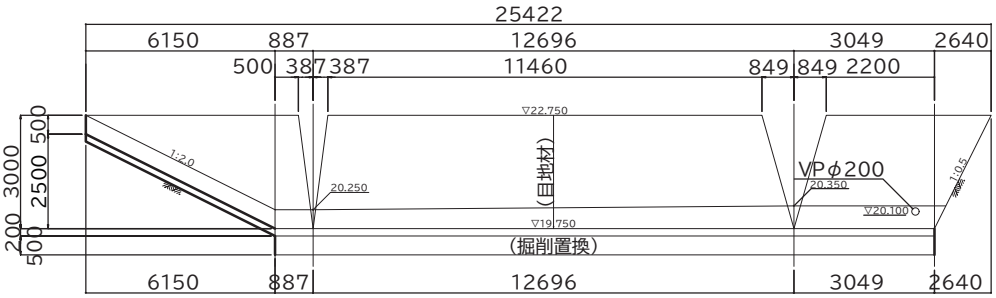
写真 126　サイン基礎コンクリート打設状況（西から）

写真 127　外灯およびサイン設置状況（南から）



第 40 図 展示施設全体計画平面図（1/1,000）

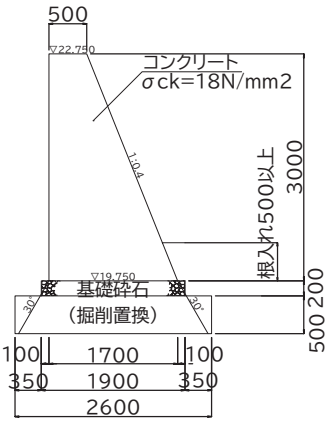
展 開 図 S=1:200



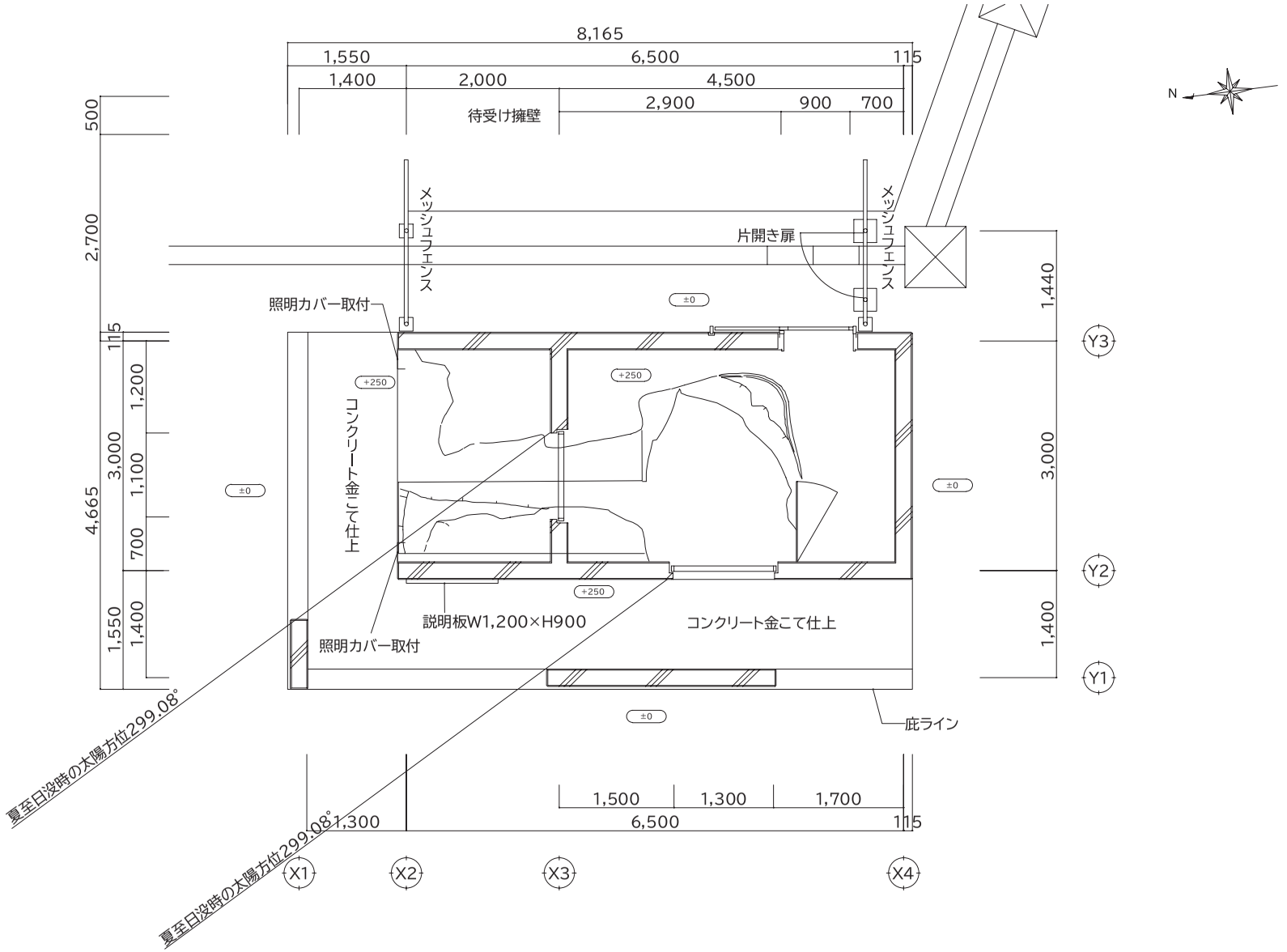
待受け擁壁地盤反力度

	最大地盤反力度 （計算値）Q	安全率 Fs	極限地盤反力度 （Q × Fs）	平板載荷試験 目標値
常時	83.631 kN/㎡	3.0	250.89 kN/㎡	251 kN/㎡

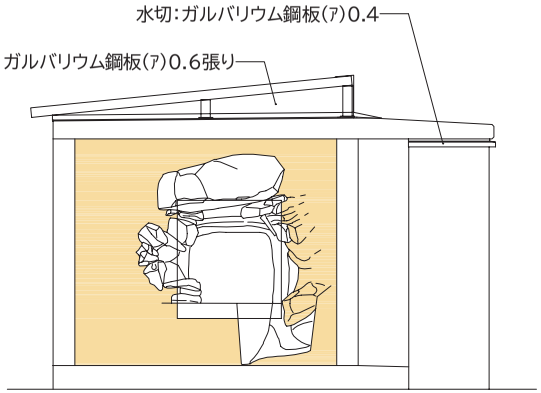
待受け擁壁 S=1:100



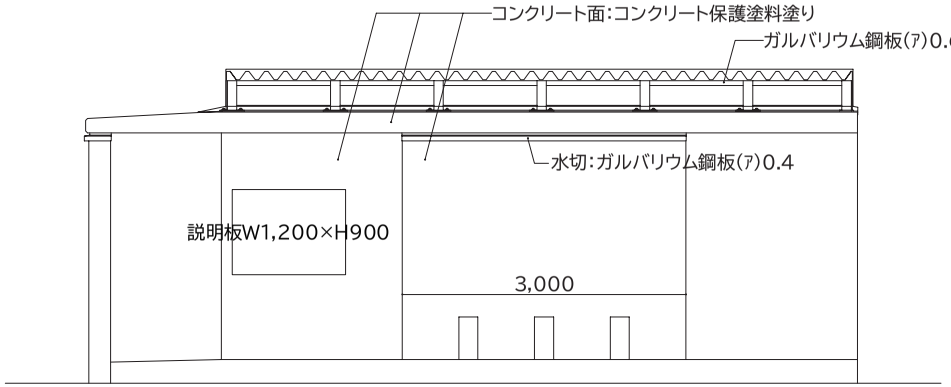
第 41 図 待受擁壁構造図（1/200・1/100）



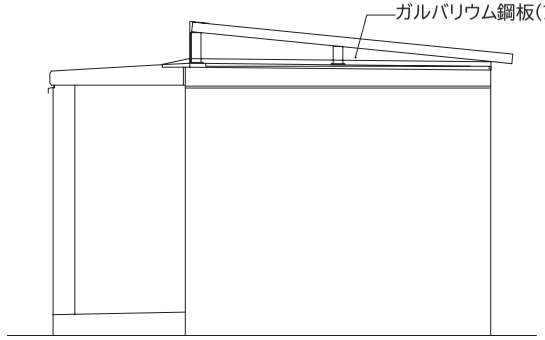
第 42 図　展示施設平面図（1/80）



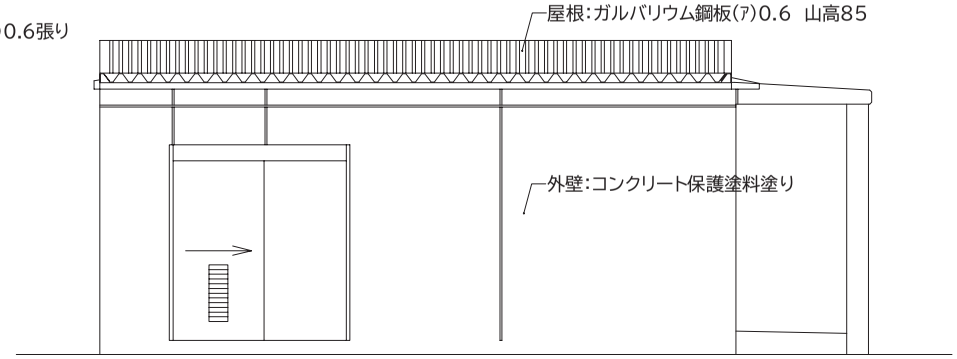
北側立面図



西側立面図

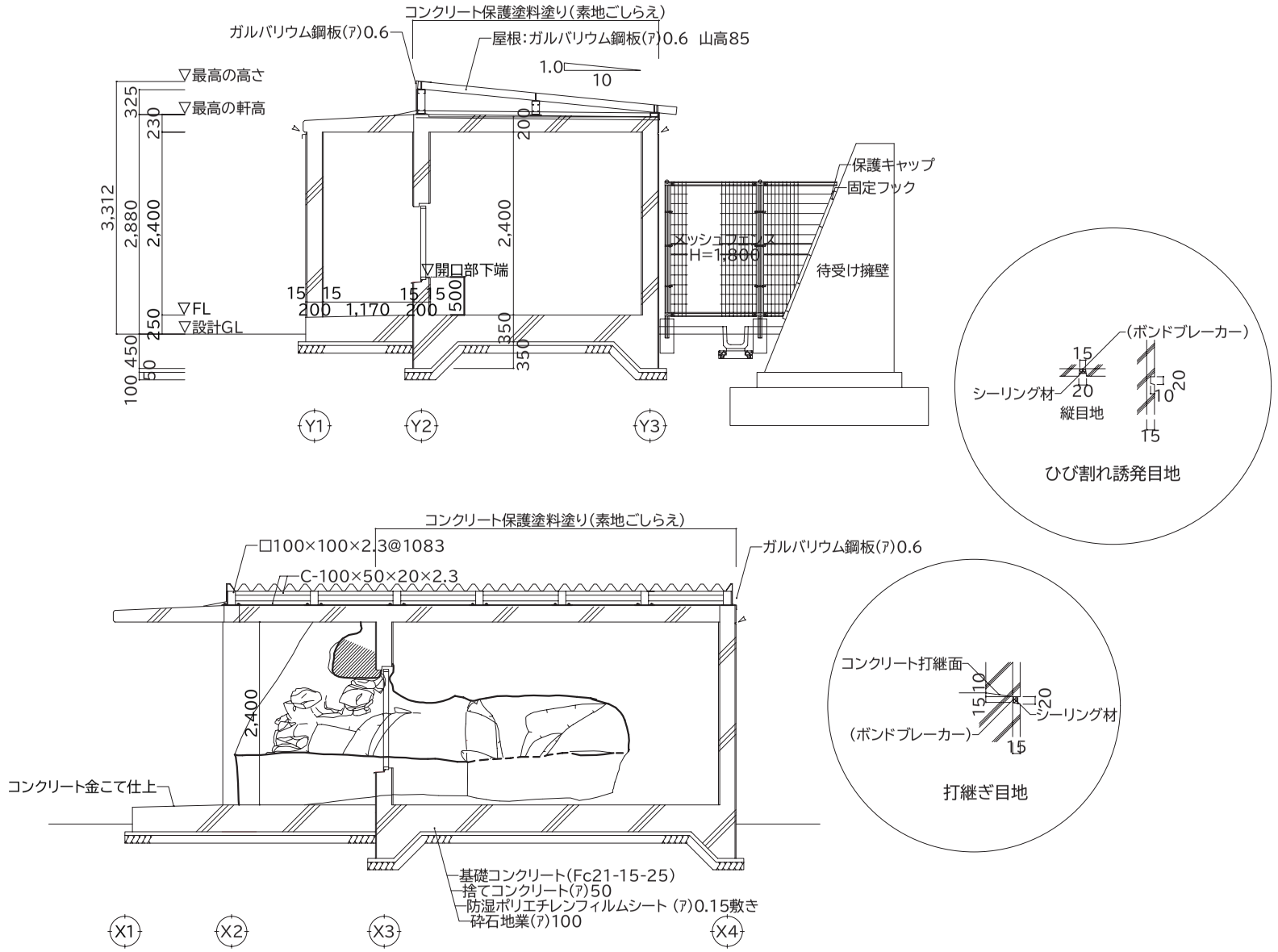


南側立面図

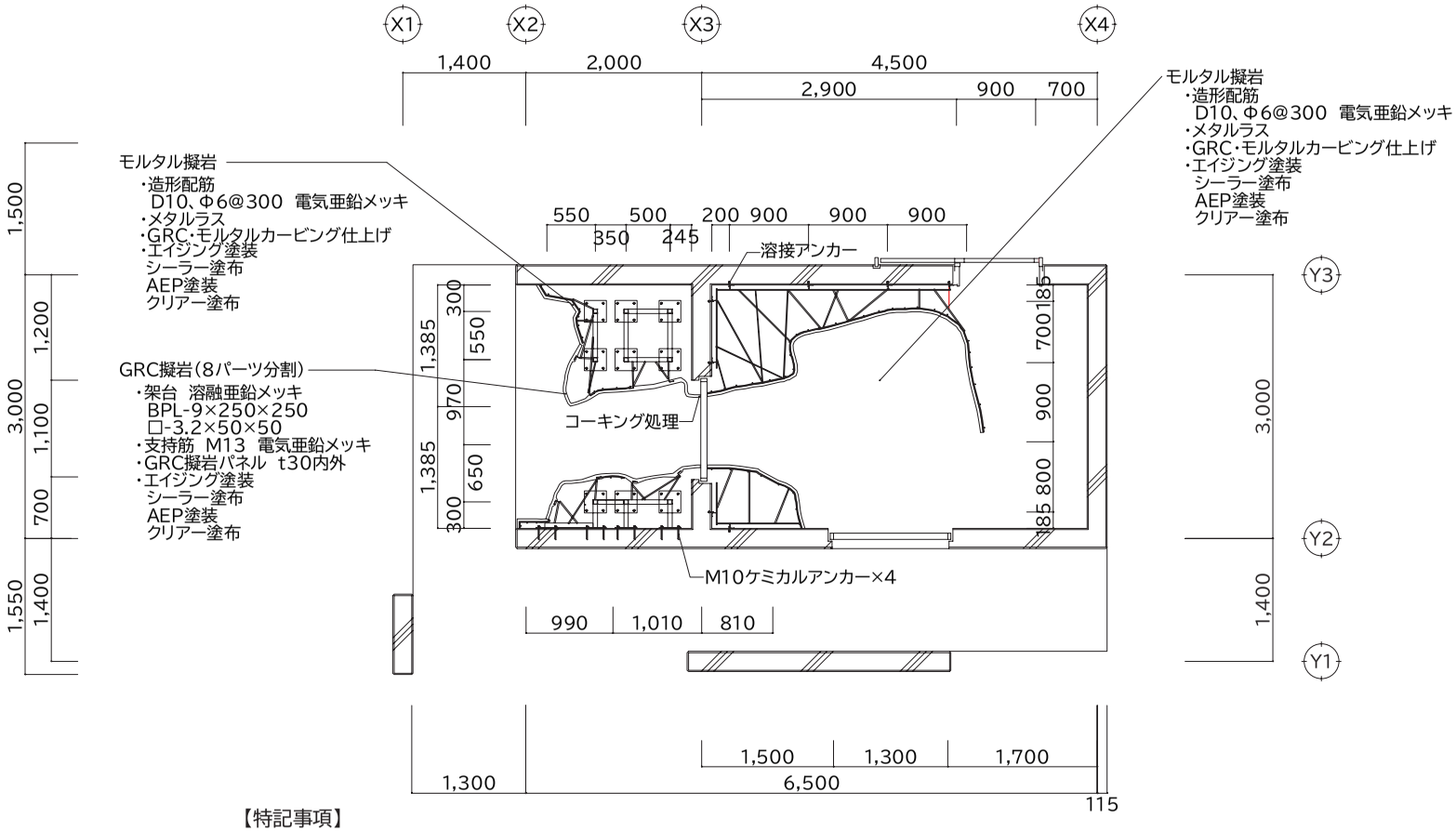


東側立面図

第 43 図　展示施設立面図（1/80）



第 44 図 展示施設断面図 (1/80)



【特記事項】

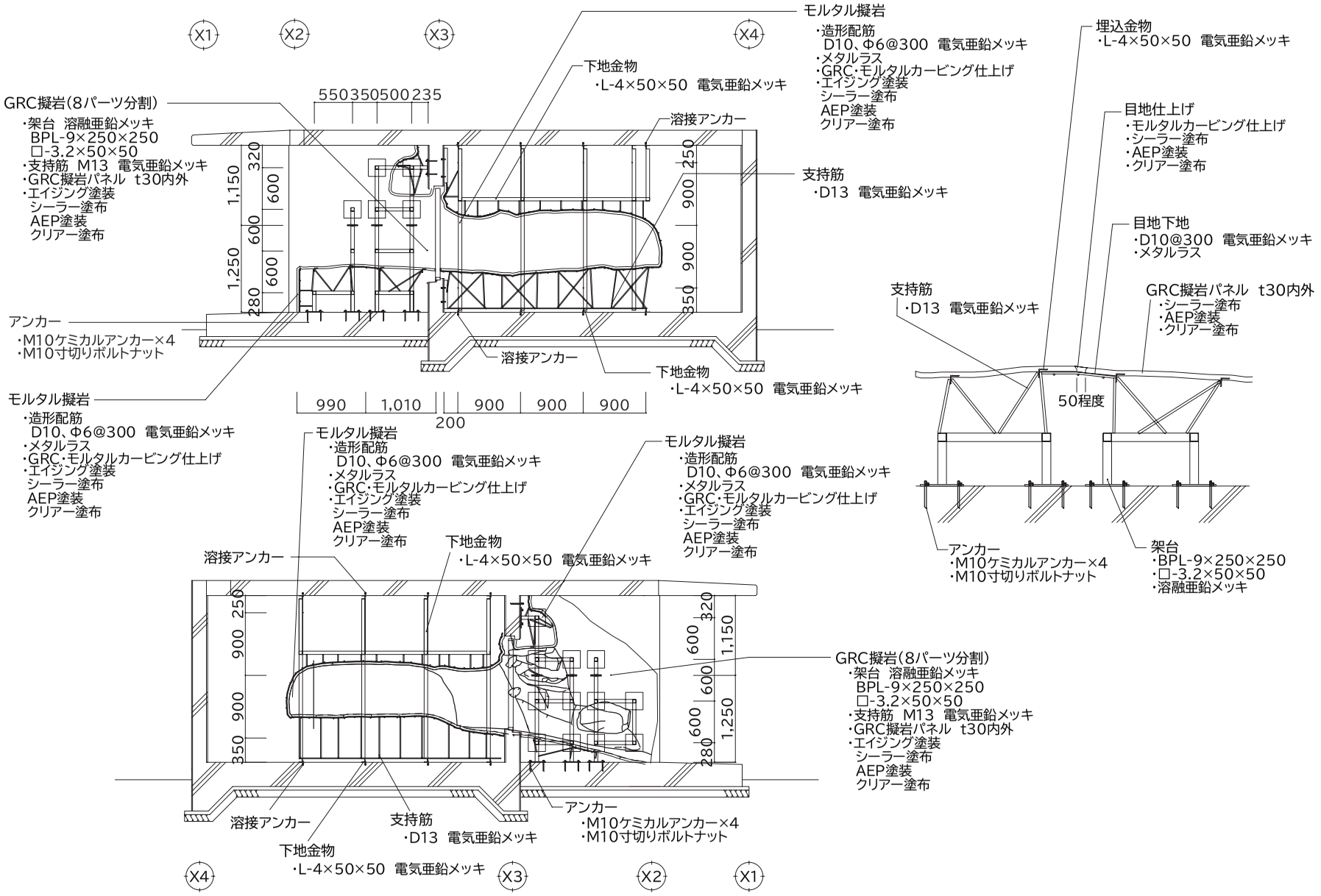
1. 一般事項

・製作にあたっては、監督員の指示に従って、対象となる資料の事前資料を綿密に行い、資料の形態、材質、保存状態などに合わせ、
もっともふさわしい製作方法、材料などを検討して製作計画を作成し、必要に応じてサンプル等を作成し監督員の承諾を得たうえで、製作すること。
・所有者・保管者などの許可が必要な場合、その考証、確認は監督員が行うものとする。
・対象となる資料の取り扱いについては充分に注意し、製作に際して、損傷することのないよう取扱いに注意すること。

2. 立体物レプリカ
成型・彩色

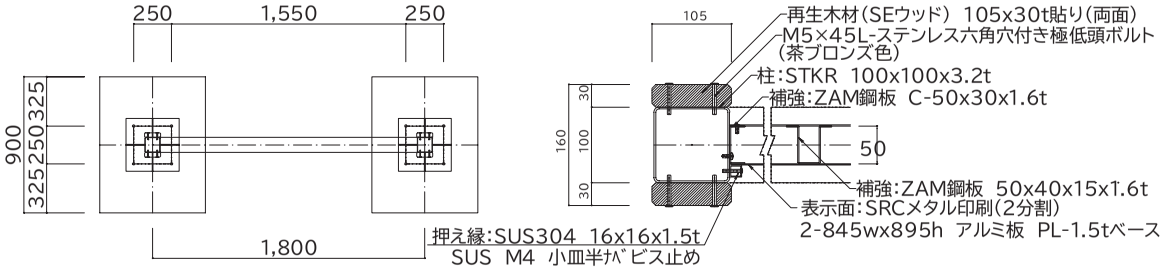
1)対象となる資料を入念に調査する。
2)形態、材質、強度、破損状態などを調査し、製作方法を監督員と充分に協議の上、決定する。
3)型取りまたは目測を行う。必要に応じ錫箔などで資料を養生したうえで、シリコンゴムなどの柔軟な素材を用いて、型取りする。
その上に石膏や樹脂などの硬質な材料で補強を行い、充分に硬化したところで型をはずす。
4)成形をおこなう。
5)型のなかに樹脂を塗り繊維を混入して強化する。充分に硬化したところで成形物を取り出す。
6)彩色して仕上げる。資料に忠実に彩色を行い、色、質感を再現する。

第 45 図 レプリカ平面図（1/80）

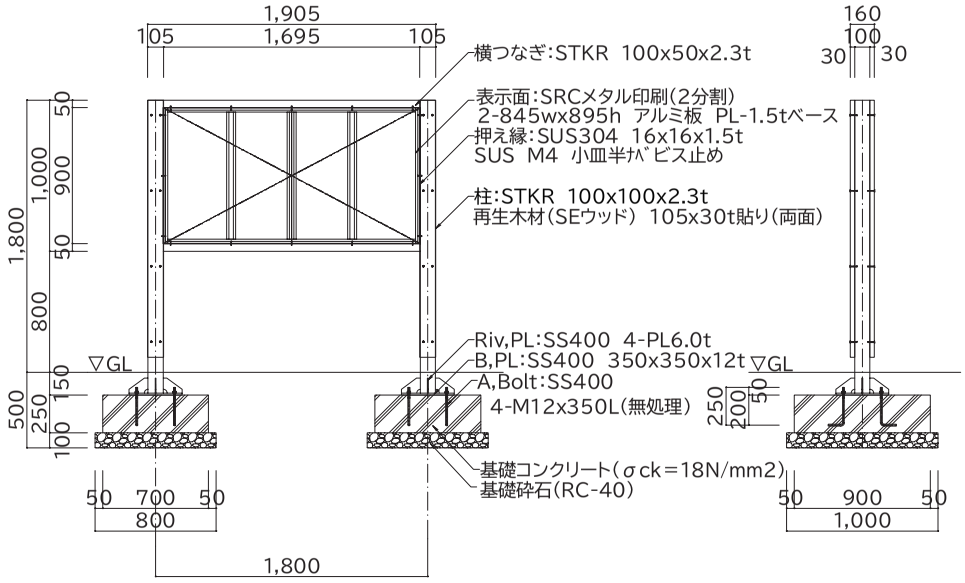


第 46 図 レプリカ断面図 (1/80)

総 合 案 内 板

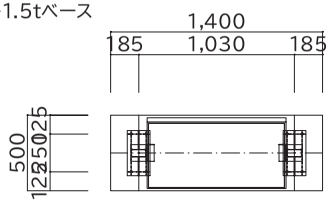


平面図 S=1:50　　平断面図 S=1:10

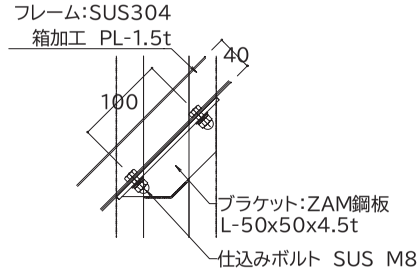


立面図 S=1:50　　側面図 S=1:50

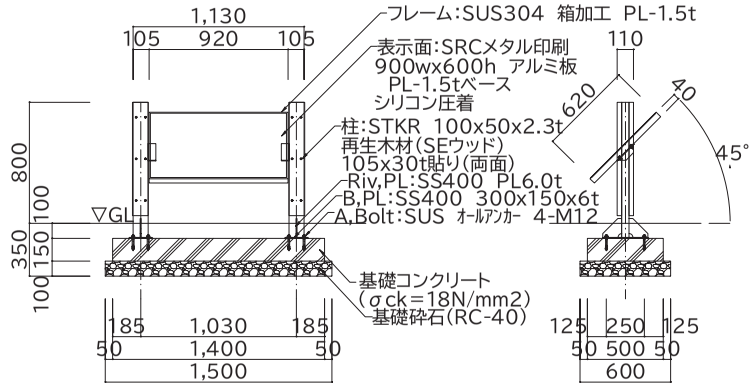
解 説 板



平面図 S=1:50



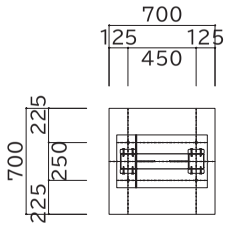
部分詳細図 S=1:10



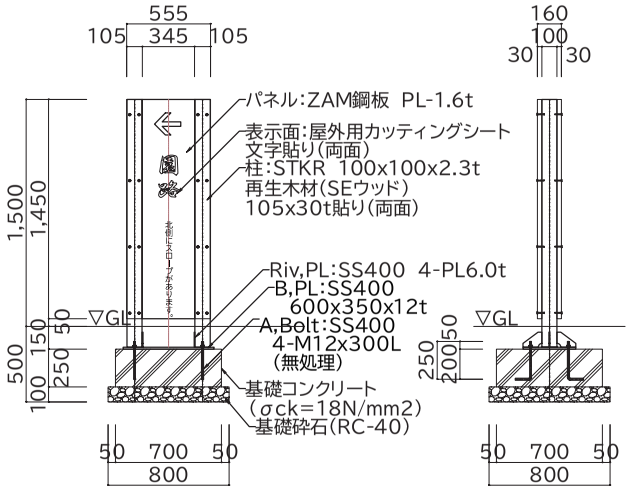
平面図 S=1:50　　側面図 S=1:50

第 47 図 案内板構造図 (1/50・1/10)

誘導サイン

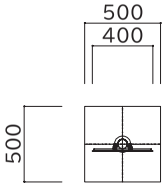


平面図

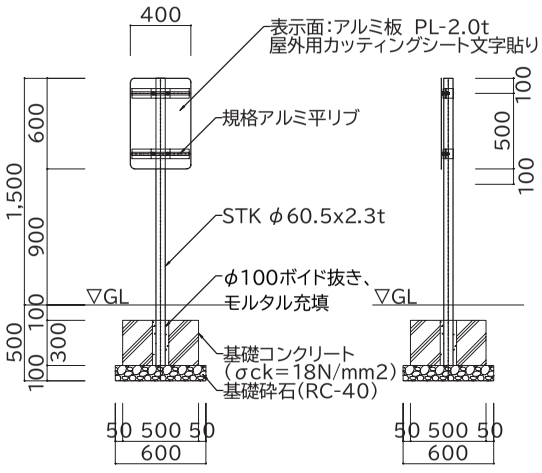


立面図　　側面図

制札板

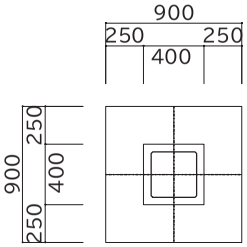


平面図

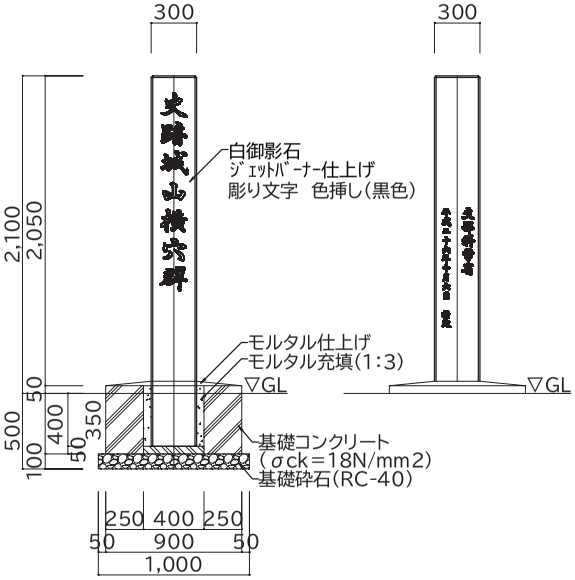


立面図　　側面図

史跡標柱



平面図



立面図　　背面図

共通　特記事項

＊ステンレス材、アルミ材を含む鋼材は、見え掛かり部分をウレタン樹脂塗装仕上げとする。
＊表示面は屋外用カッティングシート文字とし、表示内容は監督員との協議により決定する。
＊白御影石は中国産材とし、ジェットバーナー仕上げとする。
＊彫り込み文字の仕様(書体・サイズ)は監督員との協議により決定する。
＊ISO9001認証取得企業の管理・製造品とする。
＊生産物責任法(PL法)に対応した保険加入品とする。
＊国土交通省が品質確保の重要性に基づき登録した公園施設の点検・診断を適正に 実施・管理統括出来る技術資格保有者(公園施設製品安全管理士)の管理・製造品とする。

第 48 図　誘導サイン・制札版・標柱構造図 (1/50)

（3）法面遺構防災工事

本工事は、遺構が集中する丘陵斜面において、1）準備工、2）吹付法枠工、3）法面工、4）横穴模型工の各工程を行った（第 49 図）。以下、それぞれの内容を記す。

1）準備工

工事に先立ち、東側墓地から親綱を張って安全を確保しながら遺構面の除草清掃を行った。

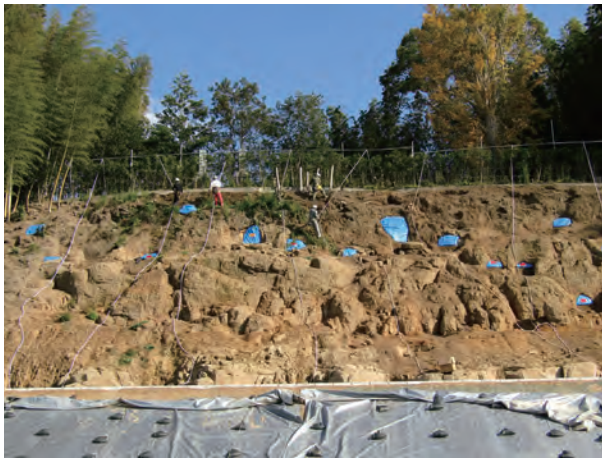


写真 128　遺構面清掃作業風景（西から）

写真 129　親綱設置状況（南から）

2）吹付法枠工

吹付法枠工（□ 200*200）は、まず横穴墓を防水シートで覆い、主アンカー（D16 L1000）を打ち込み、羨道部の形状にあわせて馬蹄形に鉄筋（D10）と鉄網（5mm）を連結させて組み立てた。次いで遺構面を養生シートで覆い、モルタルを吹付けた。

写真 130　吹付法枠鉄筋組立施工状況（南西から）

写真 131　吹付法枠鉄筋組立完了状況（西から）

写真 132　シートによる遺構養生（南西から）

写真 133　モルタル吹付完了状況（南西から）

3）法面工

裏面排水工、プレート付きアンカー工、地下排水工、連続繊維補強土工、ラス金網工、カラーモルタル吹付工、種子吹付工の各工程を行った（第 50 ～ 58 図）。工事の際には、遺構への影響を最小限に抑えるよう細心の注意を払った。

まず、遺構面全面に裏面排水として面上排水材（幅 w300）を北側斜面から 1m 間隔で斜めに設置し、アンカーピン（φ 9 L200）で固定した。ある程度これを施工した段階でドリル（φ 22）による削孔を行ない、プレート付きアンカー（D19 L1200）をハンマーで打ち込んだ。裏面排水材の設置完了後、遺構面下部の法尻に裏面排水を集水するための地下排水有孔管（VP75）を敷設し、無孔管（VP75）を 10m 間隔で管理通路集水桝に接続させる工事を行った。

裏面排水等の下地処理が完了した後、砂および繊維からなる連続繊維補強土（平均厚 20 ㎝）の同時吹付作業を南側斜面下から開始した。なお、砂・モルタルの吹付プラントは敷地傍の駐車場に、繊維吹付プラントは遺構法尻の管理通路に設置した。施工時には、調査時の遺構や法面の形状が表現できるよう工夫し、表面の凹凸を可能な限り再現した。施工後、連続繊維補強土全面にラス金網（φ 2.0 ＊ 50）を固定ピン（L200）で張付けた。

ラス金網の固定後、無機顔料（バイフェロックス）でカラーモルタル（+50）の色調を整え、遺構面（ベージュ）、横穴墓（濃茶）、墓道（明茶）、岩露出（灰）の 4 種類に分けて表現を行った（第 59 図～61 図）。遺構群の外周（北、東、南）では種子吹付工により法面緑化し、景観に配慮した。顔料による表現では何度も試し吹きによる色調の確認を行って慎重に色調を決定、旧地形に残された痕跡が判別できるよう表現した。

写真 134　裏面・地下排水工の施工状況（北西から）

写真 135　プレート付アンカー工の状況（北から）

写真 136　裏面処理完了状況（西から）

写真 137　連続繊維補強土吹付施工状況（南西から）

写真 138　砂・モルタル吹付プラント（南西から）

写真 139　繊維吹付プラント（北から）

写真 140　連続繊維補強土工竣工状況（南から）

写真 141　カラーモルタルの色調（左から横穴、墓道、遺構面、岩露出）

写真 142　法面遺構防災工事竣工状況（西から）

4）横穴模型工

施工範囲に保存される横穴墓のうち、閉塞部を含めた保存状態の比較的良好な遺構についてモルタル造形により復元模型を3基分製作した（第 62・63 図）。

写真 143　復原模型設置箇所（南西から）

写真 144　作業用足場の設置状況（北から）

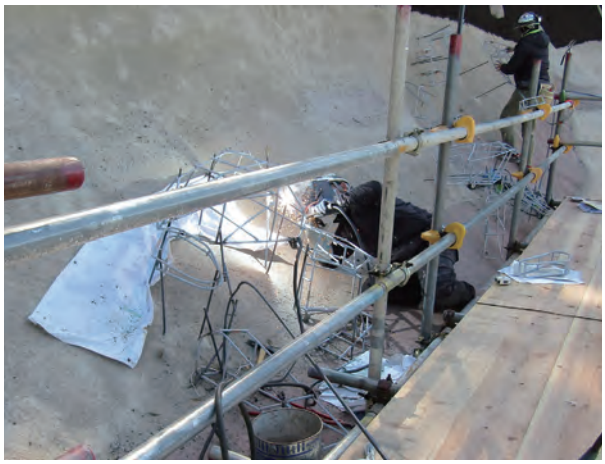


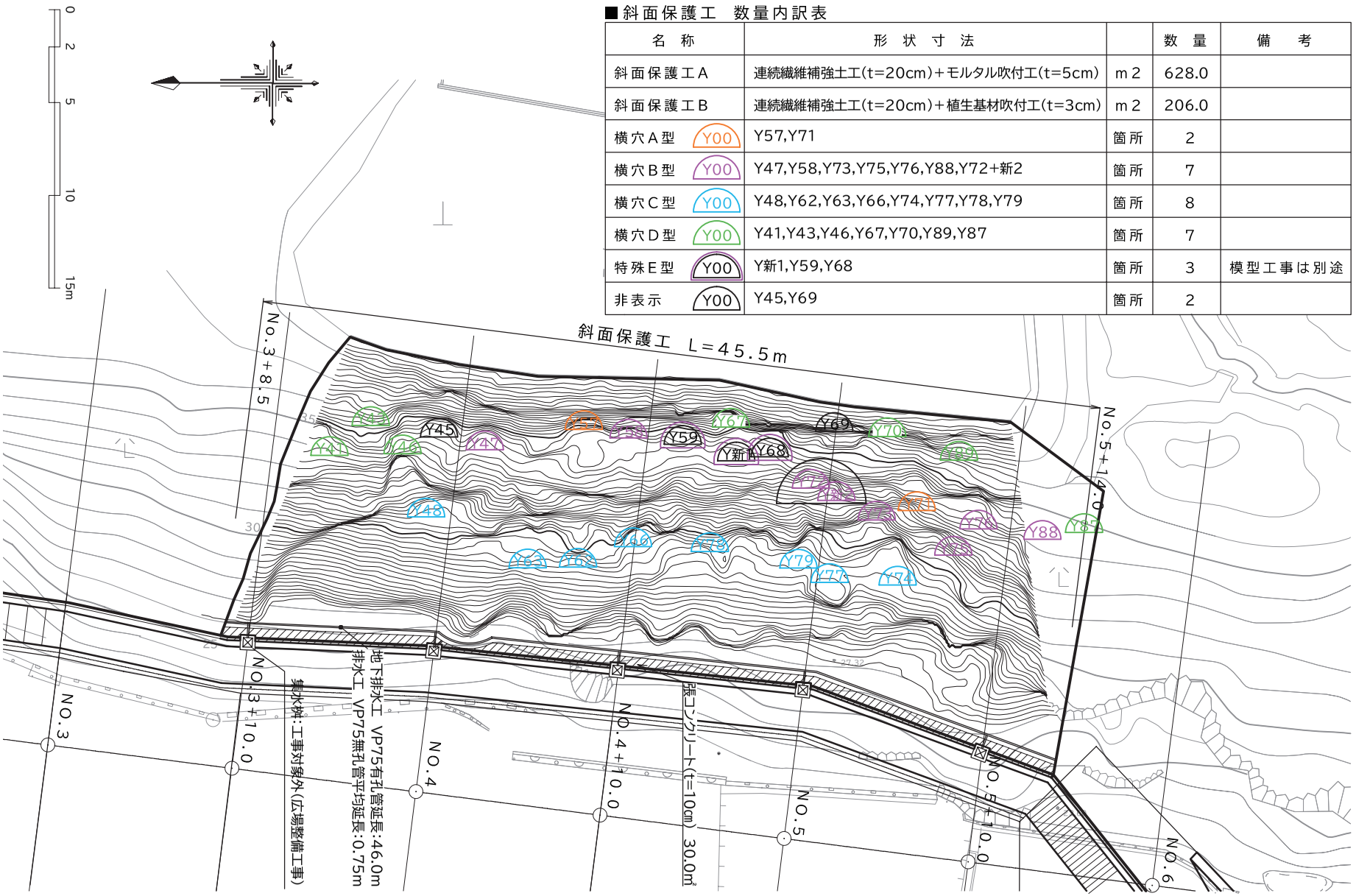
写真 145　復元模型の鉄筋溶接（北から）

写真 146　復元模型の下地モルタル塗布（北西から）

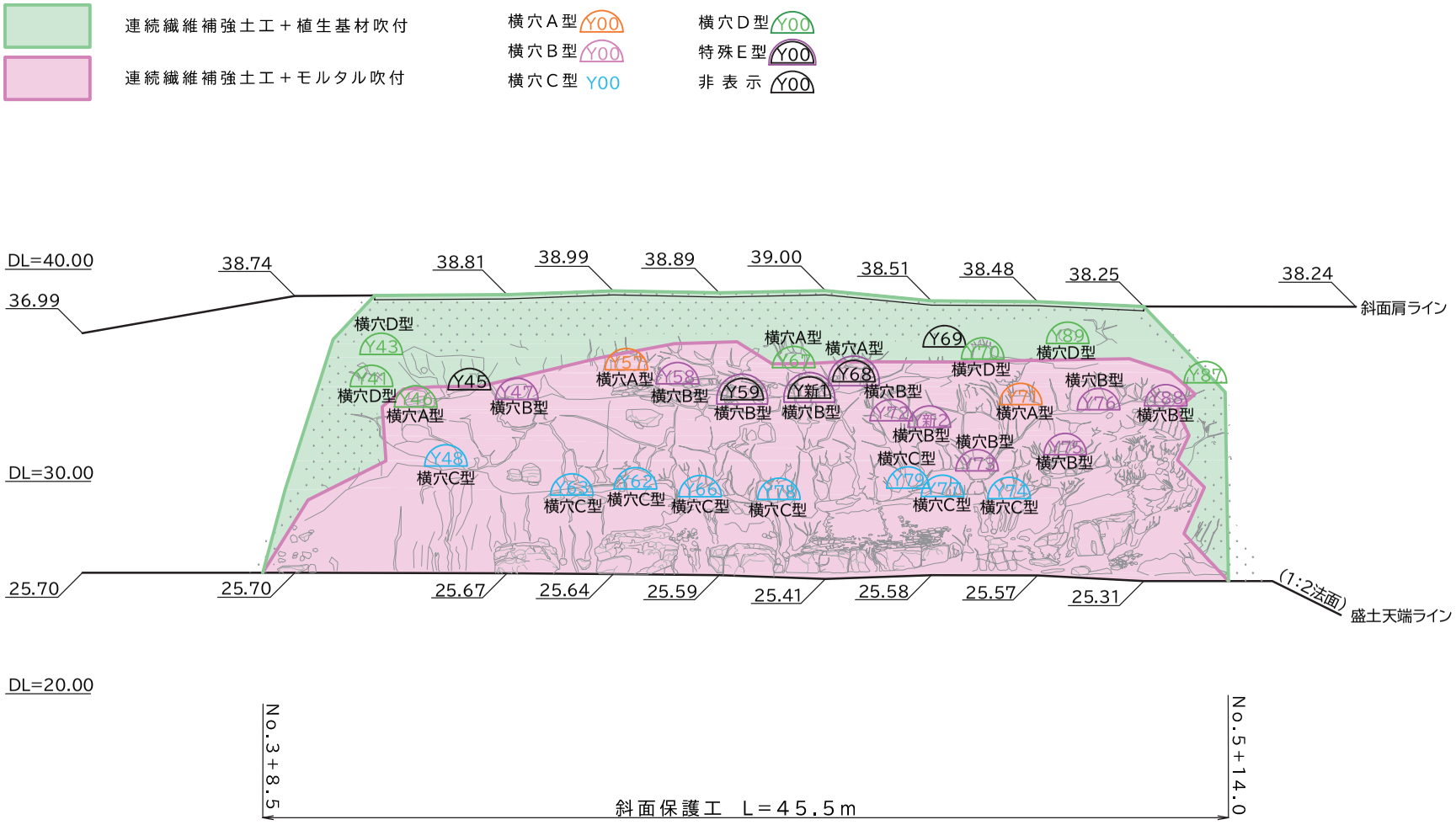
写真 147　復原模型竣工状況（西から）

■斜面保護工　数量内訳表

名　称	形　状　寸　法		数　量	備　　考
斜面保護工A	連続繊維補強土工(t=20cm)＋モルタル吹付工(t=5cm)	m2	628.0	
斜面保護工B	連続繊維補強土工(t=20cm)＋植生基材吹付工(t=3cm)	m2	206.0	
横穴A型 Y00	Y57,Y71	箇所	2	
横穴B型 Y00	Y47,Y58,Y73,Y75,Y76,Y88,Y72+新2	箇所	7	
横穴C型 Y00	Y48,Y62,Y63,Y66,Y74,Y77,Y78,Y79	箇所	8	
横穴D型 Y00	Y41,Y43,Y46,Y67,Y70,Y89,Y87	箇所	7	
特殊E型 Y00	Y新1,Y59,Y68	箇所	3	模型工事は別途
非表示 Y00	Y45,Y69	箇所	2	

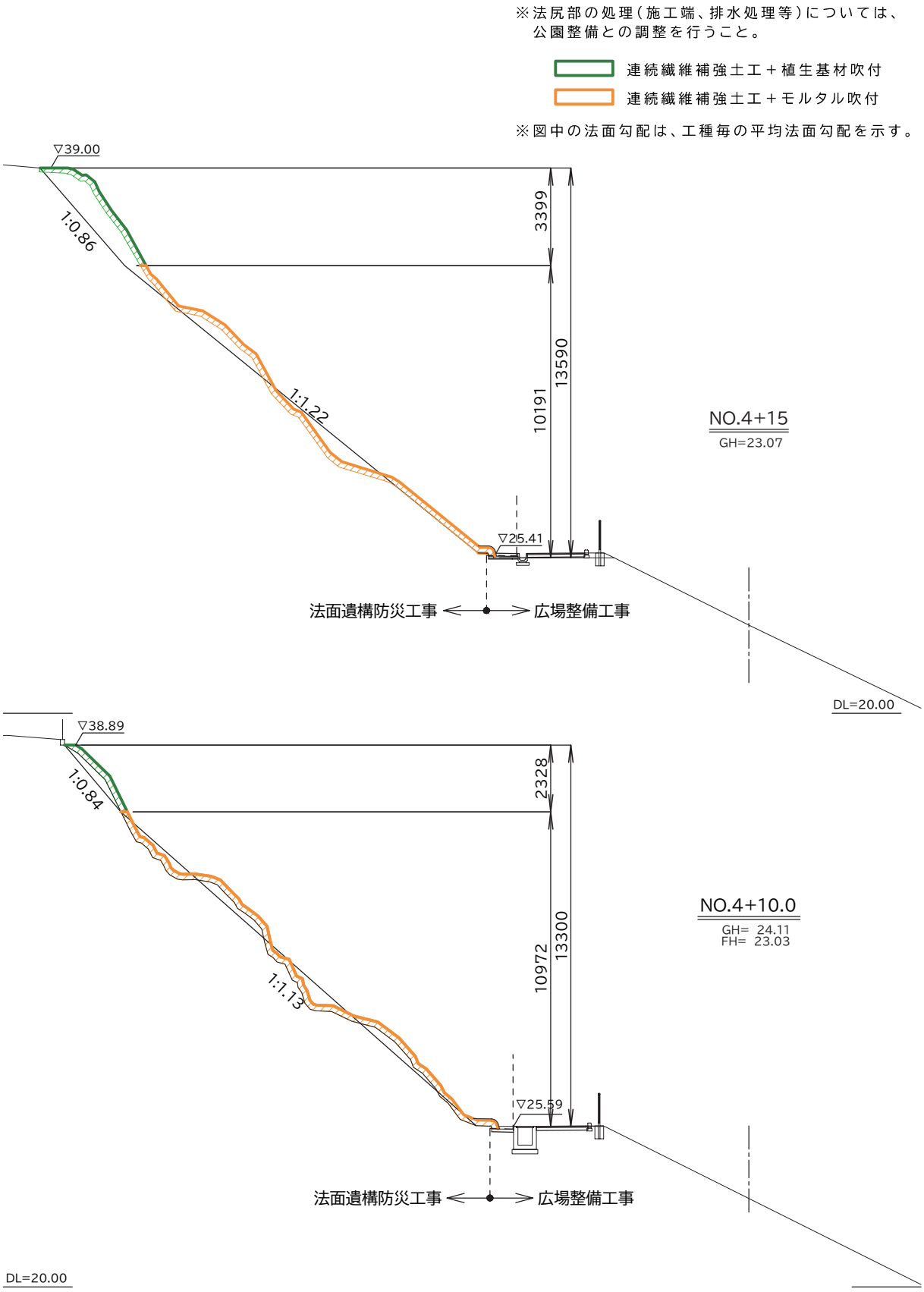


第 49 図　法面遺構防災工事全体平面図（1/300）



第 50 図 法面遺構保全展開図（1/300）

第 51 図　法面断面図 1（1/200）



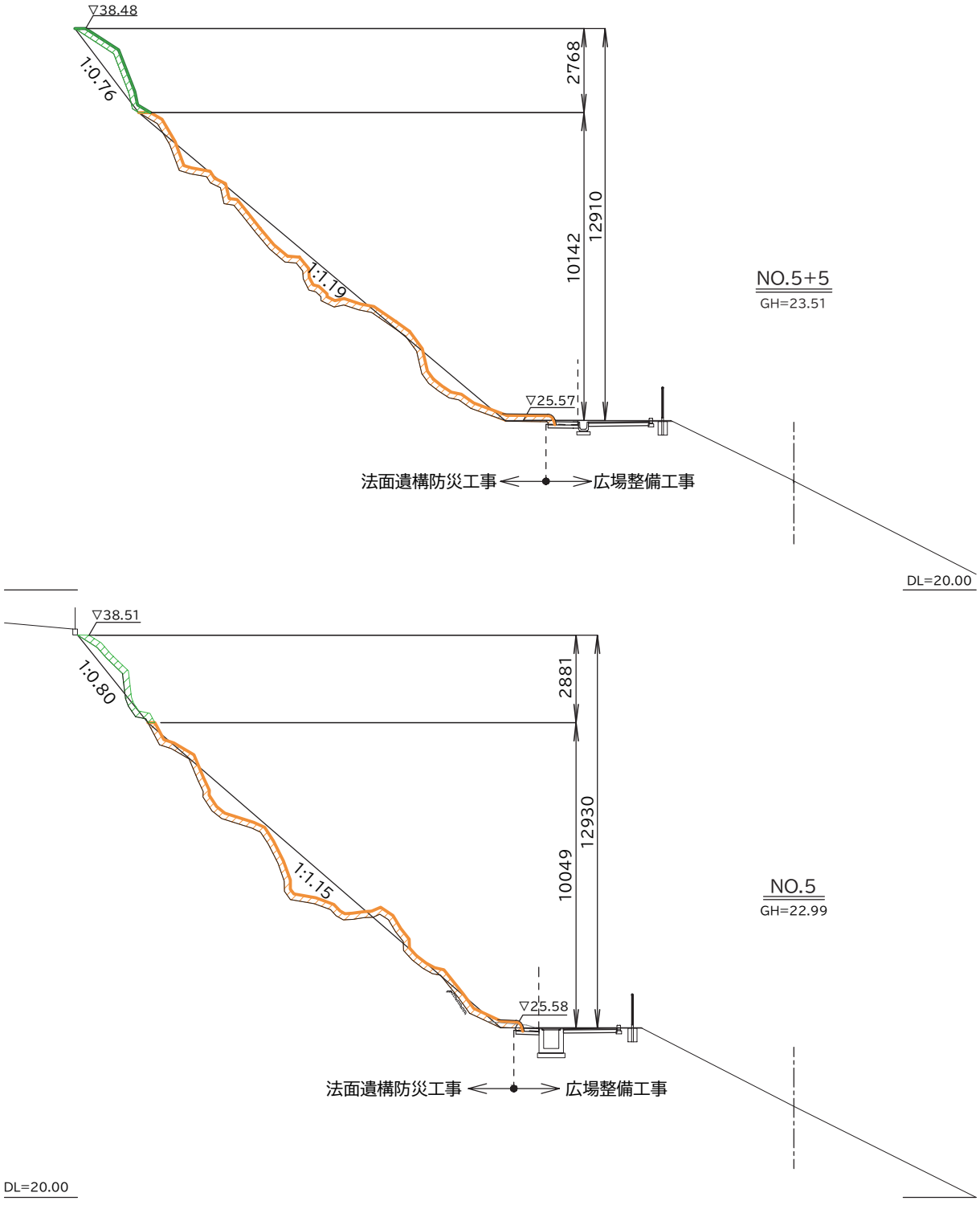
第 52 図　法面断面図 2（1/200）

※法尻部の処理（施工端、排水処理等）については、
公園整備との調整を行うこと。

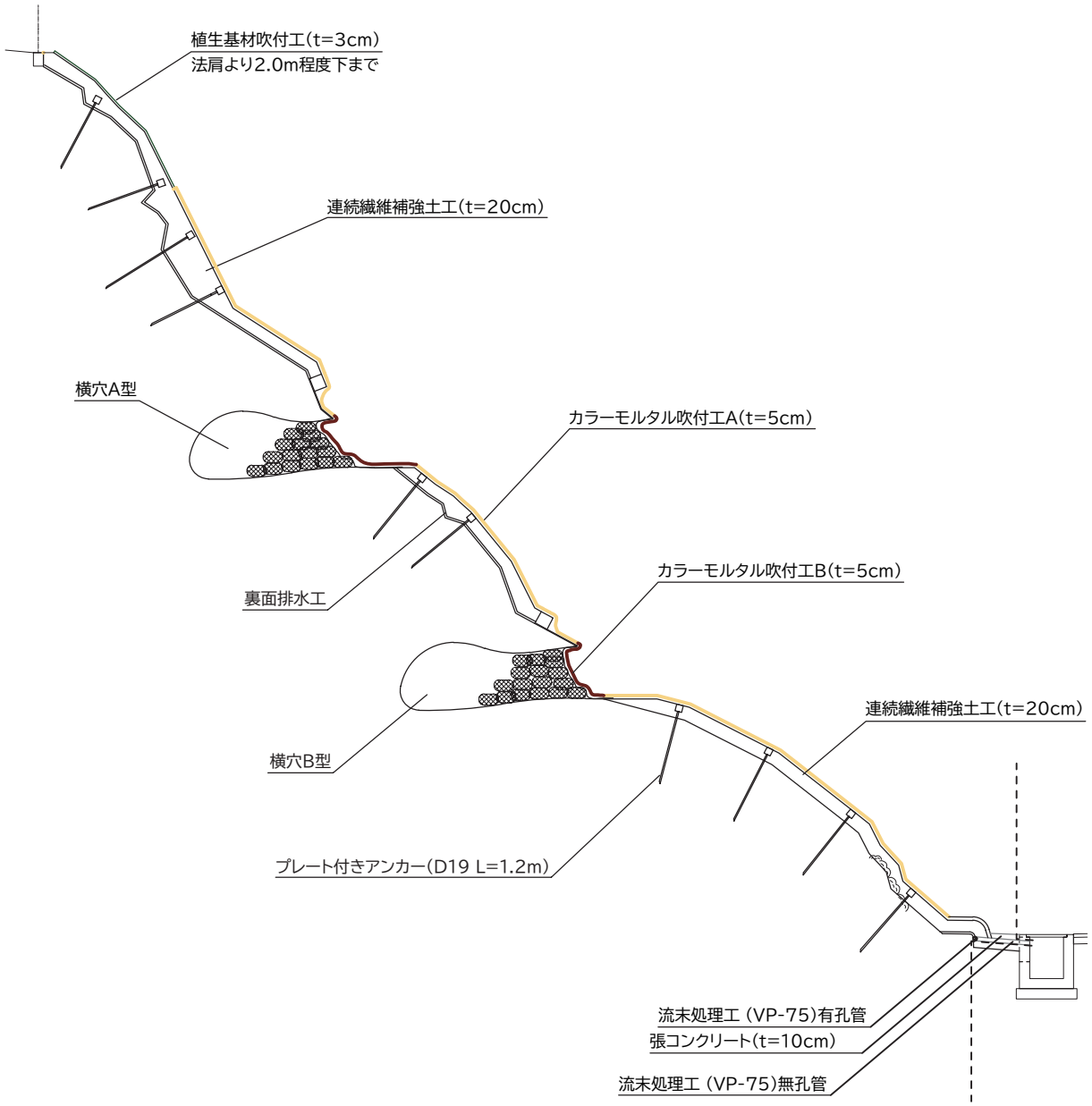
連続繊維補強土工＋植生基材吹付

連続繊維補強土工＋モルタル吹付

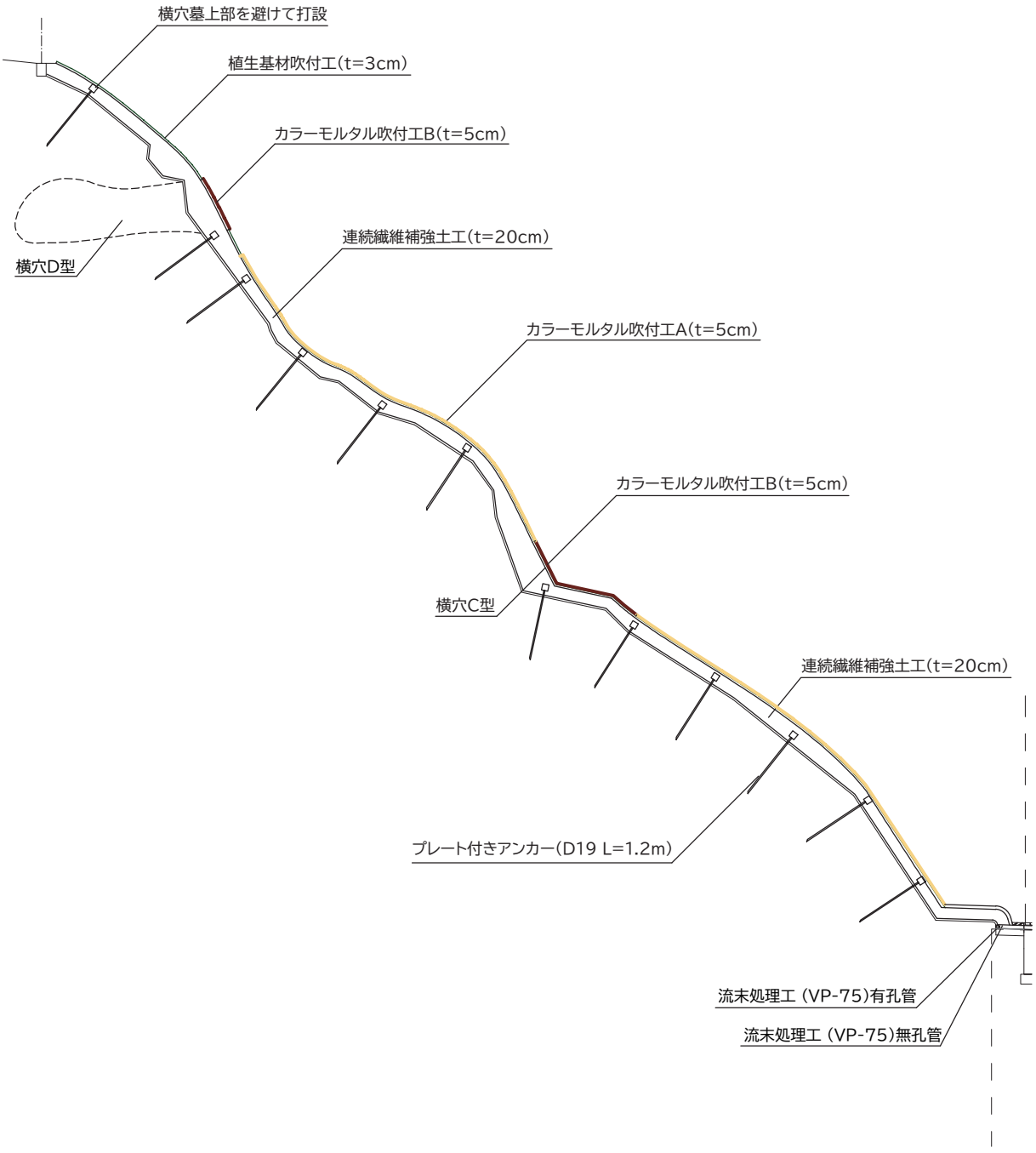
※図中の法面勾配は、工種毎の平均法面勾配を示す。



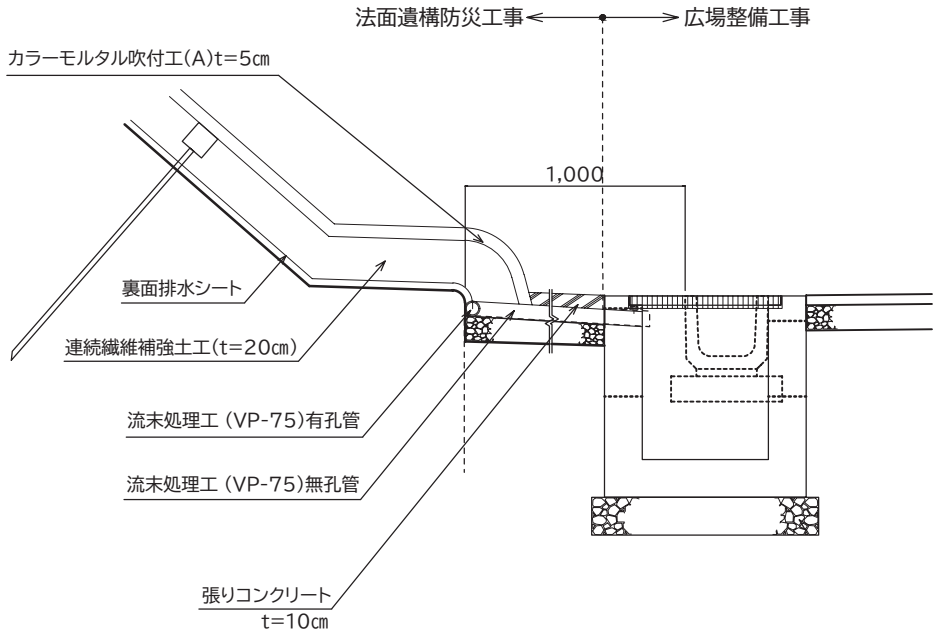
第 53 図　法面断面図 3（1/200）

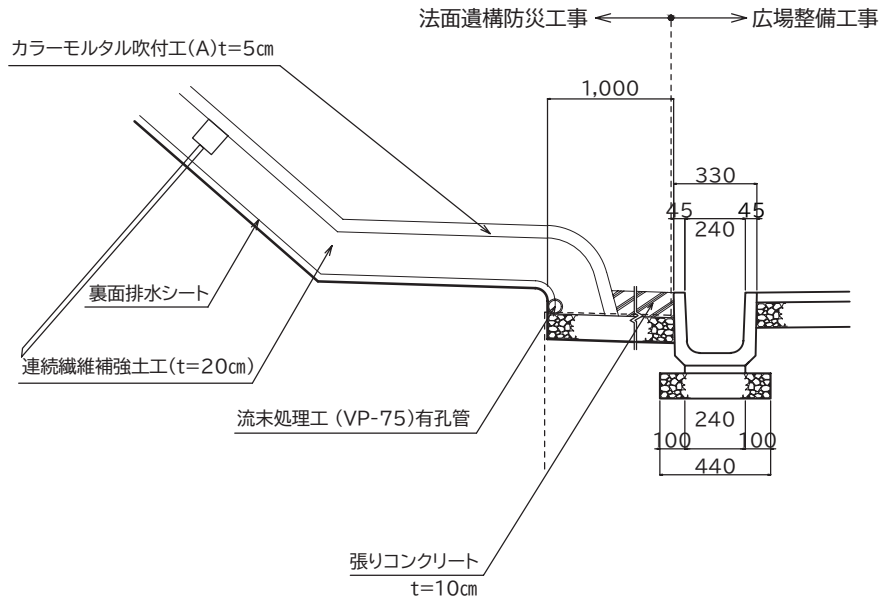


第 54 図　法面標準モデル断面図 1 （1/100）



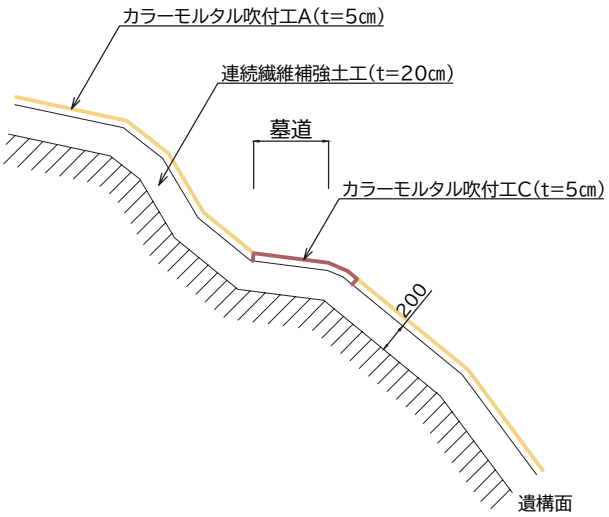
第 55 図　法面標準モデル断面図 2 （1/100）



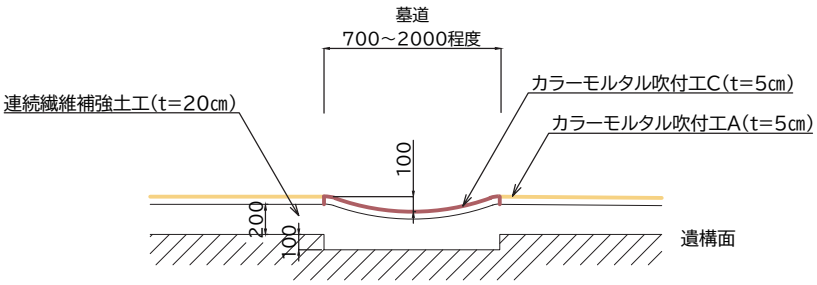


第 56 図　法面接続部・U 字側溝詳細図（1/30）

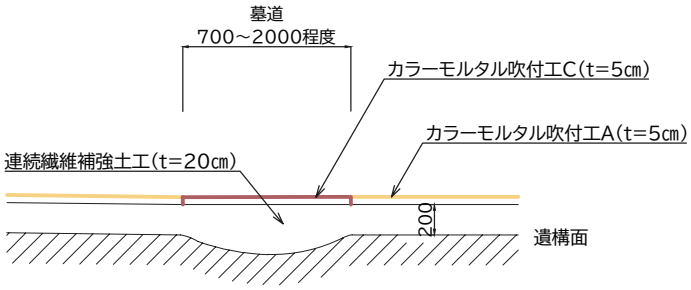
墓道部モデル図　横方向



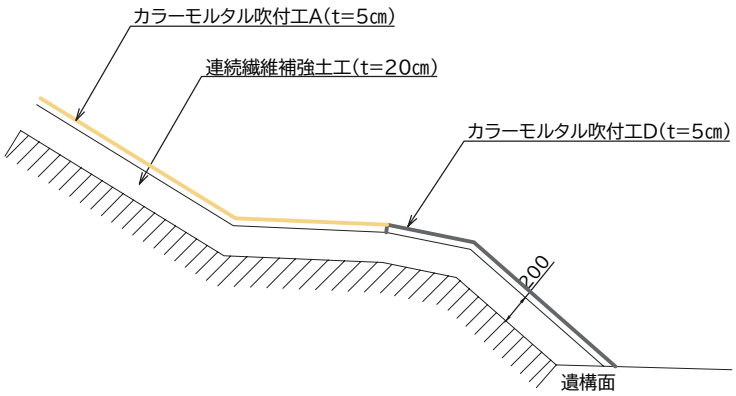
墓道部モデル図　縦方向A型
（墓道面が10㎝下がりの場合）



墓道部モデル図　縦方向B型

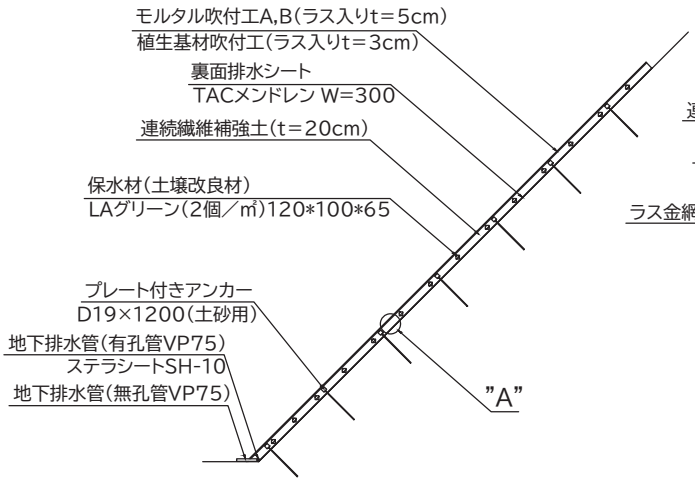


岩部モデル図

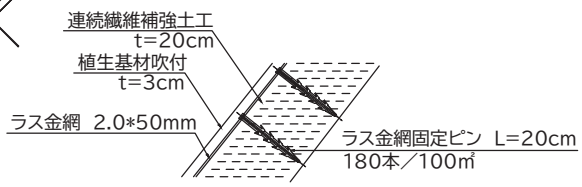


第 57 図　連続繊維補強土工モデル図（1/50）

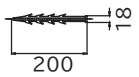
標準横断図 S=1/200



"A"詳細図 S=1:40

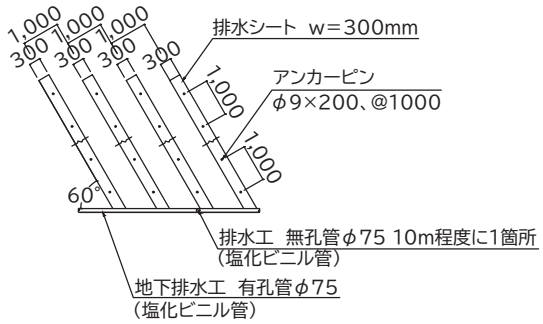


ラス固定ピン S=1/20

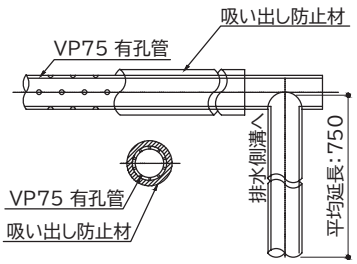


排水シート敷設標準図 S=1/200

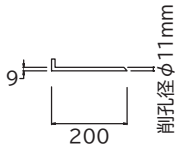
[一般部] 設置間隔 ctc1.0m



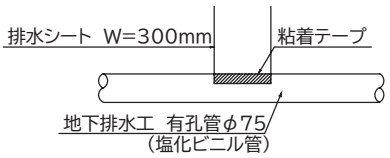
地下排水材 S=1/20



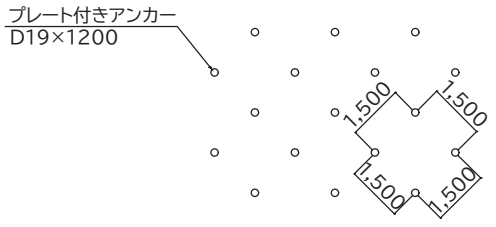
アンカーピン S=1/20



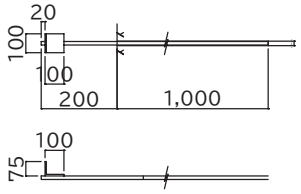
接続部詳細図 S=1/100



プレート付きアンカー標準配置図 S=1/200



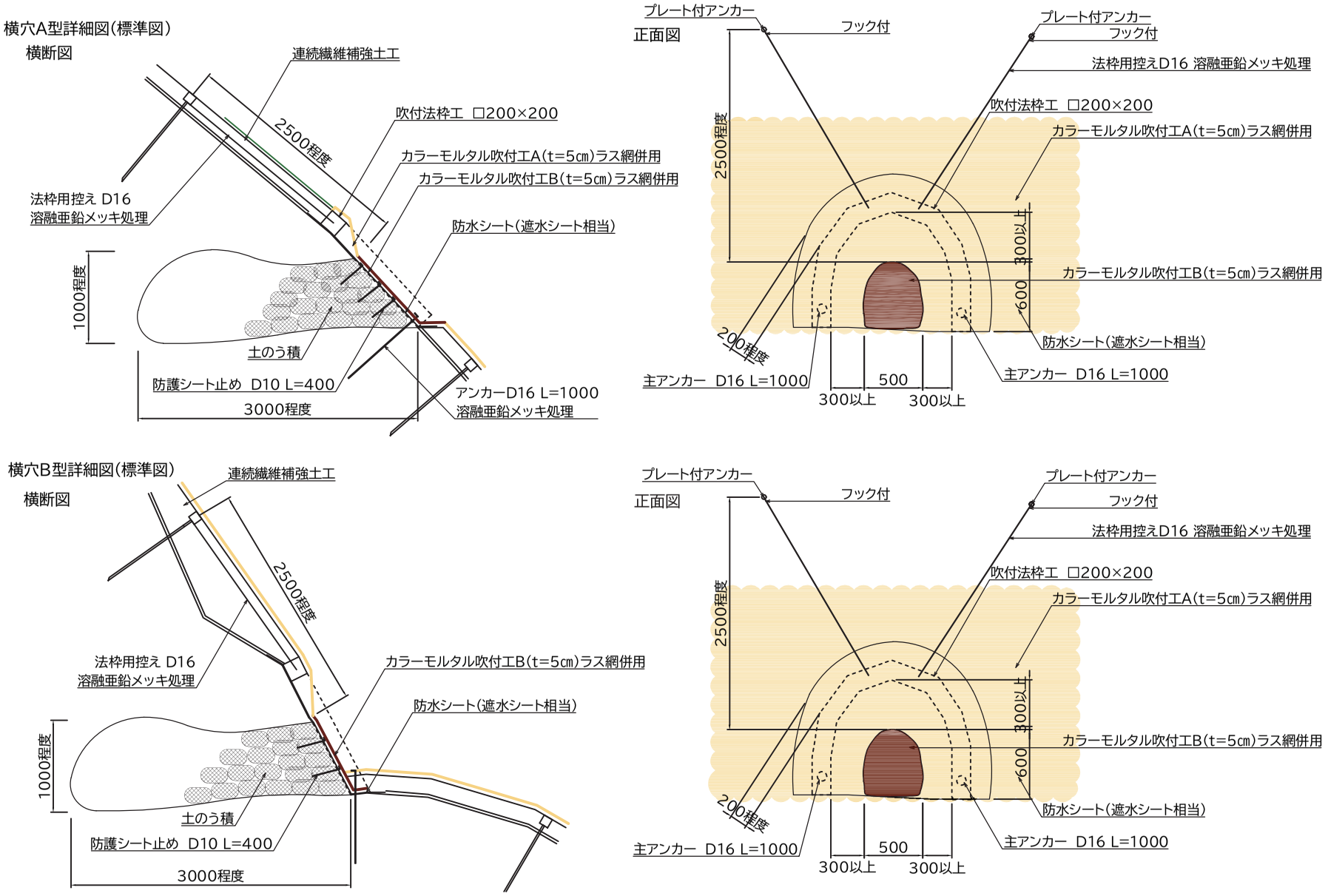
プレート付きアンカー詳細図 S=1/40



注)羽根付きとし連続繊維補強土のずれ止め機能も兼ねる。
溶融亜鉛ﾒｯｷ処理する。
等辺山形鋼(羽根)の溶接は、フレアK型グループ溶接とする。

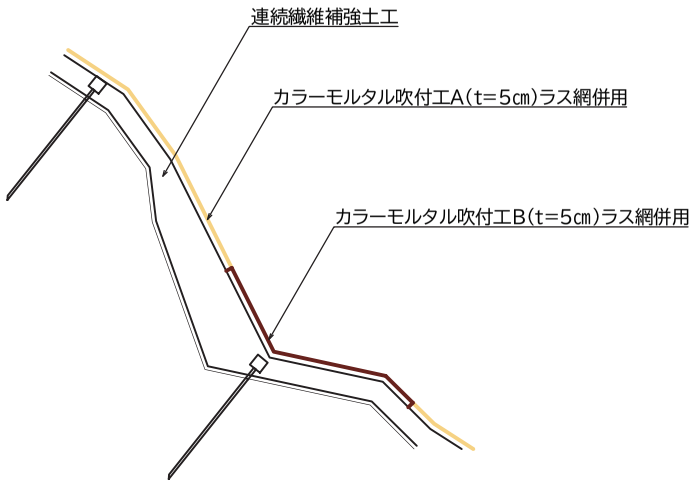
第 58 図 連続繊維補強土工構造図 (1/200 ほか)

第 59 図　墓道表記位置図（1/300）

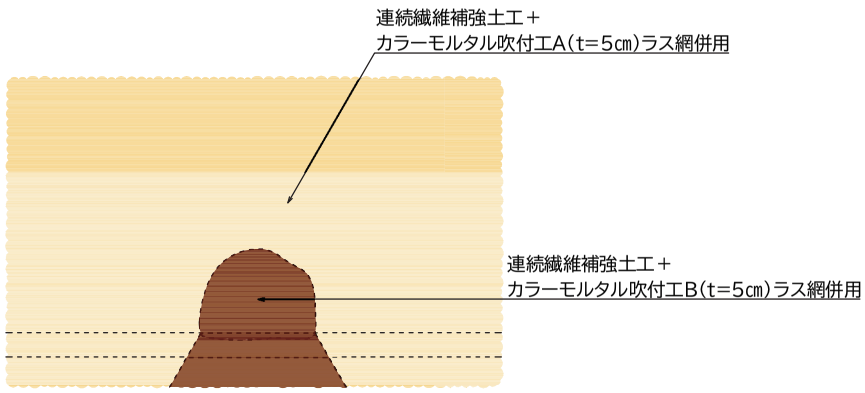


第 60 図 横穴墓（A・B 型）詳細図（1/50）

横断図

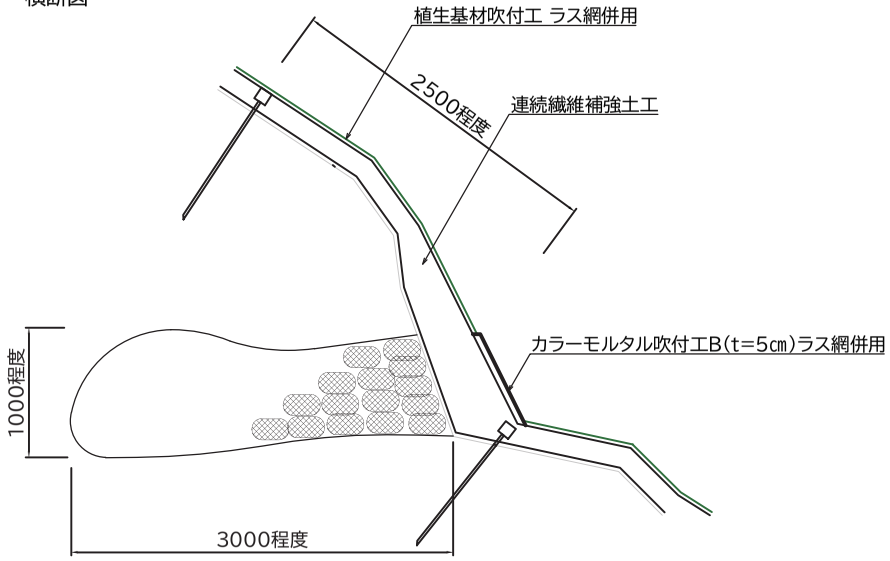


正面図

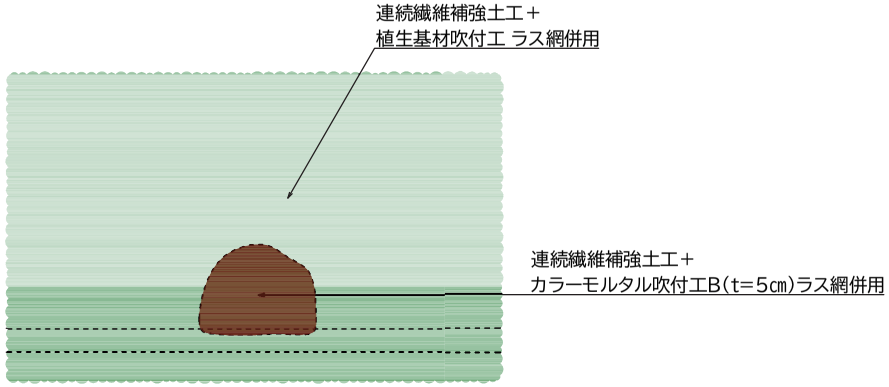


横穴D型詳細図(標準図)

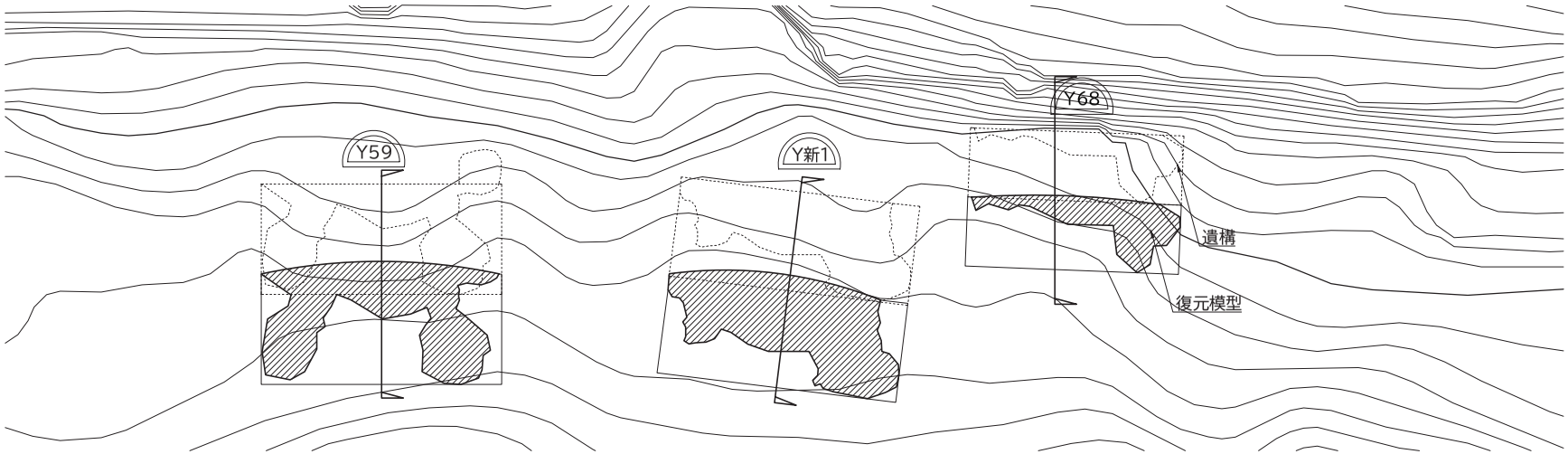
横断図



正面図

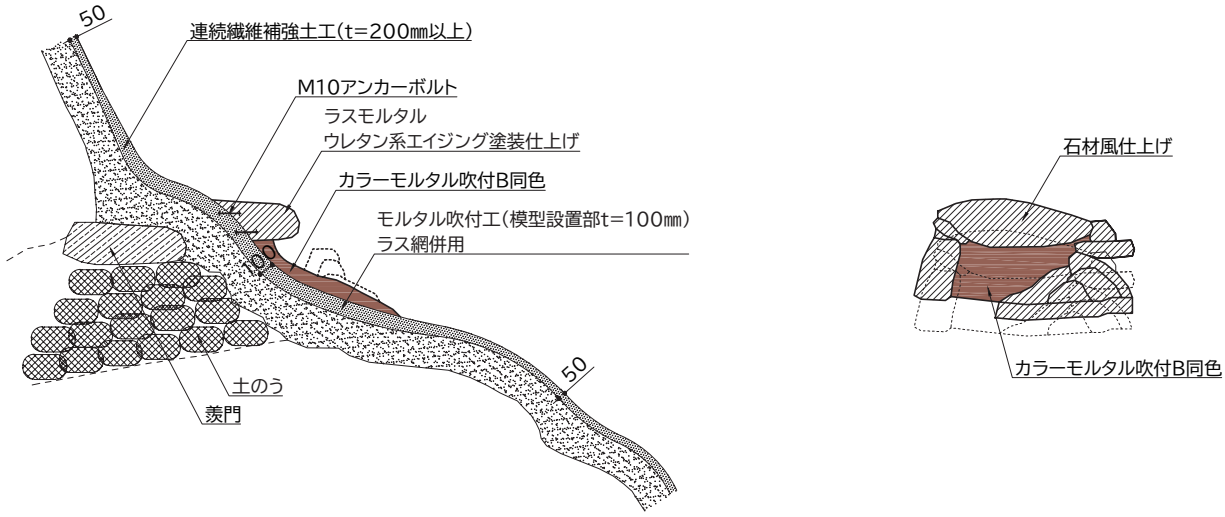


第 61 図　横穴墓（C・D 型）詳細図（1/50）

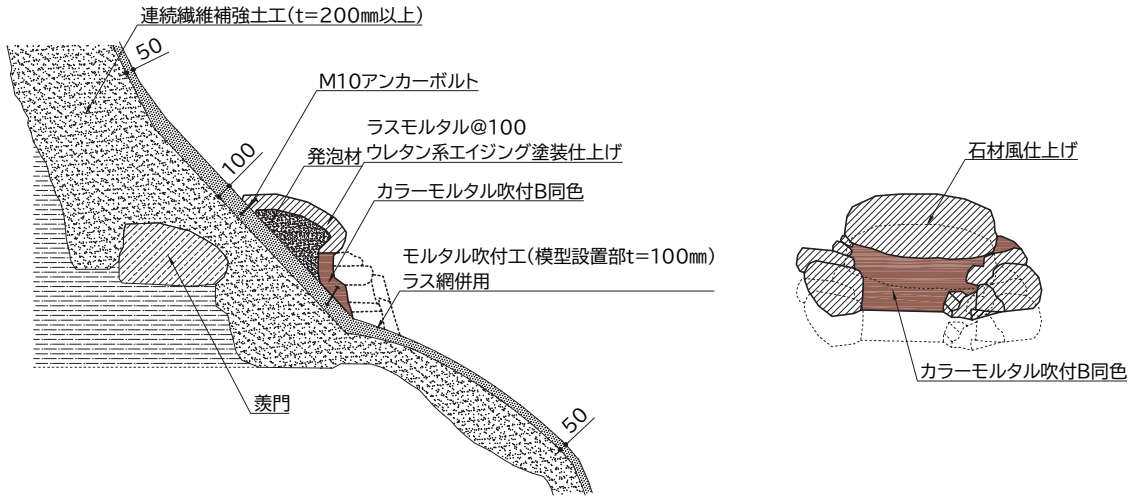


第 62 図　横穴墓模型（Y59・Y223・Y68）配置図（1/50）

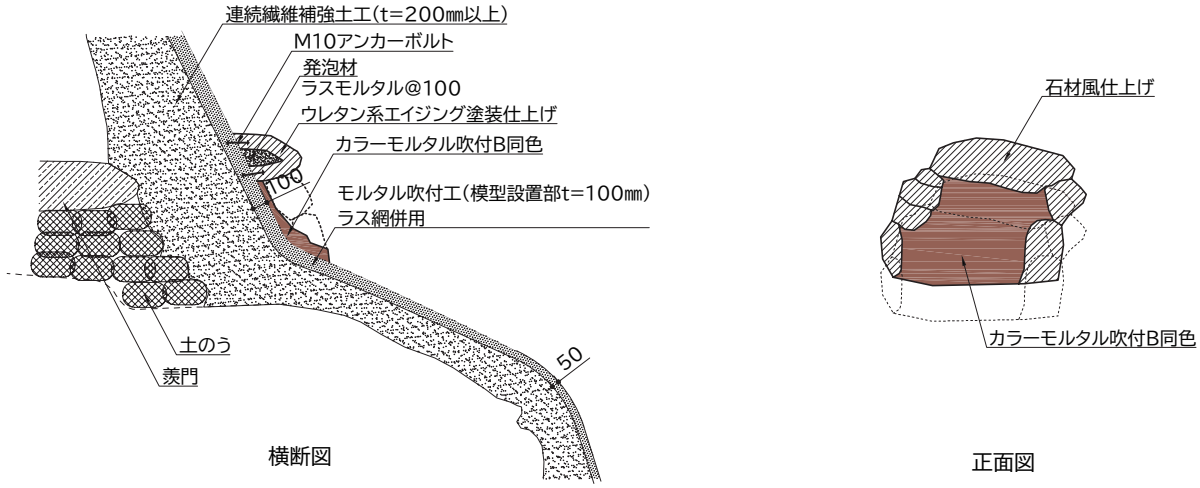
横穴模型(Y59)詳細図



横穴模型(Y新1)詳細図



横穴模型(Y68)詳細図



横断図　　正面図

第 63 図　横穴墓模型（Y59・Y223・Y68）詳細図（1/50）

Ⅳ おわりに

1. 保存整備工事の成果

(1) 敷地造成と斜面保護盛土・広場整備工事

本来宅地であり、住宅に付随する構築物などが多く存在していた。公有地化を行い、家屋の移転が進んだため園路整備や解説のための施設の整備を多なうことができた。また、史跡地内の家屋は急傾斜地である丘陵斜面に隣接し立地していたため、斜面崩落による危険性があった。整備の過程でこれら危険性についても取り除くことができた。横穴墓の立地していない斜面下部は押さえ盛土により斜面崩壊を防ぐこととしたが、この保護盛土のおかげで盛土の天端が通路として活用でき法面の遺構の分布をより近くで観察できるようになった。

(2) 展示施設新築工事

今回の整備範囲で確認した横穴墓については、保護層により埋戻し、現状保存の方針を取った。そのため、横穴墓の構造等を間近に観察することができなくなった。ガイダンス施設として解説板だけでは不十分であると考えられたため、原寸大の横穴墓のレプリカを作成し史跡地内に設置することとした。レプリカの対象は遠賀川流域の特徴でもある羨門部の石組を持つ横穴墓を選定した。素材には GRC（ガラス繊維補強セメント）を用い石材の質感を再現した。レプリカは羨門部の構造を間近に手を触れ、観察でき、2 か所設置した窓より内部の構造も観察できるようにした。このレプリカの設置により、横穴墓の構造や大きさなどのイメージをつかむことができるようになった。

(3) 法面遺構防災工事

今回遺構の保護に関し、ジオファイバー工法（連続繊維補強土工法）を採用し保護盛土を形成、顔料を混ぜたモルタル吹付による遺構の位置表示を行った。この工法は横穴墓では初めての採用であり、前例がないため色の配合等では試行錯誤の連続であった。何とか横穴墓、墓道、地山を表現することができ、重層的に分布する城山横穴群の横穴墓の状況を感じられるようになった。整備範囲内にある羨門部の石組を持つ横穴墓に関しては、モルタルの仕上げ面に羨門部の模型を設置した。

2. 今後の活用と課題

(1) 今後の活用について

整備基本計画の中で、基本理念として「全国屈指の規模と密集度を誇る城山横穴群、その魅力を発信し、そしてふくちの誇りとなる」と設定した。この基本理念を実現するために、活用の柱を下記の二つと考えている。

1) 町民の憩いの場

城山横穴群の開園以後多くの人が見学に訪れている。中でも朝夕に園路を使い散歩をする町民の方が多い。中には病後のリハビリを兼ねて、盛土天端の通路へと登る階段を上り下りする人も見られる。放課後には児童、生徒の姿も多く見られる。このように日常の生活の中で使用されることは非常にありがたいことだといえる。

2）学習の場

令和２年度末に児童、生徒用のパンフレットを作成し、小学校４年生以上に配布した。今後は、小・中学校の地域学習などでの見学や野外での学習活動の場として利用されることを目指していきたい。

（2）今後の課題

1）保存整備事業に関して

①全体の課題

今回の保存整備事業では範囲を区切り整備を行ったため、史跡地のほとんどは未整備である。今後、遺構の崩壊防止、立竹木の整理など長期的に観察し適切に管理していく必要がある。

②斜面の保護盛土の課題

令和元年度に施工した斜面下部の押さえ盛土であるが、雨水の影響により２度崩落が起きている。整備検討委員会の末次委員より、「表層の崩壊ではなく、雨水が浸透し内部より崩落が起きている。」との見解をいただいている。現在盛土の上部は舗装とコンクリートで覆われ、雨水が浸透することは少ないものの、ここ数年の梅雨時期の降雨量は激しく注意深く経過観察を行う必要がある。異変を速やかに把握するため定期的な見回りや点検が不可欠である。

③法面のジオファイバー工法の課題

完成後の写真でも確認できるが、モルタル仕上げ面に数条の黒い線が目視される。これはモルタルの吹付幅の単位であり、施工業者より「網にぶら下がり吹付を行うため幅は限られており、つなぎ目が乾燥の具合等で筋になる。技術的な限界である。」との見解を得ている。しかし、見学者よりは黒く見える筋に関して質問や、景観上問題があるとの声が寄せられている。

横穴墓の表現について、一部分かりにくいとの意見もいただいている。今回の保存整備事業では、何度も試し吹きを行い主に色分けによる表現を行ったが、もう少し表現について工夫できなかったのか経年変化等を含めて検討課題である。

横穴墓の表現や前述の黒い筋などは、色や凹凸での工夫、今後の手順の見直し等で改善できる可能性もある。この工法は横穴墓では初の採用例であるため、先行例となり比較対象がなく、他に方法があったのかは不明であるが他の史跡等で採用される際の参考となれば幸いである。なお、経年変化等は城山横穴群の事例が他の史跡整備に影響を与える可能性もあり、注意深く観察を行っていく必要がある（コラム参照）。

2）活用の課題

①住民の憩いの場

日常的に行き来している場所が地域の歴史を語る史跡であることを知ってもらう工夫が課題である。

②学習の場

小・中学校の授業で活用を図るため、地域の歴史を知ってもらう場にするために、生涯学習の機会を通じ地域住民をはじめ福智町へ往来する人々への働きかけが必要である。

写真 148　城山横穴群全景（北から）

写真 149　城山横穴群と香春岳（西から）

写真 150　城山横穴群整備状況全景（南西から）

写真 151　城山横穴群法面遺構整備状況（南西から）

写真 152
南側広場整備状況（南西から）

写真 153
展示施設整備状況（北から）

写真 154
サイン等整備状況（南西から）

写真 155
遺構・園路整備状況 1（西から）

写真 156
遺構・園路整備状況 2（南から）

写真 157
解説板整備状況（西から）

写真 158
園路整備状況（北から）

写真 159
園路の動線（北西から）

写真 160
駐車場整備状況（北東から）

現場紹介　史跡城山横穴群保存整備工事（法面遺構防災工事）※国指定史跡の工事

九州支店　恵良桂司

工事諸元

作業所名：史跡城山（しせきじょうやま）
工事区分：SP　法面防護
工事場所：福岡県田川郡福智町金田 731 ほか
工　　期：2020/9/24～2021/3/12
発 注 者：福岡県福智町
請負金額：33,896 千円（税別）
工事数量：連続繊維補強土工（t=20cm）：834m2、
　　顔料入りモルタル吹付工（t=5cm）：628m2、
　　植生基材吹付工（t=3cm）：206m2、
　　模型製作工（横穴墓入口）：3 基
主任技術者・現場代理人：恵良桂司
工事長：林田宏

▲施工前の状況

工事場所・工事について

福智町は福岡県の中央部、田川郡の北端に位置し、遠賀川の支流である彦山川と中元寺川が流れている自然豊かで穏やかな盆地です。有名なものとしては、400年の伝統を誇る「上野焼（あがのやき）」があり、陶芸の里となっています。また、「かもめの水兵さん」「うれしいひなまつり」などの童謡を作曲した河村光陽さんの生誕地でもあります。工事場所は町役場から 500m 南側の丘陵地にあり、西側斜面において 200 基以上の横穴墓（よこあなぼ）が確認されています。頂部は現在でも墓地となっており、数十体の墓石が並んでいます。この工事は、2014年に国指定史跡となった「城山横穴群（じょうやまよこあなぐん）※」周辺整備工事の一環として、斜面を保護するとともに、当時の状況を再現し史跡公園として一般公開することを目的としています。

工事は、１．ジオファイバー工法の法面保護タイプ（20cm）を築造し、２．表面には顔料入りモルタル（4 色）を吹付け、再現装飾を施します。３．外周の表土再現部には植生基材吹付（3cm）にて緑化します。最後に横穴墓入口模型（3 基）をモルタル上に製作を行いました。

工夫した点・苦労した点

斜面全体が文化財という事で、地山に直接セメント分を付着させることが NG とされています。そこで、地山～モルタル間の緩衝材としてジオファイバー工法が採用となりました。ジオパウダーは使用していません。このような目的でのジオファイバー工法は初めての経験でした。

▲完成後

更に、顔料入りモルタルで当時の状況を再現するという仕様も、新しい試みと言えます。

下地処理でプレート付きアンカーを約 400 本打設しましたが、全数立会が必要でした。横穴墓への貫通を避けるための配慮でしたが、施工が進まず工程への影響を心配しました。

それから、モルタルの色を決定するに当り、4 色（茶 2 タイプ・黄・黒）の顔料で吹付試験を 3 回行い、計 11 配合の中から決定しました。

顔料入りモルタルに色ムラが出ないように、顔料の計量は 1g 単位で行い、砂との撹拌時間を確保するために強制練りミキサーを追加配置しました。

模型製作では毎日立会を行い、設置場所・形状・塗装状況を

見本写真と比較しながら現状再現を追求しました。横穴墓の入口（羨門）は土嚢にて閉塞しているものの、内部（玄室）は残されていることから、斜面移動時は極力現状を傷めないようにし、アンカーピン打設時には十分離隔を取る等の注意を払いました。

また、文化財保存工事とはいえ墓地内での作業であるため、神主によるお祓いを行い、故人への畏敬の念を示すとともに工事安全を祈願しました。これまで、文化財の斜面保護や土構造物の再現としてジオファイバー工法が採用される事例はあると思いますが、今回のように当時の状況を再現することにチャレンジできたことは良い経験でした。出来栄えについては、保存委員会等で話し合われることになりますが、機械施工による4色装飾の割にはきれいに出来たなと思っています。当初から懸念されていたクラックですが、現状はほとんど見えません。今後の経年観察が楽しみです。

▲施工状況（繊維補強土築造）左遠景、右近景

▲国史跡　城山横穴群　公開告知ポスター

城山横穴群（じょうやまよこあなぐん）について

・・・

福岡県福智町に所在し、６世紀前半～７世紀後半につくられたとされる横穴墓群で、国指定の史跡。

遠賀川(おんがかわ)流域の上流、南北 360ｍほど、東西 100ｍほどにわたり丘陵上に造営され、横穴墓２２２基、横穴墓に伴う墳丘１２基、横穴式石室墳１基が確認されている。

九州では、200 基以上の横穴墓群は、竹並（福岡県行橋市）、湯の口（熊本県山鹿市）、瀬戸口（熊本県菊池市）の４つあるが、城山は分布密度が高く、全国的にも屈指の横穴群とされている。

城山横穴群は、4 月 18 日より一般公開されており、公開されるのは西側の幅４０メートル、高さ１５メートルの範囲で、３１の横穴墓を見ることができ、解説用の写真やパネルなども設置されている。

（※左ポスター参照）

史跡 城山横穴群／福智町（福智町観光案内-ふくち旅）　（※城山横穴群の解説があります）

http://www.town.fukuchi.lg.jp/fukuchi_trip/bunkazai/kuni_shitei/1657.html

※ポスターの掲載については、福智町埋蔵文化財センターに許可をいただいております。

報　告　書　抄　録

ふりがな	しせき　じょうやまよこあなぐん
書名	史跡　城山横穴群
副書名	福岡県田川郡福智町所在横穴群の保存整備事業報告
シリーズ名	福智町文化財調査報告書
シリーズ番号	第 6 集
編著者名	福智町教育委員会
編集機関	福智町教育委員会
所在地	福岡県田川郡福智町赤池 970-2　TEL 0947-28-9111　FAX 0947-28-9112
発行年月日	2021 年 6 月 30 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査要因
じょうやまよこあなぐん 城山横穴群	ふくおかけん 福岡県 たがわぐん 田川郡 ふくちまち 福智町 かなだ 金田 715-1 他	40610	870002	33 ° 40 ′ 42″	130 ° 46 ′ 47″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城山横穴群	横穴墓	古墳時代	横穴墓		我が国有数の規模を誇る横穴墓群

要約	史跡指定後、平成 28 年度には保存活用計画を策定し、平成 29 年度から保存整備事業を行ってきた。本報告は保存整備事業の取り組みとその成果をまとめたものである。

史跡　城山横穴群

福岡県田川郡福智町所在横穴群の保存整備事業報告

福智町文化財調査報告書第6集

令和3年6月30日

発行　福智町教育委員会

〒 822-1101　福岡県田川郡福智町赤池 970-2

印刷　株式会社　修復技術システム

〒 812-0023　福岡県福岡市博多区奈良屋町 5 番 10 号